

## ● 德光太次郎氏 (余市町)

德光太次郎氏は余市の政治家なり道會議員に擧げらるゝ前後二回曾に名聲小樽支應管内に普ねきのみならず又道會一方の雄として推さる德光氏文久三年を以て檜山郡五勝手村に生る家代々漁業を以て立つ明治の初年余市に轉じてより益々漁業を擴張す氏資性働能く人を容れ加るに頭腦明敏其手腕の鋭嶄然同業を抜き余市の難事氏之が解決の衝に當らざるなく年と共に名聲を馳す殊に力を公共事業に濺ぐの篤き總代人時代より余市町政の發達に貢献したるのみならず澤町小學校新築に二百十二圓餘を寄附し電信線架設に四百二十圓餘を寄せ余市郡春部村より川村字濱中に通ずる道路開鑿費に百七十餘圓を寄附する等他幾多の事業に資を寄せたる數百件銀杯木杯褒状の下賜等數ふるに暇あるなし是を要するに德光氏は小なる余市人士に非ずして大なる國士なり氏活躍の舞臺の大なるは當然なり道會議員として其選を變せざる又以て氏潛勢力の大なるを知るべし氏漁網を經する六統別に尤も進歩せる漁法トロール漁業を開始し卒先同業の有利有益を公衆に示さんるを期す政治家としては道會一方の雄として推され漁業家としては新智識を斯界に貢献するの名士として知らる偉なる哉德光氏や氏寔に傳ふべきなり。

## ● 笠島貞治氏 (余市長)

十一州の地町村其の數多しと雖も自治の主腦者たる町長に新智識に富む農學士を仰ぐもの唯た一余市の地あるのみ然り余市町長笠島貞治氏は札幌農科大學出身の農學士なり校を出で助教として教鞭を執りしも郷黨の請意急にして默止すべくも非ず遂に推されて町長と成る就任以來月尚ほ淺ふして未だ治蹟の傳ふべきなしと雖も笠島氏の余市の將來に資するの多き豈に識者を埃んや由來余市の地模範町村の稱あり自治制施行せらるゝや余市の元老中村源兵衛氏推されて第一期町長となり町政圓滿成績良好些の失態なかりしも森重支廳長時代區々たる干渉を試み中村氏の辭任を餘議なくせしむるや田中氏代つて町長たりしも當時已に一朶の暗雲は余市町政を掩ひ派を樹て黨を爲し町政を左右せんと欲するの輩あり田中町長の刑餘の人と爲つて辭任の止むなかりし物又一派の陷奔に出つとさへ傳へられ後任町長の選任漸やく其の難を來さんとし模範町村茲に私黨の跳躍を來さんとするや心ある人士德光氏の家兄笠島義雄氏の息たる氏を煩はして遂に町長たらしめ以て今日に及べり思ふに保守的なる余市の地に氏の如き新進氣鋭家を町長たらしめたる余市元老の意志付度に難からざるべく余市の爲め喜ぶべきなり。



● 中村源兵衛氏 (余市郡山碓町)

中村源兵衛氏は余市前町長聲名なり支應管内に高く勢威ある富豪達識なる實業家



中村源兵衛君

として一人氏を知らざるものなし氏嘉永四年二月を以て檜山郡江差に生れ明治六年居を余市に轉じ依然漁業を経して今日に至る明治十年山碓町伍長を命せられてより郡總代に漁業組合副頭取に銀行監査役に會社取締役に町會議員に徴兵參事員に水産組合副組長に余市町長に擧げらるゝまで卅年一日の如く余市郡の進歩發達に貢献し其功勞の大比肩し得るもの少し四十一年三月日露戰役の功に依り勳七等を授けらる氏の如きは寔に終始ある國士と謂つべき也。



小黒濱藏如



小黒濱藏如令圖





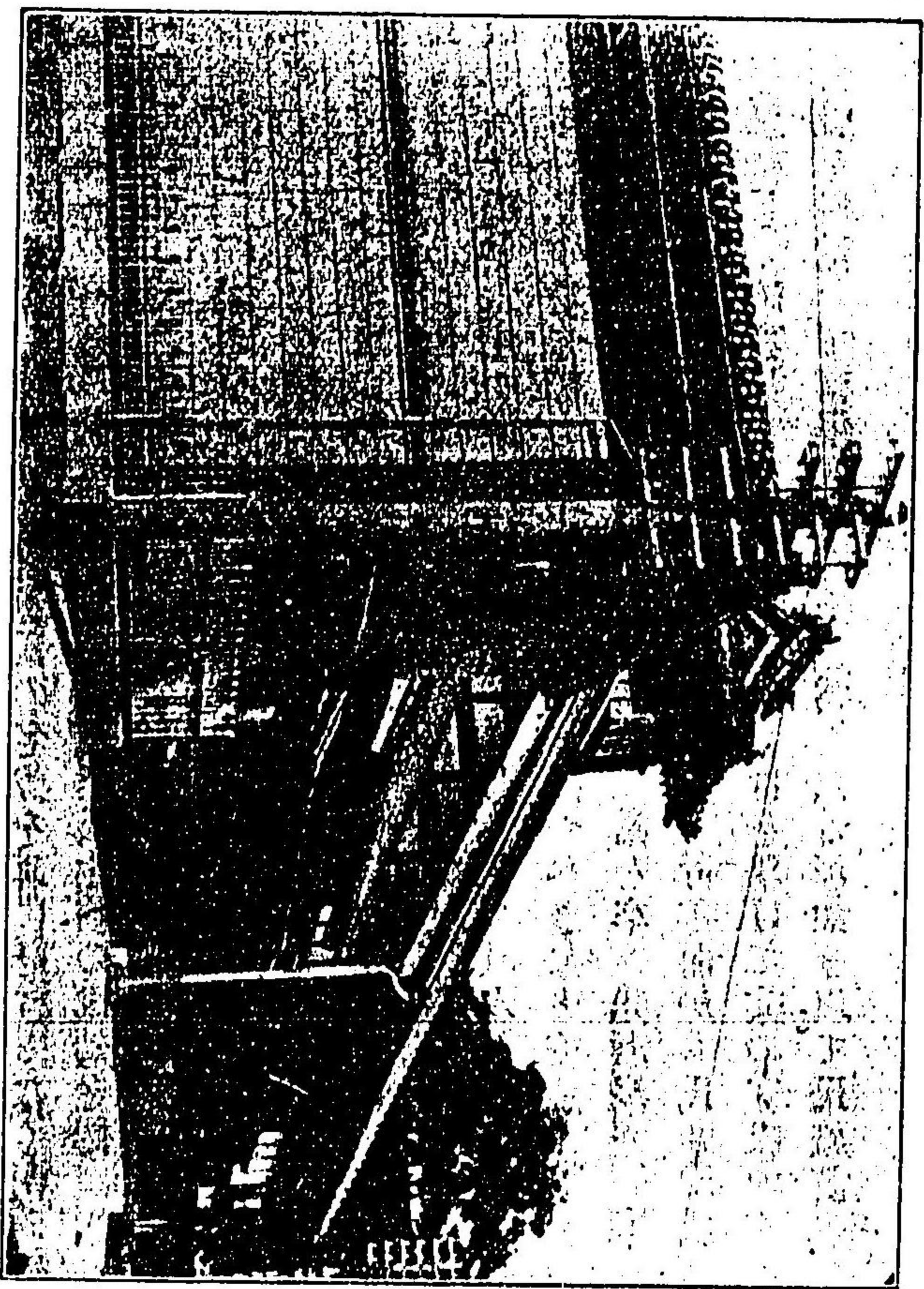
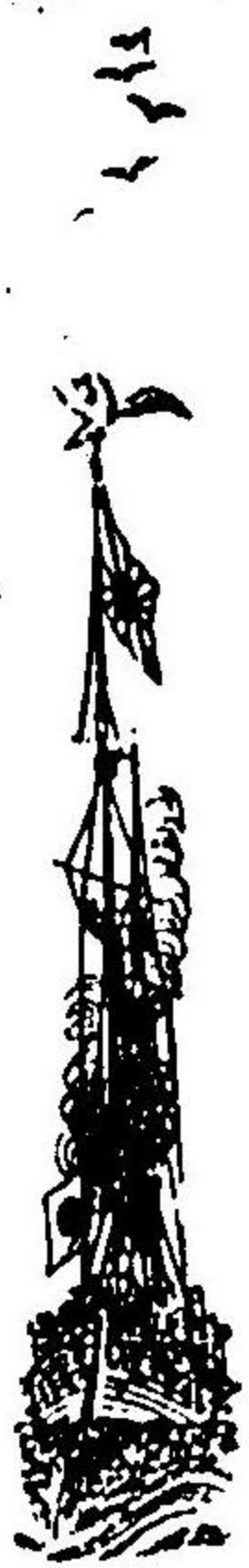
小 黒 市 藏 氏 君

● 小 黒 市 藏 氏 (余市町湯内村)

小黒市藏氏は有名なる余市の漁業家小黒濱藏氏の長子なり小黒家の先代吉藏氏江差五勝手村の漁業家小黒嘉衛門氏に仕へ支配人として小黒家に盡す多年嘉衛門氏深く其の功勞を多とし慶應年間吉藏氏の余市湯内に獨立するに當り山々の屋號と小黒の姓とを分與して其の功勞に酬ゆ自來綿々漁業を經し資産と名望とを以て知らるゝ現在を來せり是を聞く先代吉藏氏任俠克く人を援助し慈善克く世を救ひ篤行令名闔郡に高く其の白玉樓中の人となるや一人痛惜の涙を濺がざるなかりしと云ふ現代濱藏家督を承ぐに當り一大發展を畫し漁網統數を十一統と爲し内九統を居村湯内に建て、是を直營し二統は之を北見の地に經營す年々の施設一も過たず大發展を畫してより今日に到るまで廿ヶ年餘未だ一度も不漁を來したるなしと云ふに至つて稀有と云ふべきなり濱藏氏又先考吉藏氏の意を體し任俠慈善の爲め財を散するを吝まず小黒家一門の士にして濱藏氏の爲め衣食を給せらるゝ者十餘戸に及ぶと云ふ濱藏氏や管に任俠慈善なるのみならず力を公共に盡し余市町政の發達に貢献したるの功と勞と一人之を仰がざるなく總代人時代より町會議員たるの今日に至るまで依然として町會の重鎮として推され名聲噴々たり市藏氏斯くの如き名門に生れ此の如き父に教へられ幼時己に池中の物たらざるの慨あり少壯笈を仙臺に負ひ商業學校に入り



蟹雪の苦多年其の業を卒へ商家に商客を按ず蓋し市藏氏の商界に志たるもの漁業家  
 と雖も商業を知らざるべからず鯨相場の高低をすら案する能はざるが如きは真正の  
 漁業家にあらずと爲すに依る何等の卓見ぞ何等の識見ぞ市藏氏の明敏以て其の一般  
 を了すべきに非ずや己にして市藏氏商界の消息を解する深きに至つて歸家し直に漁  
 夫となり船頭の勞に服し親しく漁撈の實地に就いて研鑽し啓發する處少なからず優  
 に漁業家たるの見地を養ふ市藏氏炯眼早くも鯨漁業の衰退を看破し其の不漁を補  
 ふに足るの有望漁業を發見せんとし苦心幾多の實驗を重ねて鮪鯨大謀網の有利なる  
 を知り四十一年鮪漁に着手せしも不幸好結果を得ざりしも氏所信を抛たず偶々土佐  
 人某氏の數萬金を投じ余市近海に大謀網を使用して等しく失敗に終りし跡に鑑み  
 幾多の改良を企て更に大計畫に着手しつゝありと云ふ吾人は市藏氏見地の非凡にし  
 て其の人格の超越しつゝあるに服するものなり漁業家商業を知らざる可らずと爲し  
 自ら斯學を研鑽し業卒るや直に漁夫となり船頭と爲つて漁撈の實地を習得す資産家  
 の家に生れ市藏氏の如き見地の非凡なる蓋し稀有而かも年齢僅に廿有五歳前途の多  
 望想見に堪えたり



猪股安造氏邸宅



●猪俣安造氏(余市町山碓村)

余市の地を踏むの士にして猪俣安之丞氏の名聲を耳にせざるなく山碓町宏壯の建物其一町四方に繞れる石藏の大建築を見て安之丞氏生前の成效を惚ぼざるはなげん安造氏は英邁斯の如き安之丞氏の長兒にして明治十八年呱呱の聲を擧ぐ先考安之丞氏徳川幕府時代己に郷國越後を辭して余市に漁業を經し個儻の資明敏の才一代克く數十萬圓の産を興し名聲全道に高く一人其名を知らざるなし余市開墾株式會社余市銀行等盡く安之丞氏の創意になり其他卒先私費を擲て余市小樽間に電信を架設して公衆の利便を來したるが如き思に安之丞氏は漁業家なりと雖も又經世の志士たりしなり惜い哉明治卅四年六十一歳を以て永眠されしと雖も其本道漁業界に拓殖界に經濟界に貢獻せられしの功と勞と眞に千載不朽と謂つべきなり安造氏斯くの如き名士を父と仰ぎ東京商業學校より早稻田大學に轉じて業を卒へ先考没後の家政を宰す家は是れ五十萬圓以上の資産家主宰者は是れ壯齡の一青年而かも氏頭腦細密整理の才に長じ其の堅忍にして確實なる一事苟くもせず世を擧げて其の守成の才に服す彼の赤井川開墾會社を解散して猪俣家の直營と爲したるが如き以て氏施設の一般を窺ふに足るべく斯父にして此の子ありと可謂也。

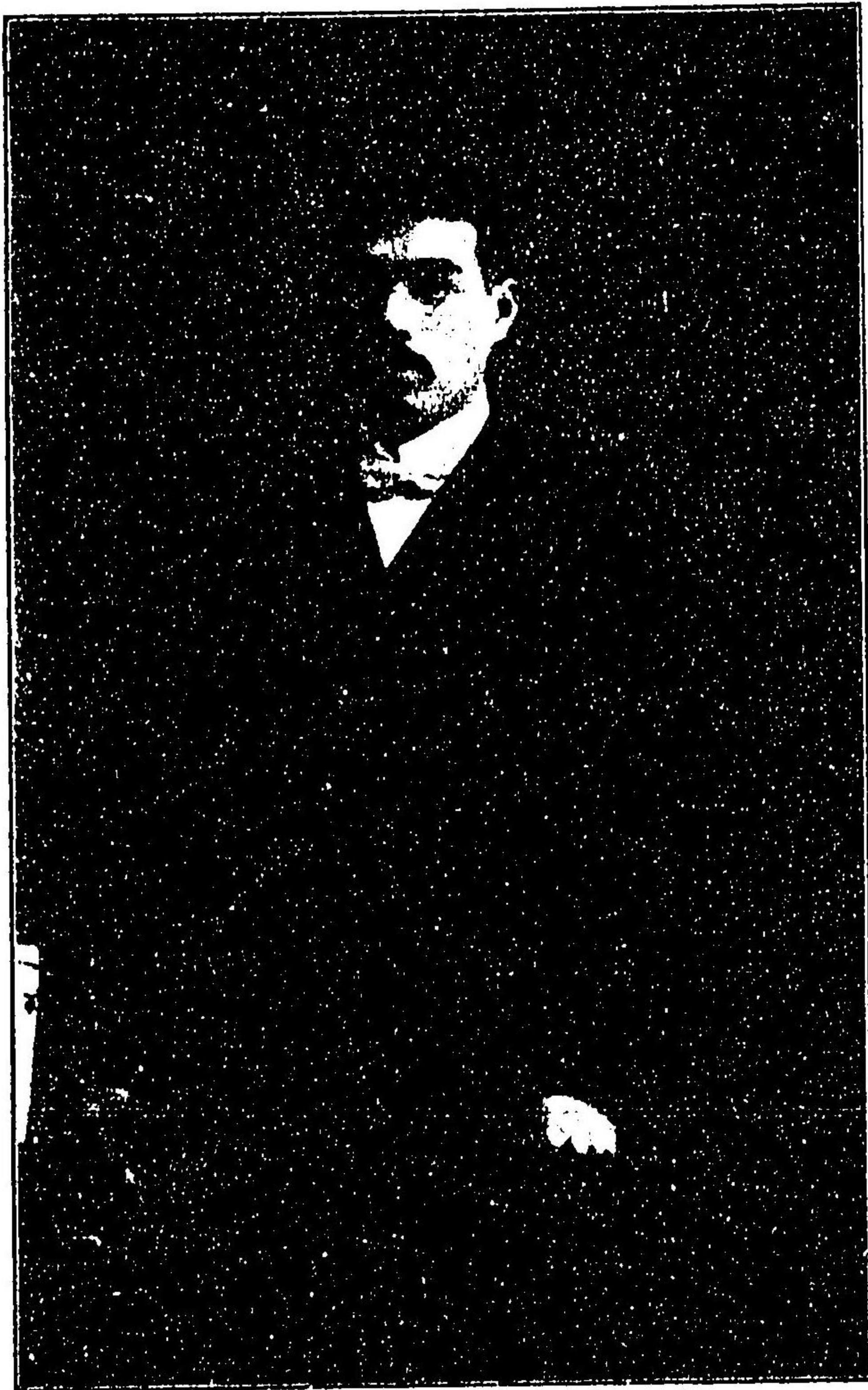


猪俣安造氏と其漁場



●猪股雷道氏(余市町)

猪股雷道氏は有名なる余市猪股家本家の現當主なり猪股家多士濟々一門の隆實に故ありと云ふべきなり雷道氏明治十年を以て本道忍路の地に生る幼時不幸父と死別し家兄安之丞氏に養はる十八歳笈を東都に負ひ東京中學に入り同校を卒業するや更に第一高等學校に入學し更に進んで法政大學に入り螢雪の苦空しからず二十七歳を以て大學を卒業し優才の名噴々たり斯くして氏や大學を出づると共に直に郷里新潟に歸り民間事業を經して飛躍せんを期し同志と共に雷道合名會社を組織し海陸物産業を開始す氏の大學を出つるや是も官海に望みを抱かずして實業界に投じたる其志望の遠大想察すべきなり氏更に亦私立新潟勸業場を組織し養蠶部製糸部林業部を設けて熾んに産業の發達を圖り傍ら又文運に資し後進子弟勉學の援けを爲さんとし柏崎圖書館を設立す好舉此の圖書館今日は縣立と成りて氏の志や不朽となれり斯くの如く氏の盡瘁と幾多の好舉とは氏の名聲と成り德望と成り遂に推されて縣會議員に選はれ其の縣治に貢献したるの功擧げて云ふべからず吾人は雷道氏の名門に生れ毫も其の資産を力とせず獨立敢行巍然として今日あるに服するもの也他幾多富豪の子弟氏に鑒て學ぶ處を知れ。



松本喜代松君



●山本喜代松氏(余市町)

余市の地其の氣風より云ふ是れ保守的守舊の地俗醇朴なりと雖も容易に移らず從て新進の慨に缺く斯くの如き地に於いて山本氏の如き少壯にして資力に富み銳氣勃々何事をも革新せざれば止まざるの意氣ある人を見る余市の爲め眞に意を強ふすべき也氏の先考福藏氏英邁雄圖あり福山上ノ國の郷里を出で、余市に鯨漁を経してより不拔の意氣不撓の精勵遂に克く建網十統を營む大漁業家たるを麻ち得たり喜代松氏村齋を出て、より札幌中學に入り進で東都に出で近藤義塾に入り研學三星霜再び札幌に歸り農學校に入學し在學二ヶ年思へらく男子回天の偉業を爲す北米の野に奮闘するにありと慨然北米に航し加洲に留つて形勢を視察す偶々先考病没の飛電來る氏雄圖を擲て歸道家事を宰す時に明治三十五年にして氏年齢僅に二十餘歳に過ぎず而かも氏の炯眼果斷なるを見よ氏は漁業の前途大企摸の經營を不可なりと爲し斷然漁業方針を縮小し所謂千石場所を除くの外他は擧げて之を貸與し自己は數萬金を投じて澤町字百姓澤に數萬坪の牧場を經營す自來氏の炯眼空しからず不漁の爲に蒙る傷痍なく經營の牧場は年々收利を來すに到つて氏の手腕才幹眞に欽仰すべきなり吾人は余市將來の爲め氏の自愛を祈らざるを得ず。

荒木安次郎君 常松君 荒木源作君と其家庭





●荒木源作氏(余市町)

荒木氏は余市に於る有數なる資産家にして又知名の漁業家たり氏青森縣北津輕郡小泊村の人明治五年三月十日先考萬助氏に従ひ鯉漁業の目的を抱き一葉の小舟に乘じ余市郡沖村字湯内チャラツナイに移住してより四十年の辛酸經營遂に有數なる資産家たるを贏ち得たるもの荒木氏眞に立志傳中の人士と謂つべきなり移住當年氏僅に十三歳而かも父を援けて漁業に従事す其意氣己に大人にして氏の尋常の器ならざるを知るべし當時沖村の地たる交通不便にして物資の供給を缺き營に困難なるのみならず年々の不漁と水産物價格の低廉とは幾多の漁業家を破産に葬り氏等父子創業の難眞に言語に絶せりと云ふ然れとも父子毫も屈せず着々經營の歩を進め其達眼なる明治十八十九年の如き凶漁の年に際しては貸漁場を爲して自ら經營せざりしが如き眞に見地に富めりと云はざるを得ず二十年の大漁より爾來一つも其經營を誤らず年と共に産を興し漁場を擴張し三十四年六月山碓町たる現住所を購入移轉し以て今日に及ぶ氏漁場を有する余市に三ヶ所忍路に二ヶ所湯内に一ヶ所而して身は町會議員に水産組合議員に學務委員に衛生組長に推され名聲知らざるものなし荒木氏の如きは眞に奮闘的成效家として傳ふべき也。

●横濱竹藏氏(余市町)

身は町會に列して新進氣鋭の名を博して町政の發達に貢献し漁業家としては漁家の前途に留意し漁村自治の策を講す竹藏横濱氏少壯の身を以てして其の爲す處一に何んぞ夫れ偉なる思ふに漁業地今日の急問題は如何にして漁業の現況を保たんかよりは寧ろ如何にして漁村を維持せんかにあるもの、如し年々の不漁漁村年に萎微す之を救濟するの策如何吾人は横濱氏の玆に留意しつゝ之が策を講しつゝあるを多とするものなり氏は漁家の經濟に資すべく漁村維持の副業として果實栽培を擇び之が殖樹を爲して怠らず爛眼と云ふべきなり横濱家江差に出づ先々代嘉兵衛氏余市を相して永住の地と爲し明治四年移住以來漁業を經す自來着々歩武を進め漁業家として嚴たる家礎を爲す竹藏氏の先考金八氏三十年前二十八歳の壯齡を以てして夭折し氏幼より祖父に育てらる氏今や壯齡三十四歳七年前祖父嘉兵衛氏八十四歳の高齡を以て永眠せらるゝや一家の重責を双肩に擔ひ致々として倦まず網敷二統を經營するの傍ら力を林檎樹栽培に濫き現時五百本を殖樹し益々之を擴張せんを期す蓋し漁村を不漁の窮厄より敏ひ其自治の將來に資せんとするもの本道漁業家の多くの舊套に眠らず達眼氏の鑿に習ひたらんには漁村維持何の病苦もなかるべく吾人は漁業家の多くの氏に學ばんを懲するもの也。



● 中村穂吉氏 (余市郡 澤町)

余市町會に起つては領袖を以て目せられ余市實業界に去嘯しては重鎮を以て知ら

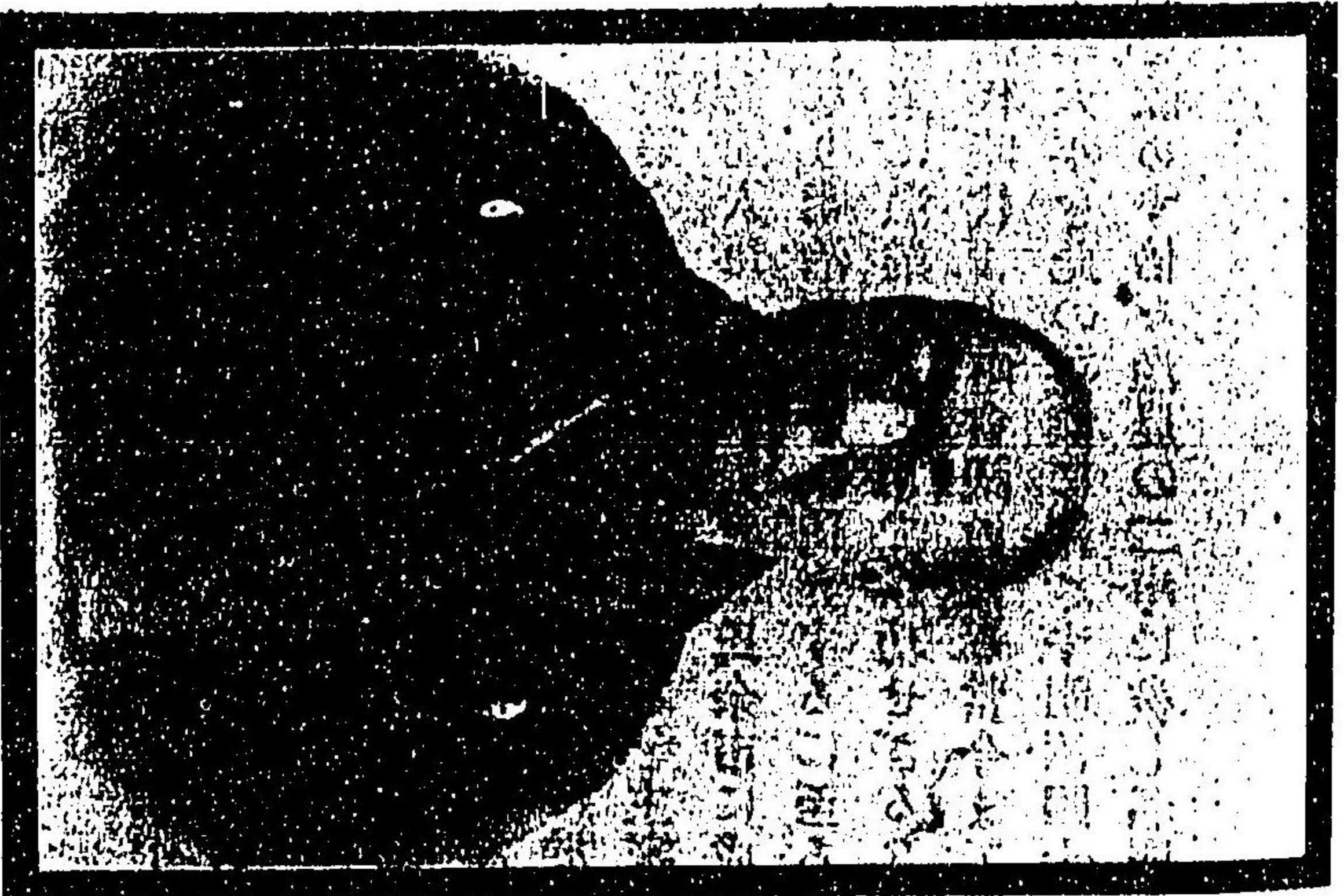


中村穂吉君

る中村氏の一身何んすれぞ夫れ偉なる氏元治元年を以て佐渡國赤泊村に生る明治十一年蹶然起つて本道に航し小樽金曇町松澤吳服店に入りて店務を援く英邁の才忽ち店主の認識する處となり余市に支店の設けらるゝや氏選ばれて余市支店長たり十九年松澤商店閉店と共に中村家の養嗣子となり醬油醸造業を開始し更に海産商を營み別に禮文船泊に漁業を經營す町制實施以來町會議員に擧げられ卓抜の概英邁の才余市町會一方の雄として推され稜々たる風骨人其の威を仰ぐ謂つべし是れ余市の一重鎮と。



中村太壽君

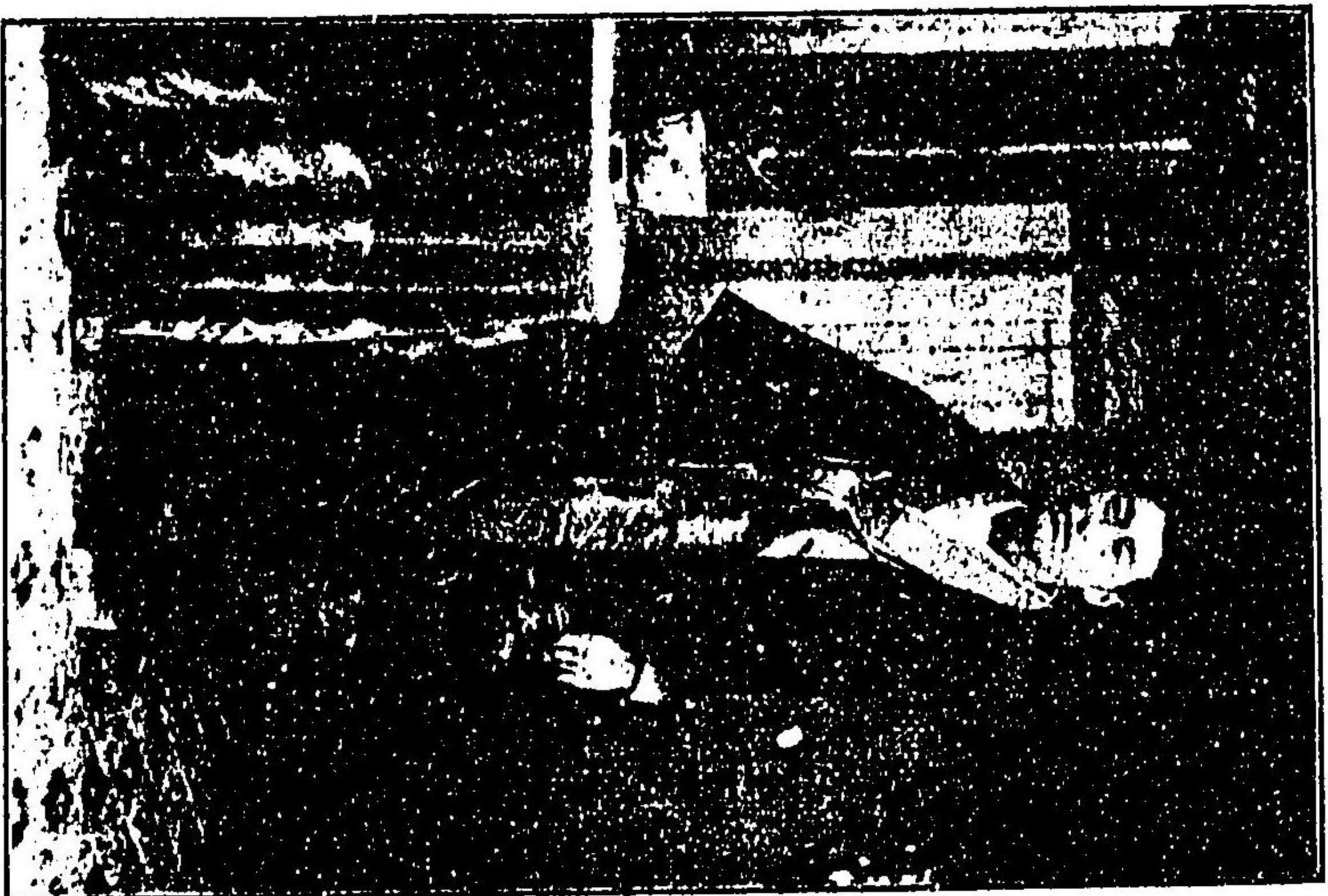


中村五郎君



●中山梅太郎氏(余市町 後中町)

中山梅太郎氏は有名なる余市の重鎮として余市の元老として知られたる故中山安五郎氏の長子なり先考安五郎氏勇邁明達夙に余市に成効して曾に水産組合頭取として英名ありしのみならず余市一郡の有志家として余市の元勳として名聲噴々何人も其の威を仰がざるなかりしの名士たりしなり安五郎氏天保十三年を以て佐渡國羽茂郡赤泊村に生る幼にして穎悟衆童に秀づ年僅に十四歳本道江差に航し仕を澤屋善四郎氏に求めて備に辛酸を嘗むる多年後ち日本形船の監督として江差余市間に於ける回漕に従事し西海岸將來の發達を相し清酒醸造業の有利なるを看破し之を主家に献策し容られて余市に酒類醸造業を營み之れが支配人たり是れ安五郎氏余市に成功を來すの素因にして文久三年中山家の養嗣子となり明治四年分家獨立するに至るまで安五郎氏の精勵眞に傳ふべき有て存す爾來商業に漁業に一として成功せざるなく嚴たる基礎を堅ふし餘力を公共事業に盡し郡總代時代より町會議員たる當今まで間斷なく公職に擧げられ余市重鎮たるに至る不幸天年を此の英傑に籍さず明治四十年八月永眠せらる梅太郎家を繼承して先考の志を改めず倍々漁農の二事に盡し名門愈々人其の威を仰ぐ眞に欽仰せざるを得ず。



横山 福次郎



横山 五郎之丞



●横山福次郎氏 (余市町)

横山家は是れ余市に於る歴代の漁業家なり祖父勘之丞氏より先考福藏氏に傳へられ而して福次郎氏の及ぶ氏年齒今や四十有七歳たる資産余市有數なる漁業家たるを贏ち得祖父勘之丞氏の如き九十四歳の高齡を以てして饒饒尙ほ堂にありて一家和樂春風常に堂に滿つ横山家青森縣小湊町に出づ代々漁業家たり先老福藏氏父と共に十六歳福山に渡航し文久元年更に余市に移轉し漁業に従事し徹々たる刺網を經して次第に其の歩を進め明治七年に至りて遂に建網を建つるの基礎を樹つ福藏氏資性明敏又剛直にして克く家業に精勵し傍ら力を公事に盡し明治十三年より十八年まで郡總代人に擧げられ町村事業の發達に貢献し大に名聲を知らる二十年石狩に鮭漁を開始し從業三年事業失敗に終り大損害に見舞れしも屈せず二十六年更に余市に鮭漁を營み着々功を收めて石狩の失敗を恢復す是れより先き明治二十四年福藏氏白玉樓中の人となり氏家を繼承して此の恢復ありしなり氏又先代よりの漁業の賃貸なりしを慨し斷然所有地處を賣却して漁場二ヶ所を自己所有と爲し自來年々の收利遂に嚴たる横山家を爲す氏漁業の傍ら力を農事に濺ぎ耕作に果樹栽培に着々歩を進め果樹數千本を算するに到る蓋し氏の如きは爛眼なる人士と可謂也。



庭家と郎次三島小



●小島三次郎氏(余市町)

北海の漁業其隆邦土第一と稱せらる然り其實質に於いて其收獲に於いて邦土第一たり思ふに本道漁業の斯くの如く隆盛を來せしも魚族の豊富なるが爲めたるは勿論と雖も又漁船の改良に漁具の改良に漁撈の改良に製造の改良に先人今人等しく力を發明改良に濺ぎ依て以て漁業界の發達進歩に貢獻したる賜物や大なり吾人は漁業界に於る發明家を敬す改良家を尊重す本道漁業界の發展一に是等發明家改良家に俟たざるべからざればなり三次郎小島氏は余市郡内に於る有數なる漁網改良家にして又發明家なり山來漁網の改良進歩は増毛地方其の魁を爲し明治以前管内各地漁業家の尙ほ策網刺網を使用するの時増毛地方の漁業家は己に建網を使用して其便益に浴し自來各地の漁業家漸やく建網を使用するに到れり小島氏は斯くの如き當時より漁網改良に苦心し如何にもして建網より數段優れたる漁網を發明せんと焦慮腐心多年遂に現在の角網を發明し之を漁業に應用し其便益大なるを江湖に示し郡中の漁業家皆な争ふて氏發明の角網を用ゆるに到れり斯くの如く小島氏は余市郡内に於る角網使用の卒先家にして漁網改良の鼻祖たり氏今や高齡六十有一歳而而かも鏗鏘として壯者に譲らず益々漁具の改良に思を寄せ一日の安を欲せず氏の如きは眞に千載不朽の人士と云ふべきなり。

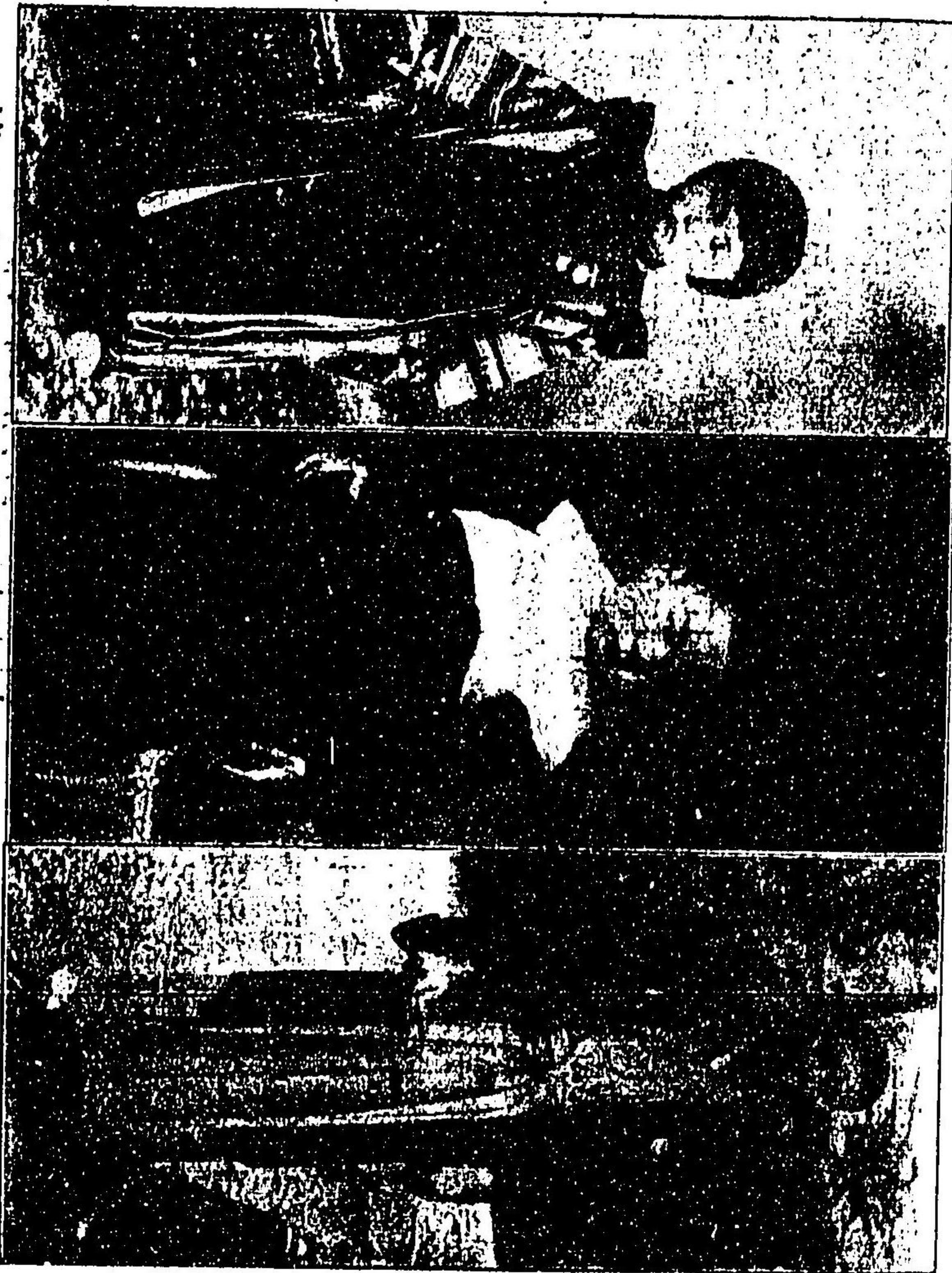


君 造 良 邊 渡



● 渡邊良造氏 (余市町)

良造渡邊翁は余市の元勳にして又元老たり明治四年本道の風色尙ほ混沌たりし當時より余市の進歩發達に貢献し老來七十有二歳の今日に至るまで一日の安を渝まず其の精力の絶倫なる此の一事を以てして己に翁の尋常の器たらざるを知る況んや翁の學殖に富み識見高邁なるに於いて人誰れが尊崇の念に驅られざらんや渡邊氏は會津の人明治二年小樽に航し商業に従事す越へて四年氏の炯眼早くも余市黒川村の農業好適地たるを看破し居を黒川の地に轉じ農耕の傍ら商業を營む黒川の地や氏の着眼空しからず今日は是れ全道有數なる農業地なりと雖も明治四年の當時唯だ見る樹木鬱蒼として天日を掩ひ千歳の荊蕪野に滿ち宛として熊熊の巢窟地氏屈せず有志三十餘名を督勵し伐木に荊蕪の排除に全力を濺ぎしも薄志起葉の氏に窮し一時中止の止むなきあり更に資金を開拓使に仰ぎ官債二千七百元に及びしも氏責任を双肩に擔ひ二十年以上納を以て單獨之を償ひしと云ふ明治十一年居を余市澤町に移し質業を開始す氏又赤井川開墾を企て余市の豪族猪股福原氏と開墾會社を設立し傍ら余市銀行を起して専務取締たり氏今や高齡七十有二歳依然議員の任に町政に盡し鏗鏘として衰へず壯時より全國漫遊の觀察録を編する物七十二卷内會津誌を上梓したるが如き以て翁の風斗を察知すべき也。

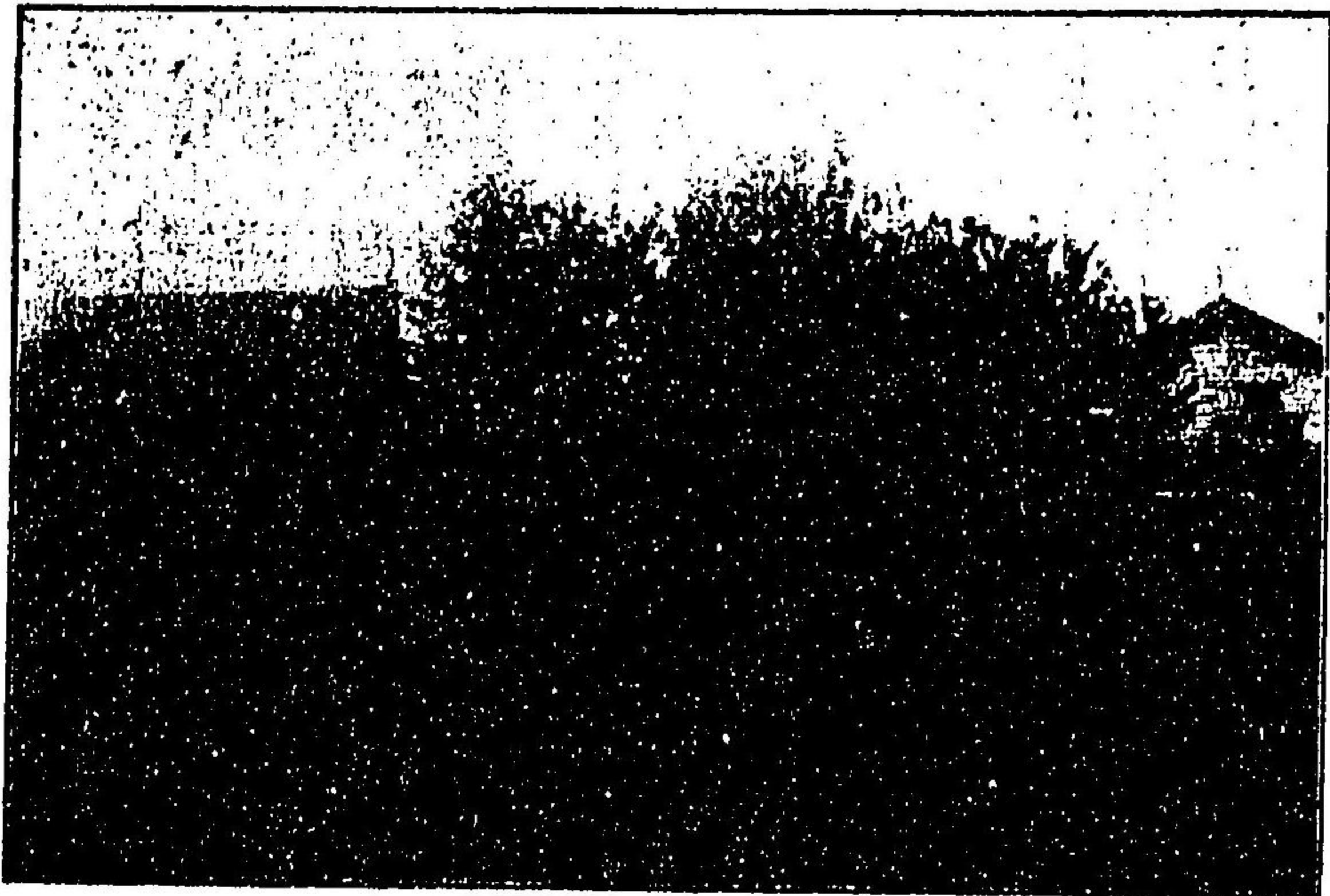


中村力藏君 息元敏君 氏



●中村力藏氏 (余市町 山碓町)

余市を知るものにして中村家を知らざるものなく中村家を知るものにして余市を知らざるはなけん力藏氏實に又中村家の一門たり安政六年七月を以て渡島國江差に生れ中村利八氏の四男にして有名なる中村源兵衛氏の實弟たり慶應三年中村長松氏の養嗣子となり余市山碓町に居住し漁業に従事す養父長松氏英邁達識余市町村の有力家として町村の發達に盡し徳望闡郡を掩ふ不幸明治十二年十月白玉樓中の人となる力藏氏家督を繼ぐに當つてや至誠篤行毫も家名を失墜せしめず益々漁業に銳意し水産物製造の改良に思を潜めて啓發する處尠ならず明治卅四年小樽支廳管内水産共進會に鯨鮪を出品して一等銀牌の賞を受け三十六年第五回内國博覽會に鯨鮪を出品して褒狀を受け四十一年北海道水産共進會に身欠鯨を出品して二等銀牌賞を受けたるが如き以て如何に氏の水産物製造改良に熱心なるかを知るに足るべし其他力を公共事業に盡し明治十四年電線架設費に二百圓を寄附し日清戰爭に際しては軍馬一頭を獻納したるが如き寄附喜捨に依り銀杯木杯の下賜枚舉に暇あるなし殊に吾人の敬服に堪へざるは氏家庭の圓滿にして富豪に珍らしき質素なるに在り驕奢を戒め而かも甚しき節約に陥らざるの處富豪家庭の模範と爲すべし(寫眞の下部右なるは愛孫きく子(八才)左なるは元敏氏(三才)なり)



余市病院

●奥水榮雄氏 (余市町 琴平町)

奥水氏は余市が圭界に於ける知名の醫師にして其の在住の古きと慈善的行爲とは更に其の名聲と信頼とを高かして今日を來せり氏山梨縣の人夙に東都に醫學を研鑽し業成るや本道根室病院長に聘せられ更に札幌病院に轉じ名聲あり余市町立病院の院長を缺くや氏聘せられて其の任に就き大に内外の信頼を博す偶々町經濟の病院經營を許さるるに到るや氏余市有志の勸誘を快諾して之れが經營を引受け余市病院として今日あらしめたる一に氏經營の結果たり余市人士の信頼して疑はざる故ありと云ふべきなり。





川内藤次郎君の漁場

學理の應用は弊園産出の  
林檎をして品質善良なら  
しめ  
**川内果樹園**  
品質善良の林檎は余市特  
産として聲價を海外市場  
に知らる

余市町宇梅川町十番地  
電話一八八番

海物委販  
陸産托賣

余市澤町

須田正太郎

電話(四六番)

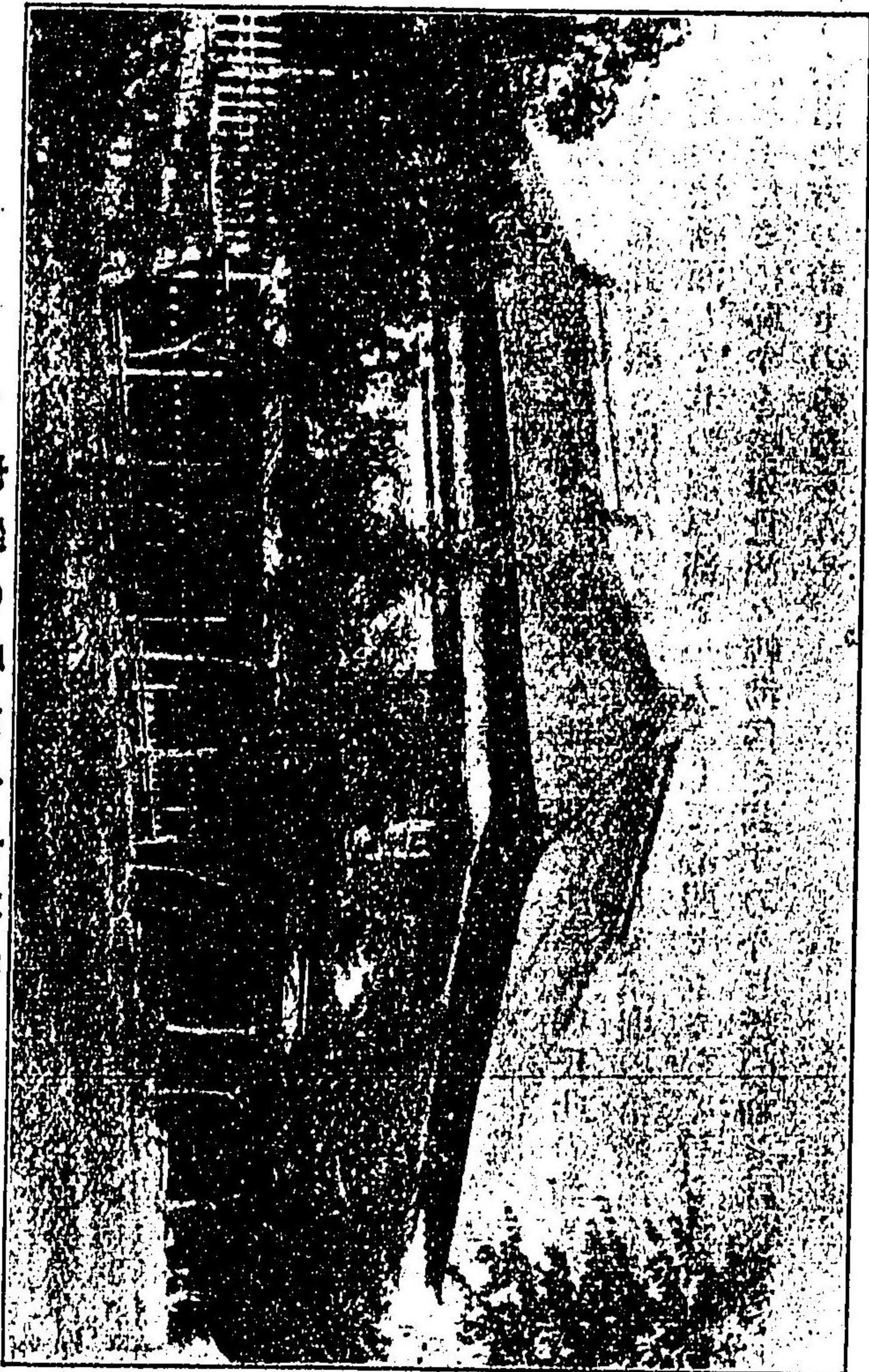
●須田正太郎氏(余市町)

漁業家にして海産商を兼ねるは俗に所謂虎に翼あるもの蓋し舊來の漁家漁法に巧なるも其の製品販賣に於る商に對しては餘りに幼稚に餘りに無頓着なりき須田氏茲に鑒るあり左手海産業を經し右手漁業を營む加ふるに經營の巧名聲の余市に噴々たる偶然にあらざるなり吾人は多くの漁業家の須田氏の心を以て心とせんを望むものなり本道水産界の毫も改良進歩せられずして依然舊套に眠るもの漁業家の多くの須田氏の如き心事を氏て漁業に對せざるに依る余市水産界須田氏あるあり真に意を強ふすべきなり。



●川内藤次郎氏(余市町)

余市郡沖村に於ける屈指の漁業家として知らるゝを川内家と爲す同家の祖は松前郡福山字炭焼澤の出にして代々漁業を營み現代藤次郎氏實に五代の當主なりと云ふ先代民次郎氏英邁にして先見の明あり鯨漁業上沖村の地の有望なるを看取るや親しく同地に移住し漁場を開設して子孫百年の基を立つ精勵克く難苦を排し克己以て困憊と闘ひ遂に動す可らざる基を樹てたるのみならず力を村事公事に盡し村總代に推され學務委員に選ばれ幾多の公事に盡瘁し其の功勞の多き一村民次郎氏を湛えざるものなく名聲闔郡を掩ふ不幸明治卅四年五十二歳を以て白玉樓中の人となり現代藤次郎氏家督を繼ぐ藤次郎氏新進の教育を受け加ふるに頭腦明晰經營の才に富み壯齡を以てして漁業二統を營み毫も先代の名聲を辱めず殊に吾人の氏に服するは氏の達識夙に漁業の前途を看破し漁業家の副業に銳意して不漁に備へざる可らざるを了して力を副業に盡したるにあり乃ち氏は農耕を経するの傍ら菓樹園を興して林檎を栽培し其の經營眞に見るべきなり而かも氏や尙ほ満足せず別に水田數町歩を開發し依て以て水田經營の識を養ひ將來重を農業に措んを期しつゝありと云ふ氏の如きは寔に賢明なる漁業家と謂つべきなり。



宅邸の君郎次幸村辻



●辻村幸次郎氏(余市市 梅川町)

父の道を改めざる子として當然の義務と雖も其の克く父の衣鉢を継ぎ父の道を修め父の遺志を辱めざるもの世幾干かある然り豈に雷に雷に三年と言んや墳墓未だ乾かさるに己に先考の意を空ふする世を擧げて比々皆な然り此の如き世吾人は辻村氏の先考の衣鉢を継ぎ益々考の道を擴め毫も家聲を失墜せしめざるを見深く氏の人格に服するものなり氏の先考初太郎民稜々たる俠骨以て世を處し人に接し俠名一郡に噴々たり而かも氏先考の任俠たる所謂大俠にして徒に強を挫くの小俠に非ず思ふに大俠は難く小俠は易し人間生れて教を受く誰れか俠の重すべく爲すべきを知らざらんや唯た大俠に到つて遂に尋常の器の好くし得べきに非ず先考初太郎氏稜々たる大俠一郡を寛歩せしは今も尙ほ余市人士の傳へて以て余市の花と爲せし處不幸天年を此の一代俠骨に藉さずして明治卅六年八月病んで又起たず幸次郎氏此の如き父を仰ぎ父没後克く先考の衣鉢を継ぎ依然たる余一の任俠家として衆庶の信賴篤く余市消防組頭として其の快断而して其の温厚部下一人として心服せざるなく皆な相共に曰く流石に先代の子たるに恥すと噫譽世滔々輕薄俗を爲すの今日氏の如き任俠家を見る豈に獨り余市地方の誇りのみならんや。



大村由太郎君



故大村幸次郎君



●大村由太郎氏(余市村)

自ら漁夫となり船頭となり辛酸裏漁業に精通し四十年の經營遂に屈指の資産家たるを贏ち得たる大村氏吾人は氏の堅忍精勵其の能く今日を來したる成効の偉太なるに服す如何に漁業の天恵に關する太と雖も氏の精勵と經營の巧となくんは焉ぞ今日の成効あらんや氏の祖父半七氏陸奥國下北郡東通村大字岩屋の産廿三歳本道に航し檜山郡上の國村字吹村に居住し漁業に従事す後余市村村字島泊に轉して刺網を營む勵精勤勉慶應二年を以て建網を経するに至れり嗣子丑太郎氏又克く父の意を體して漁業に精勵し次第に家礎を堅ふす半七氏七十三歳の高齡を以て明治十八年八月没せらる丑太郎氏又壯齡を以て隱居し家を長子由太郎氏に譲る由太郎氏英氣勇邁十九歳自ら船頭たるの難局に當つて漁業を経し苟くも屈せず益々家産を増殖す明治廿三年利尻郡沓形に建網五統を買收し令弟安太郎氏をして之を監督せしめ又別に忍路郡に三統を経する等大漁業家たるの實を完ふし以て今日に至れり由太郎氏年齒今や五十居村に利尻に忍路に鯨を漁するの外更に鱒大謀網を経し更に心を植林事業に漑き林檎樹數千本を栽培し百姓澤に別に拾町歩餘の落葉松を殖樹す氏の多方面に事業を経するもの又如何に氏の精力主義の人たるかを可知

余市澤町六十番地

海産陸産  
委託販賣

時田商店

電話(一八番)

●時田國太郎氏(余市中町)

越後の人由來算數に長し商機を見るに敏に商畧を按するに巧みなり時田氏は越後の人余市實業界に去嘯し海陸物産商として聲名あるもの豈に偶然ならんや寔に越後人として越後人の本領を失はさればなり氏明治十七年北門の新天地に飛躍し子孫百年の基を開かんを期し本道に航す自來長すると共に各地の狀況を視察し余市の有望を相して余市に留る時田家の先代深く氏の人格に服し慫して時田家の養嗣子たらしむ斯くして氏は時田家を繼ぎ海陸物産商を経しに施設一も過たず青年實業として録々の名を博し信用又隆々たり偉なりと可謂也。



品質佳良、卸商として  
荷捌堅固なり

## 今川果樹園

各生命保険火災  
代理店の特約なり  
随時申込に應ず

### ●今川國太郎氏

(余市町)

今川氏は余市町會議員中鐵中の録々者を以て知らるゝ人士なり身は幾多の名譽職を帯び更に菓實組合理事として余市萃菓の聲價を高むるに銳意す其精力の旺盛ふべきなり氏紀州伊都郡九度山村の産明治十六年吳服行商を企て、本道に航し余市將來の發達を卜して十九年居を澤町に相し濃事に従事す自來力を公共事業に盡し名聲漸やく高く町會議員に選ばるゝや嶄然頭角を顯はして一方の雄に推され樞機に參し鋒々の名を傳す氏深く余市林檎の聲價を失墜せんを恐れ之が獎勵に怠らず自ら組合理事と爲つて盡瘁す其精勵員に推重すべきなり。

### ●阿部勘五郎氏(余市町)



阿部氏は余市大川町の元老なり寔に大川町の創設發達一に氏に負ふ處甚大なれば

阿部勘五郎氏

なり年齒僅に十八歳故郷越後を出で明治二年余市の人と爲つてより四十有餘年一日の如く余市の發達に盡し其の稜々たる俠骨人の難に赴くを意とせずして遂に大川町を知る者にして阿部氏を知らざるものなきの德望を博し

町會議員一方の雄として將た熱心なる學務委員として衆庶の信賴篤し其の業は酒造を主とし他酒造家と合資會社を起し成績良好隆盛を極む吾人は余市の元老阿部氏の老いて益々壯なるを慶するものなり。



鮮魚問屋  
蒲鉾製造

北照井正吉商店

電話 七 番  
電報(テル井)又ハ(テ)

◎照井正吉氏

(余市町)

余市廣く人多しと雖も眞に天稗一本脛一つを以て奮闘的成效を博し得たるは唯だ一照井氏あるのみ氏岩手縣盛岡の人明治六年を以て生る年十六奮然本道に航し子孫百年の基を開かんを期し札幌に生魚行商を營む而かも札幌の地の生産地に遠く不便少なきを以て明治廿九年余市に居を轉じ茅屋を大川町に求め依然生魚を行商し次第に歩を進めて生魚を東京に輸出し年々の収利多く遂に阿部勘五郎氏と資を共同して共親會を組織し一年能く數十萬圓の生魚を各地に輸出するの今日を來せり氏の奮闘的成好眞に傳ふべき也。

◎和田幸輔氏(余市町)

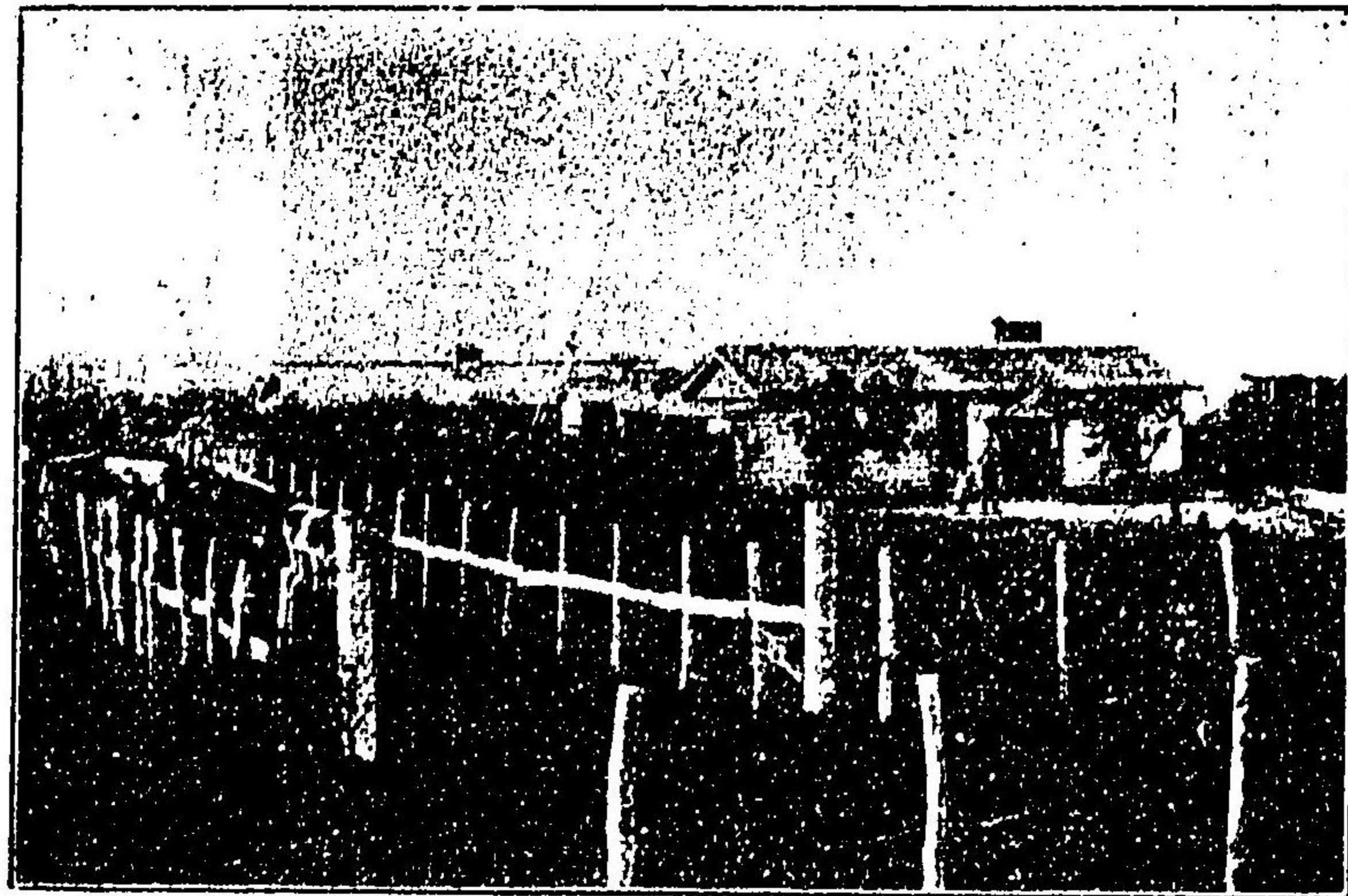
和田氏は共成株式會社余市出張所の主任たり氏の赴任せざりし以前の余市出張所



株式會社に入りてより瀧川札幌の各支店に勤務し其の手腕を知られ卅六年五月余市出張所の設けらるゝや氏選ばれて之が主任となり以て今日の聲名を來せり。

一ヶ年の販賣高一萬俵内外に過ぎざりしも氏經營の衝に當るに及んで一ヶ年克く四萬俵を販賣するに到りしの一幸事如何に氏の敏腕なるかを窺知し得べし和田君と氏明治十一年九月十五日を以て小樽區沙見臺町に生る直衛氏の長子たり札幌中學校を卒業し明治廿七年五月共成





板垣牧場

●板垣文藏氏

(大余市町)

板垣氏は余市町に於る牛乳販賣商の鼻祖たり氏越後國中頸城郡谷濱村字舟原に生る明治十七年本道に航し小樽に上陸稻穂町松田直次郎氏に仕へて大に信任せられ同氏の盡力を以て十八年余市に轉住し乳牛二頭を養ひ牛乳販賣業を開始す爾來精勵斯業に従事し辛勞十ヶ年廿七年初めて獨立し以て今日に到る是れより先き廿二年同業者四名一時に余市に開業し茲に氏に對する大競争となりしも競争二ヶ年皆な斃れ遂に氏の獨占に歸せり氏今の乳牛を有する廿六頭信用名聲共に余市の天に高く一人競争し得るものなし。

●宮原卯三郎氏

(余市町  
黒川村)

宮原氏は余市町黒川村の味噌醬油醸造家なり明治廿九年一度現業を開始してより其の機を見るに敏なる其の商畧を按ずるの巧なる加ふるに正直は至美至善の商畧なりてふ格言を信じ之を實行し薄利を以て需用者の利便を圖りしかば忽にして信用を博し名聲を知られ年々業務を擴張せざるを得ざるの盛を來し以て今日の隆に及び其醸造になる保滿禮味噌醬油に露印醬油譽印壽印別製印醬油は好評噴々として市場に歡迎され年々不足を告ぐと云ふ正直を最善なる商畧としたる宮原氏の成效も又偉なるかな。

商標 萬

露譽印 醬油印 味噌印 保滿禮印

開業は明治廿九年  
宮原商店  
後志國余市町黒川村停車場前

宮原卯三郎





荒木文吉氏と其家庭

●荒木文吉氏(余市町)

荒木氏は余市に於る奇才縦横の漁業家たり試に氏半世の閱歴の如何に異彩陸離として光輝しつゝあるかを見よ牧畜に木材業に廻船業に漁業に失敗あり成功あり縦横の手腕湧くがの如き奇才年齢四十五歳の今日まで氏の閱歴を詳述せんか殆んど一部の冊を爲さんなり荒木氏津輕の人北津輕郡小泊村に生る家兄源作氏夙に本道漁業を經し余市の地に在り明治七年氏家兄の招致に従ひ家兄の業を援く氏由來奇才あり明治三十年分家獨立するや直に馬匹十八頭を求めて放牧し卅五年木材業を開始せしも得る處少なく却つて二千餘金を損失す卅七年漁業を營み建網一統を營經す翌卅八年鮪謀網を忍路の地に經せしも非年にして三千餘金の損失を招きしも幸にして鯨漁は大漁を博し僅に其の損失を補填す卅九年五十七噸の帆船一隻を一千二百圓にて購入し樺太航海を開始し同地に於て生鯨を買収し之を東北地方に賣却し初年數百圓を利せしも次第に収支償はず四十二年一千六百圓の損失を來すに及び船を賣却し又飼育の馬匹を賣却し辛ふじて其の損失を償ひ爾來全力を鯨業經營に濺ぎて又他を顧みず幸にして年々大漁を來し卅七年より四十一年に到るまで一ヶ年平均四百名餘を収獲す荒木氏の奇才又當代の豪なるかな。





服部旅館

●服部旅館

(余市町)  
(大川町)

服部旅館は余市町に於ける有數なる旅館の一なり其の名聲の噴々として行旅の客に傳へらるゝもの本道西海岸に於ける旅店に免れ難き弊風の跡なく客室の清潔設備の完全投宿の人士をして何等不自由を感せしめざるのみならず一種の快感に堪えざらしむるに依る支店を余市停車場前に設け旅客の利便一方ならず蓋し旅館としての設備之を文明的完備の上より云はば殆んど極る處なし要は旅客をして其の待遇の懇切に満足せしむるに在り服部旅館の克く此の意を体する是れ同旅館の名聲ある所以ならずんば非ず。

吳服太物商

利吉川商店

余市大川町四拾七番地

●吉川商店

(余市町)  
(大川町)

等しく是れ吳服太物商たり而して名聲信用を博するものと否らざるとの商店あるもの一に賣品の産地仕込を選択すると否らざるとに在り産地仕込を選択するは良品を廉價に顧客に賣却するを得べく他卸屋より其供給を仰くと同一の談にあらず吉川吳服店の余市に信用あり併せて其の聲名を知らるゝ一に良品を廉價に販賣し加ふるに店主吉川氏の業務に熱心に流し行を知るの明如何なる品質の物たりと雖も備はらざるなきに依る一業に信用を博する容易の業にあらざるも吉川商店此の苦心あり聲名噴々たる偶然にあらざる也。



※

小樽區外七郡案内

◎宮下堅吉氏(余川町)

漸を以て進み敢へて急進せず着々地盤を堅ふして遂に成功の基を築きたる宮下氏の行爲は是れ青年子弟の學ぶべき示例ならずや氏年齢四十有三越後國北蒲原郡次第濱村に生る家は居村の舊家にして實に三百年間連綿たるの家なりと家兄銀太郎氏醫を業として夙に余市の地にあり明治十九年氏家兄の許に來り家兄所有の土地を耕し野菜を栽培し之を余市市場に販賣す是れ氏の成功今日を來す端緒たりしなり爾來氏農耕に銳意し今や耕地を有する數萬坪別に果樹園を有し一ヶ年の収入少なからず氏堅忍の成功傳ふべきかな。



※

余市町字山碓町

鍊肥料製造販賣

電話三十七番

横濱竹藏



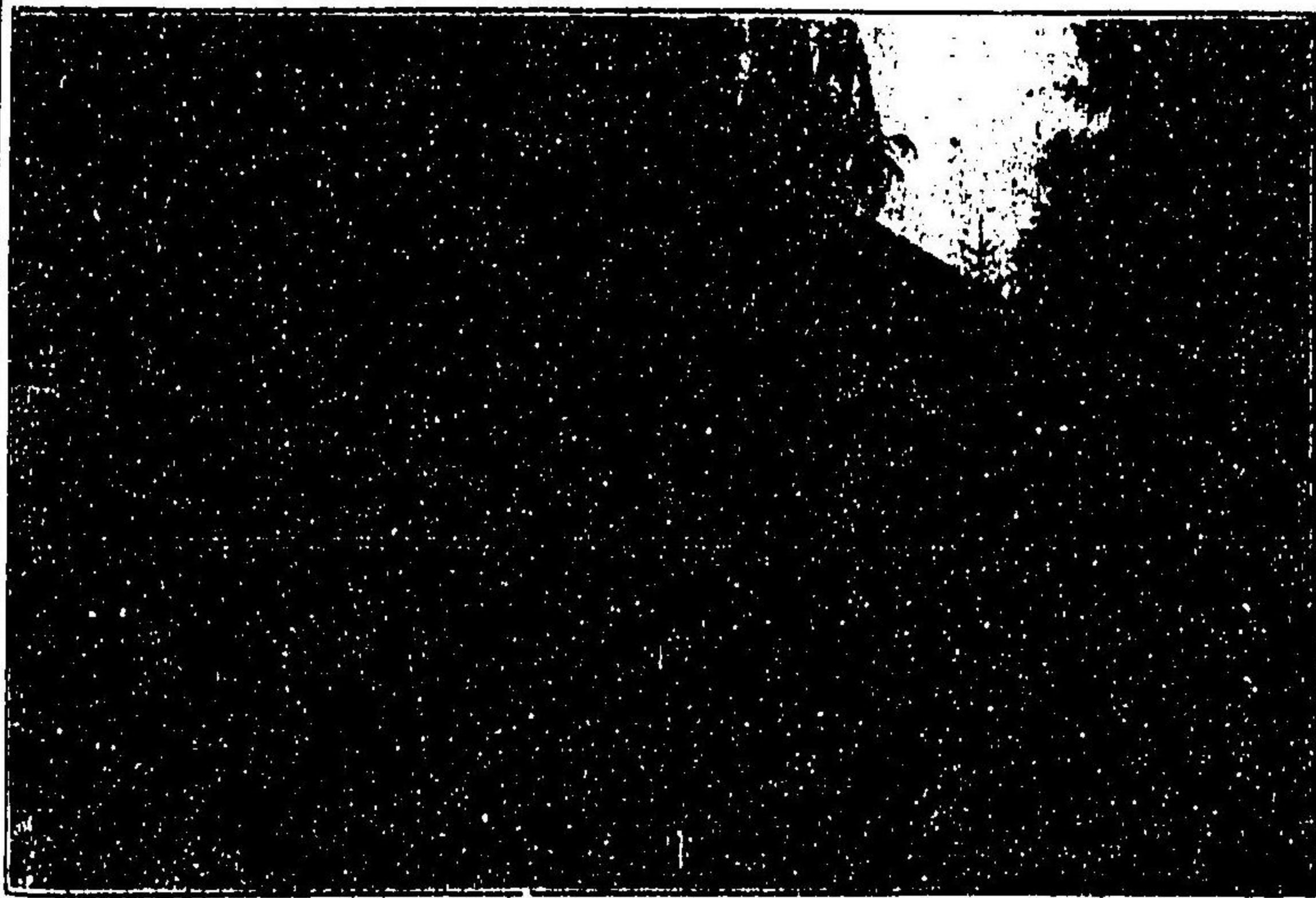


伊藤隆治氏

●伊藤隆治氏(余市町)

農耕の難業己に其の成を告げ公人としては町會議員たり私人としては余市實業青年會長に推され其の悠々たる雅懐心を俳道に馳せ古池の流を汲んで忙中の閑を示す隆治伊藤君の境遇真に羨むべきかな而かも知らざるべからず伊藤氏の今日あるもの又實に氏偉大の精力萬難を排し千苦と闘ひ開拓の難きに成効したる結果たるを伊藤氏は會津藩士先考甚六氏明治二年會津藩士團体移住の一員として山田村に移住し農耕に従事し明治六年氏を擧ぐ先考能く農事に盡し着々歩を進めて百年の基を拓き伊藤家の家礎嚴として又動すべからざるに至る隆治氏此の如き父の膝下に教を受けて成人し明治卅一年甚六氏白玉樓中の人となるに及び家督を繼承し先考の遺志を守り家門を辱めず林檎栽培の有利なるを知るや果樹園六町歩餘を經營して其の完成を來し尙ほ力を斯業の發達に濺ぎ販路の擴張に栽培法の改善に致々として倦まず殊に力を公共事業に盡し其の名聲は町會議員に推され余市町政の發展に銳意し余市實業青年會の設けらるゝや衆望の歸する處之が會長に推さるゝ等氏の人格の半面を窺ふに足るべし氏別に思を俳道に寄せ雀子は其の俳號にして頌すべきの句尠ならず山田村の地伊藤氏あり誰れか意強ふせざらんや。





三宅權八郎氏と其邸宅

●三宅權八郎氏(余市町山田村)

余市山田村に於ける會津團體移住開墾同志中何人が最も成功し何人の事業最も優秀なるやを問はゞ一人指を三宅氏に屈せざるなく何人と雖も三宅氏の成功を羨へざるはなし三宅氏の成功も又偉大なるかな氏會津團體の山田村に移住せしの際當時故あつて遅るゝ一年明治五年を以て山田村に移住す爾來同志と難苦を共にし千辛に耐へ難苦に忍び致々として開拓に従事し傍ら力を村事に盡して居村の發達設備に盡し山田村の今日ある三宅氏に負ふ處多し三十有餘年の辛勞努力氏今や耕地を有する十數町歩林檎數千本水田一町歩別に牧畜業を經營し良馬二十頭乳牛六頭を有して生乳を販賣し巨然たる三宅家其事業の優秀なる會津移住者中第一と稱せらる初め三宅氏林檎栽培を唱導し同志と林檎組合を設立し之が販路を露領に求めんを欲し明治卅七年老軀を挺して浦鹽に赴き調査中開戦の詔勅を耳にし轉じて朝鮮を視察し歸路大坂東京を経て販路擴張に得る處尠ならず歸來組合事業を擴張し林檎直輸出を企て大に組合員を利せしが如き以て氏の尋常の器たらざるを知るに足らん氏今や年齢六十五歳老來益々健に意氣壯者に譲らず嗣子輔氏夙に札幌農學校豫科を出て父業を援け益々氏の事業を優秀ならしめつゝある欽すべき哉。



高山吉五郎君

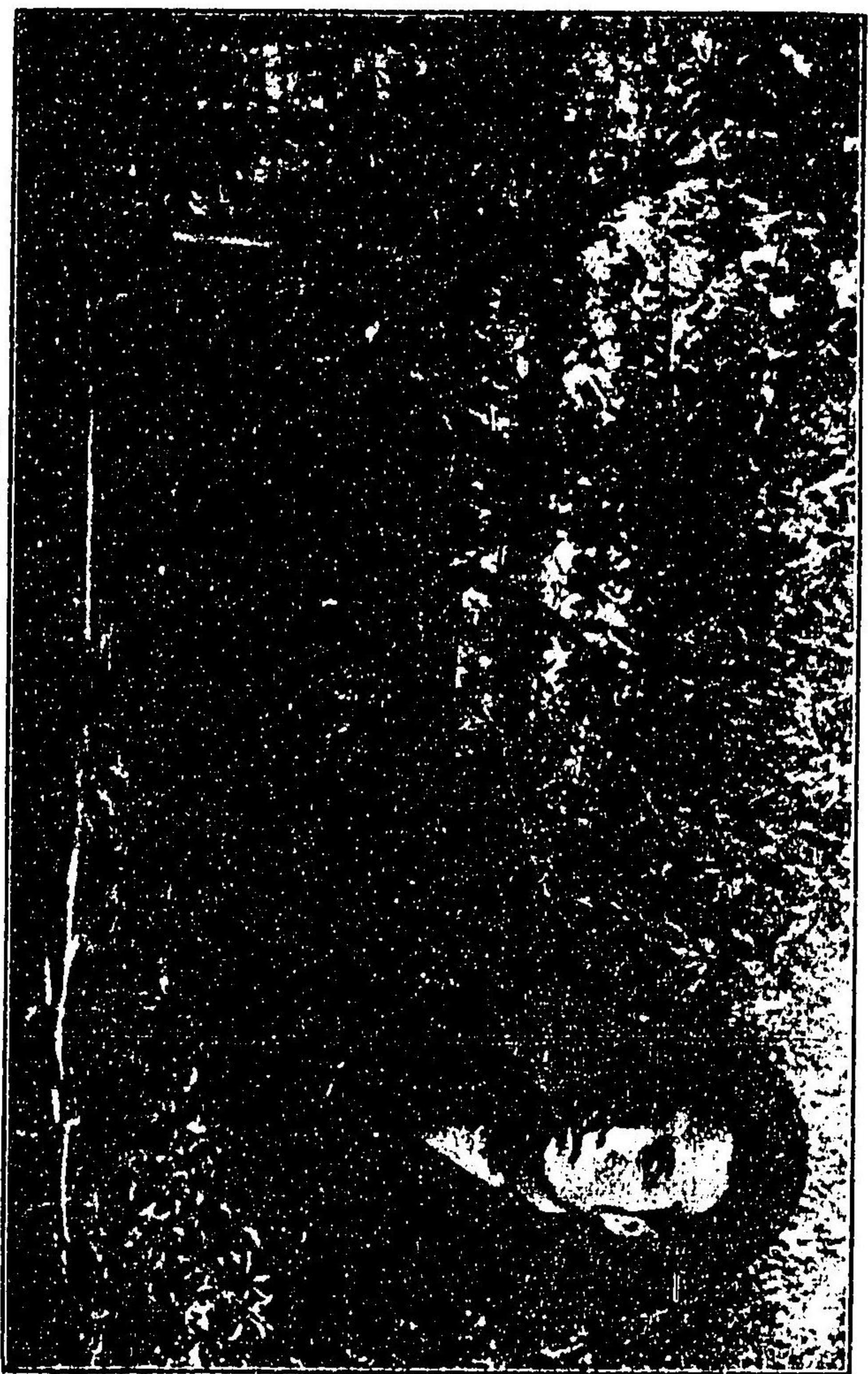


高山多吉君 高山ヒサ子

●高山多吉氏(余市町山用村)

高山氏は余市郡山田村に於ける開拓の成功家なり農耕家として果樹栽培家として成功多く及ぶ者なしと傳へらる氏秋田縣山利郡龜田町の人士林の家に生れ龜田藩士たり廢藩後思へらく北海開發は國家の爲にして又子孫百年の大計を樹つる所以父祖の産に逸居せんよりは若かず北海不毛の野を開かんにはと即ち家を擧げて本道に航し余市郡山田村に移住す當時交通の便あるに非ず道路あるに非ず難苦言語に絶す氏屈せず率先鋤鋤を執て家族を激勵し奮闘頗る力む年々耕地を擴張し勤儉自ら奉じ餘資ある直に土地を買収し二十有餘年の精勵遂に大農家として知らるゝの現在を來し耕地を有する三十餘町歩氏又夙に林檎栽培の有利なるを看破し早くより果樹園を經營し今や一ヶ年の收入八萬斤此の價格四千圓餘を算す多年辛勞の賜物も又大ならずや嗣子吉五郎氏新進の智識に富み父を援けて經營に怠らず就中力を林檎の培養に盡し諸般の改良施設一として今日の學説を應用せざるなく其改良に熱心なる及ぶもの少なしと稱せられ果樹品評會開設毎に出品し未だ一度も表彰に漏れたるなく賞品賞狀數ふるに違あるなし思ふに余市林檎の市場に聲價を保つもの氏等父子の如き改良家の賜物たるや勿論なり。



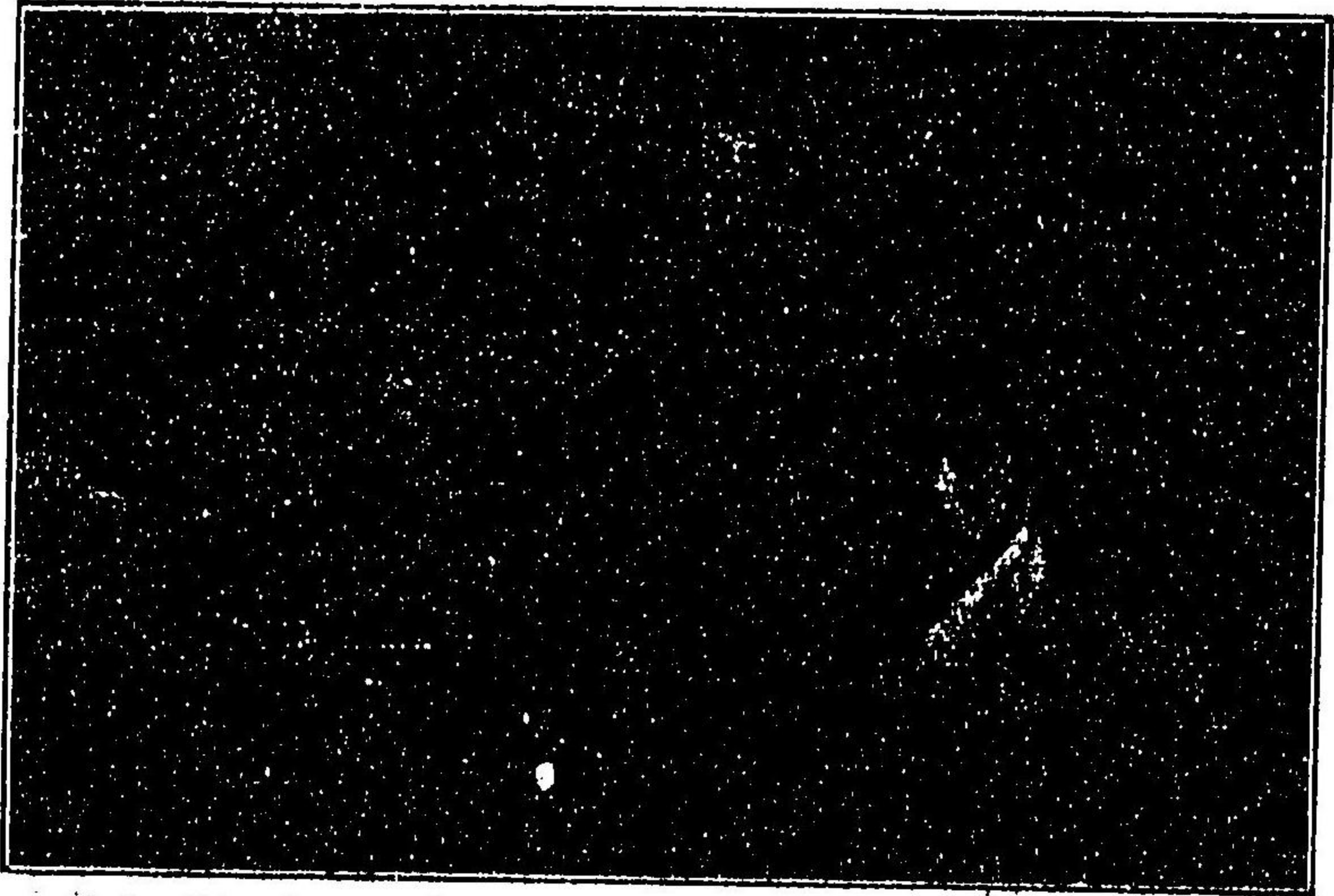


佐藤三平と其の園

●佐藤三平氏(余市町山田村)

失敗に屈せず新に北門の天地に立脚の地を相す意氣英邁の人たざれば能はざる處己に立脚の地を相す畑眼直に野菜栽培の有利なるを看破して産を興すの基を爲す智略超凡の人たざれば能はざるの處吾人は佐藤三平氏の失敗に屈せず智略好く致富の道を來したるを見氏人格の非凡なるに服せざるを得ず佐藤氏秋田縣由利郡龜田町の産年齒四十有三家代々農を營で氏に及ぶ氏英邁尋常農耕の徒に非ず偶々一事を企て、成らず家産蕩盡回復の策なし氏屈せず青山行を吟じて本道に航し笑て曰く十一州の青山盡く我を迎ふと時に明治二十三年たり着道直に余市山田村の親戚高山多吉氏を訪ふ同氏の配慮を以て畑地二町歩を譲受け農業に従事す當時耕作物小豆大豆に過ぎざるも價類の點に於いて有利なる耕作物に非ず氏畑眼野菜栽培の有利なるべきを看破し専心之が栽培に従ひ自ら駄馬を御して之を余市町に販賣す果然氏の畑眼空しからずして巨利を博し一ヶ年八百圓以上の賣り上げを見るに至れり自來氏の精勵は余市町に野菜小賣の鼻祖として知らるゝのみならず年々の利潤は遂に今日の成功を來せり氏今や耕地十二町歩林檎千餘本を有し家産又萬を以て知らる意氣智慮此の成功を來す氏や眞に摸範的人士と謂つべき也。





大平成徳 大平成徳 大平成徳 大平成徳 大平成徳

●大平成徳氏

(余市町 山田村)

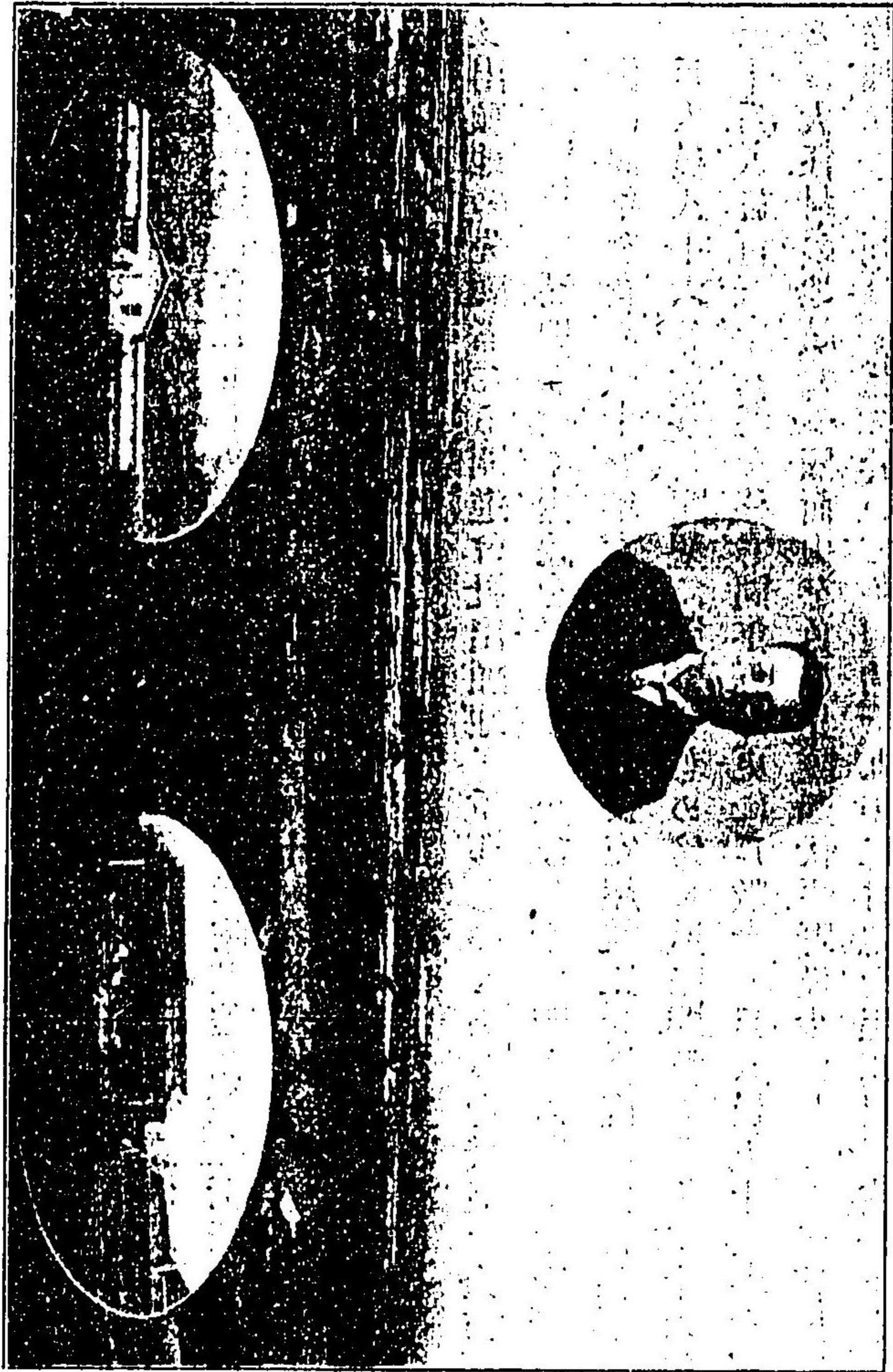
掲ぐる處の寫眞版是れ大平氏の家庭なり氏秋田山利郡龜田藩の士廢藩後職を教育家たるに執りしも収入一家を支ゆるに足らず當時秋田縣下養蠶の獎勵熾なりしも失敗の傾向多きを見將來の立脚點農業を措いて他あらずと爲し奮然家を舉げて本道に航し余市山田村に移住す時に明治十二年たり當時携ふるの資九百六十金自來銳意開拓に従事し以て今日に及ぶ氏今や耕地數十町歩を有し別に林檎果樹園を経し一ヶ年の收穫巨額に達すと云ふ殊に氏の林檎害虫驅除に熱心なるは損失を招く少しと云ふ成功眞に偉なる哉。

●中山農場(余市町 黒川村)

中山農場を記述するに先ち毛利公府農場の沿革を記さる可らず寔に中山農場は有名なりし毛利農場の後身なればなり是を聞く毛利公爵家舊藩士にして榮達の途を失し往々窮乏生計困難なるものあるを聞知せられ舊藩主たるの情誰傍觀に忍びず是等舊藩士を北海道に移住せしめ移住者に限り三ヶ年米増其他諸般生活費を援助し依て以て子孫百年の基を樹てしめんとし明治十三年十一月粟屋貞一氏を委員とし東京を出發せしめ地を岩内郡堀株川北岸に相し五百十萬坪の貸下を出願す翌十四年一月融雪を待て村落境界開に貸下出願地等の實測を爲し坪數査定の上割渡さるべく決せしも偶該出願地の先願者たる開進會社出願地と重複しつゝあるを發見し余市郡山道村(現今の大江村)に轉地すべく内諭を受しより止むなく十四年六月轉地を受け移住一切の準備に同年を費やし十五年六月に及び移民家屋竣工せり直に山口縣下より戸數二十一戸人員八十六名を移し開墾に従事せしめ傍ら道路開墾に着手す十六年四月又戸數三十戸人員百三十八名を移し同年五月更に戸數十七戸人員五十七名を移住せしむ然るに大江村の地積たる四面山を負ひ丘陵起伏平野僅少にして新に移民に割渡すべき餘地なきに到れり茲に於いてか明治十九年二月地を黒川村の内にとりして貸下を出願し併せて該地積に於ける排水及び道路開墾は之を官費を以て施設せられんを

小樽區外七郡案内





毛利家開墾事業の成績

請求す官之を容れ移民安じて其の業に従ふ道應は毛利家開墾事業の成績收支償はずして蹉跌せんを憂へ特に御雇農業教師獨乙人シーメルス氏を特派し實地に就き事業の得失を謀り其方法を計畫せしむ爾來着々成墾の歩を進め大江村成墾地百六十四町一反八畝二十歩は之を明治二十九年度に竣功し黒川村成墾地五十五町歩は之を三十二年度に於て竣功し他殖林地二百三十九町歩餘入會秣場三十三町歩餘薪炭林町三十九町歩餘牧草地二十三町歩等盡く其の成功を告げ資を費す十一萬三千餘圓嚴たる毛利農場名聲噴々摸範農場として知らるゝに到る蓋し農場をして此の如き成功を告げしめたる支配人粟屋貞一氏の功與て力多きや勿論なり然るに此の摸範農場賣却の議毛利家に起り小樽區京坂與三太郎氏之が譲受の契約を締結せしも小作人權利問題に關し大紛擾を惹起し哀れ全道摸範農場として知られたる毛利農場將に其名聲を失墜せんとす中山喜六氏は漁業家の出小樽區の名門を以て知らる深く毛利農場の紛擾を嘆じ一大英斷を以て二十三萬圓を投じ京坂氏譲受權利を繼承して身親しく經營の衝に當り改めて中山農場と爲し小作人の權利を認めて之を慰諭せしかは何れも悅服其の業に従ふに到れり讓受地積六百五十餘町歩餘内水田二百八十六町歩畑二百八十五町歩樹林地八十町歩餘にして小作人戸數百三十戸一ヶ年米の收獲四千餘石雜穀三千石餘に達す中山氏一度事業經營の衝に當るや余の明快なる手腕果斷なる措置着々前者の不整理を整理し足らざるを補ひ多きを去り其の施設其の方法一も缺くるなく着

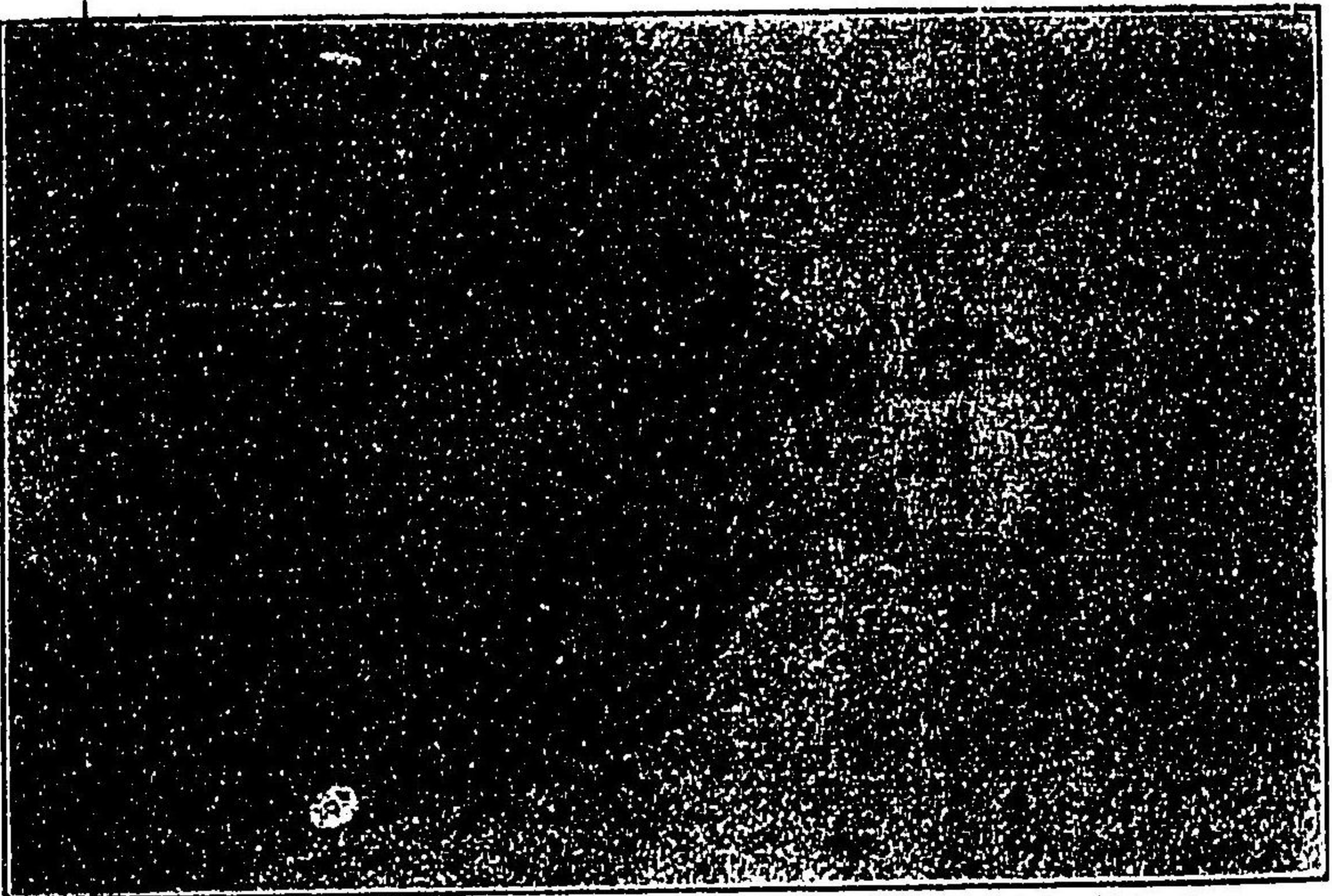
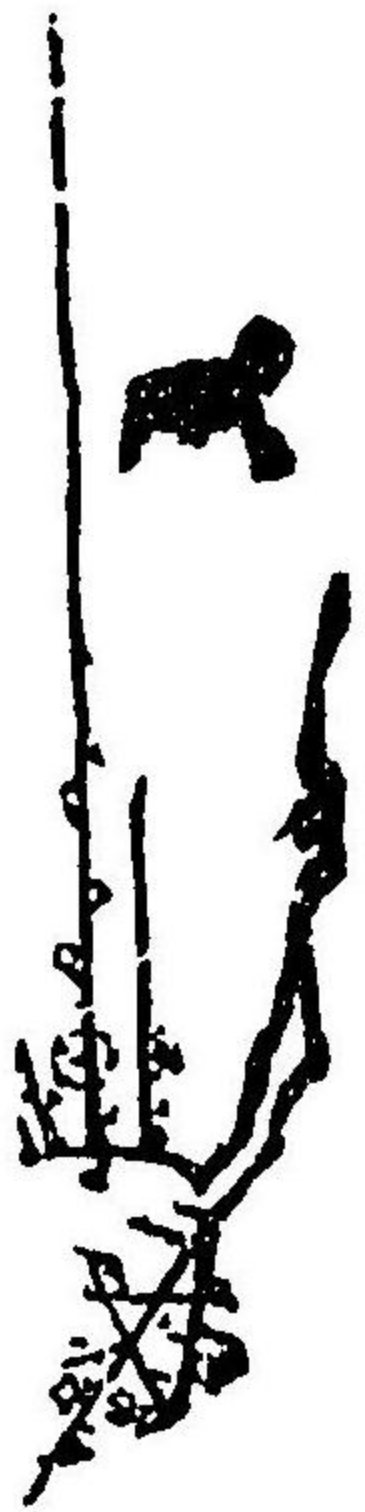


※

小樽區外七郡案内

々農場を整理し事業擴張費として己に資を投する一萬金以上現に昨年の如き灌漑溝を掘鑿し水流を引く一千五百間氏又更に大規模なる水田開發を企て本年度に於て仁木村と協力し工事費二萬圓を投じて余市川上流より灌漑せんを期す之れが爲の仁木村は水田四百町歩餘を開發し得べく中山農場又優に百四十町歩の水田を得べしと他副業として養豚事業あり養鶏事業あり殊に特筆大書すべきは中山氏の力を小作人慰籍に濺ぐにあり年々品評會を開いて獎勵方法を講ずるは勿論會館を建築して俱樂部と爲し小作人娛樂の用に供せしめ獎勵と慰籍と相俟て小作人の土着心を養はしめんとす思ふに現今土地賣買價格水田一反歩百圓内外とし畑地六七圓内外なりとすれば中山農場は現在に於いて己に倍額の利益ありて存す中山氏が漁業家の出を以てして所有漁場全部を此の農場に代へたるの先見果斷恐らく匹儔なしと云ふべく中山農場の益々施設を全し有數なる模範農場たるを得る眞に偶然にあらざるなり。

(74)



小栗元右衛門君



小栗富藏君

(75)



●小栗富藏氏(余川市村)

余市町會に氣骨稜々古武士の慨ある士を尋ぬ何人も指を小栗富藏氏に屈せざるなし然り氏は古武士の典型なり會津武士として年齒五十有六其稜々たる氣骨接するの  
 人其威を仰がざるなし維新の變戦ひ破れ城頭降旗を樹つるの止むなきに到り闘藩斗  
 南藩に移封せらるゝや藩士二百戸北海開拓を企て余市山田村に移住す氏先考元右衛  
 門氏に従ひ移住の一員たり自來父子協力農耕に銳意し荒地を拓き荊棘を排し亦他を  
 顧みざる多年遂に開拓の難業に成功し巨然たる家を爲し其成功の度に於いても資産  
 の上に於いても移住藩士の第一流として知らるゝに到れり氏一度林檎栽培の有利な  
 るを知るや熱心之を唱導し率先栽培に従事して其の範を示し其の熱心なる余市林檎  
 組合を組織して身組長たるの激務に當り栽培の改善に施肥の方法に品質の精選に荷  
 造の改良に銳意衆を説き他を動かし遂に余市林檎の聲價をして全道に冠たるの實績  
 を挙げたるのみならず組合商標北星印を見るものをして之を調査せざるも良林檎た  
 るを信じて疑はざるに至らしめぬ氏の功と勞と眞に表彰すべきかな氏又更に力を公  
 共事業に盡し町會議員に選ばれ其の稜々たる氣骨町會一方の雄として名聲高し噫會  
 津武士小栗富藏氏切に其健在を祈らざるを得ず。



庭家共と氏助伴谷細



●細谷伴助氏(余市町 黒川村)

細谷氏は余市黒川村の老農なり當年七十四歳の高齡を以てして其の鏗鏘たる壯者を凌ぐ氏會津の藩士明治二年會津藩の斗南に移封せらるゝに際し氏慨然本道に航し石狩當別村に於ける同藩團體移住の伐木を監督し功績少なからず同三年二月開拓使に出仕し時の會計課長野村伊助氏の配下に用達掛を勤む同年十二月岩村長官更任と共に致仕して意を官海に絶ち翌四年五月余市黒川村に移住す自來意を農耕に濺ぎ自ら鋤鋤を執て開拓に従事し又世事を顧みざる多年荒地已に開かれ昨の荊蕀今日の麥浪となるに至るまで氏の辛酸勞苦眞に傳ふべきもの有て存す此の間氏明治八年九年漁業を企て、之に従事し大失敗を來し傷痕深ふして容易に恢復すべくも非ず更に木材業を経して漁業失敗の恢復を圖らんとし明治十四年新に木材業を経せしも是れ又柚夫等の欺く處となりて失敗し殆んと立つ能はざるに至れり茲に於てか専心農耕に従事すると共に氏の長子道之助氏銃獵に巧に一年好く七頭の熊を射殺するの妙手腕を有し從て狩獵に於て得る處少なからず父子協力次第に家産を恢復し遂に今日あるに至れり氏今や耕地を有する十數町歩、林檎のみの收穫一年五萬斤を算すと云ふ氏の如きは眞に克己精勵の儀表と云ふべき也。



青木丑藏氏と農場の景

●青木丑藏氏

(余市町 黒川村)

明治四十年の神嘗祭に當り本道より献納米を出すに際し青木家其の選を蒙り衆庶の羨望する處となる由來献納米を出すの家は善行善積而かも其家系を擇ぶ青木家の選を受けしもの以て青木家の全班を知るに足るべし丑藏氏會津の人先考丑之助氏明治二年會津團體の一員として余市黒川村に移住してより好く農耕に勵み家礎を樹つ氏長するに及び父を援けて家業に倦まず果樹園を起して林檎を栽培し水田を開發して其範を示す等黒川村有数の農耕家として知らる年齒尙ほ四十前途の多望眞に想見すべきなり。





佐藤駒之進君

佐藤サタ子

●佐藤駒之進氏

(余市町黒川村)

佐藤氏は會津武士なり七十四歳の高齡意氣毫も衰へず壯時より黒川村二十五戸の伍長として村治に盡瘁し黒川村の發達に貢献したるの功や多大而かも氏は不幸にして明治十八年其の柱石と爲す長子を廿四歳にして失ひ次男は夙に夭折し數年間前後五度の葬送を爲し家産漸やく傾かんとす當時三男武治氏年僅に十五歳父の心勞に泣き慨然父を助けて家運を恢復せんとし農耕の傍ら馬車追に雜業に心身を勞する多年天豈に武治氏の至孝を捨てんや次第に家産を興し今や林檎のみの収穫優に千餘圓を算するに至れり熾なる哉。



東氏令息



東氏令息



東藏太君



●東 藏 太 氏(余市町 黒川村)

東氏は會津藩士にして警察官出身を爲し室蘭に岩内に署長として令名を博す蓋し氏は明治の初年団体移民として黒川村に移住し農會社を創立せしも實驗なきの結果解散し農事は之を家族に一任し而して警官出身を爲せしなり十五年 陛下御巡行の際は日高國に屬従し小松宮殿下巡視の際は親しく御案内申し上げたりと云ふ廿五年余市總代人に學務委員に選ばれ數年間其職に盡して令名ありしと氏の長子繁夫氏早稲田大學卒業後一年志願兵として日露の戦役に従ひ奉天會戰に戦死して金鵄勳章を賜はりしと云ふ。



●山川瀧五郎氏(余市郡 大江村)

本道の地に杞柳を利用し行李製造業を創始し遂に一の産物として地方殖産に利し公益に資したるの士を余市郡大江村字馬群別に於ける山川瀧五郎氏と爲す山川氏は但馬の人夙に柳行李製造に従事し是れが販路を東北に擴張せんとし身親しく各地を視察し明治廿四年始めて本道に航す氏本道視察の結果余市郡大江村馬群別附近の地の柳行李製造の材料なる杞柳栽培に適するを知り土地貸下を受け柳行李製造業に兼ぬるに杞柳栽培を以てし銳意其業に勵む多年此の間使用人の行爲に連坐し誤て刑辟に觸れたるも氏更に屈せず萬難を排し千苦と闘て益々事業に力を盡し余市川右岸一帶の堤防線地に杞柳を栽植し着々其の成效を期し其の熱心なる其の精勵なる遂に克く五十餘町歩の杞柳圃を開き柳行李一ヶ年の産額一萬數千圓に達する現時の隆を來し居村馬群別の地の特産物として社會に知らるゝに到れり氏又力を公共事業に盡し居村の發達に努力する人後に落ちず道路の開鑿に學校の設置に停車場の設置に一として氏の奔走を煩さざるなく馬群別の發達に貢献したるの功大なるもの有て存す今柳行李製造を會社組織と爲し益々製造の改良に販路の擴張に腐心しつゝあり氏の如きは眞に企業家の模範と爲すべきなり。



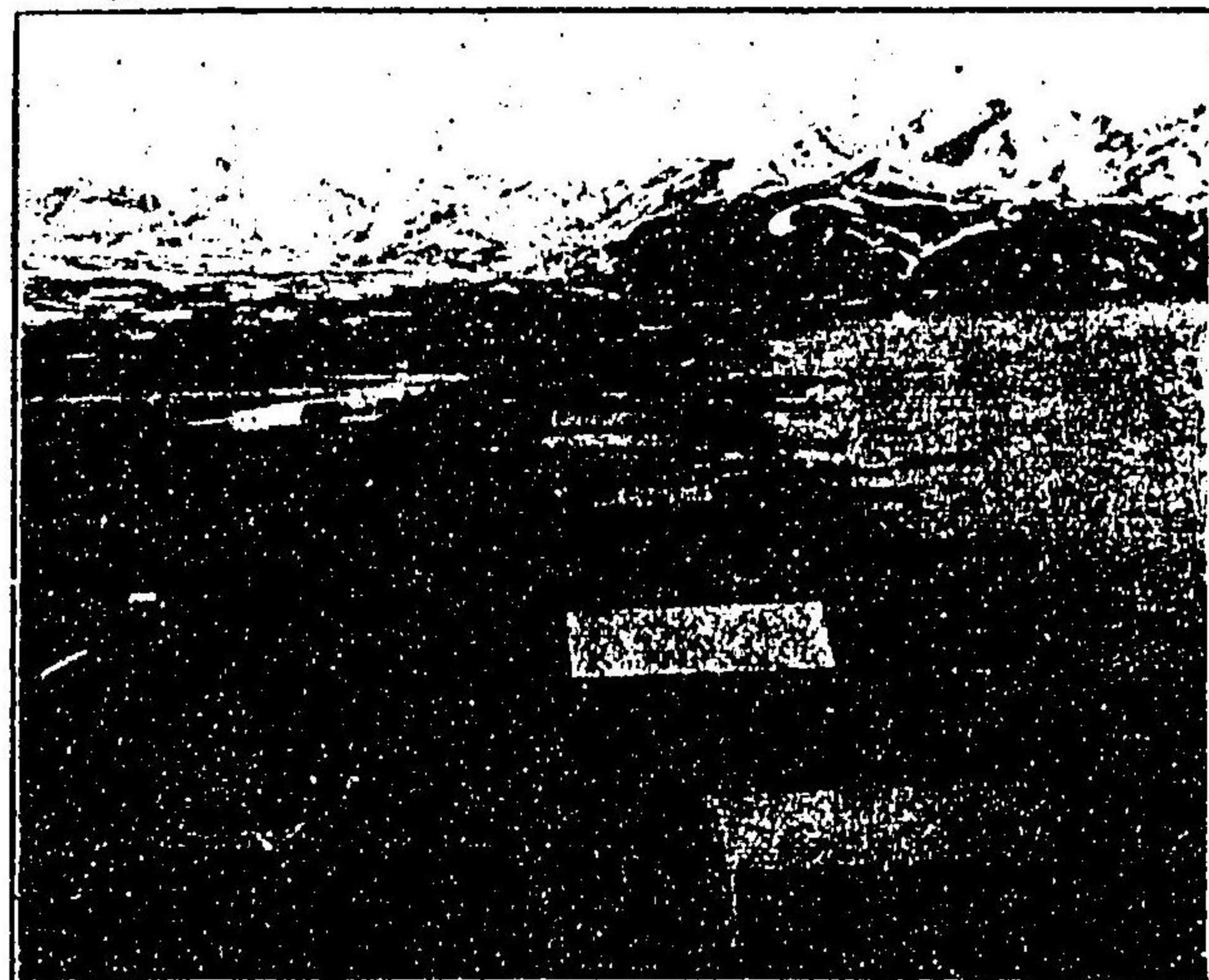
●粟屋貞一(余市郡赤井川村)

粟屋氏は本道開拓界の功勞者なり豈に管に余市の地に於けるをのみ云はんや吾人は粟屋氏の毛利家開拓委員長として來道してより廿功年間一日の如く開拓に盡し孜孜として倦まざるの意氣に服するものなり思ふに山口縣人の余市郡に農事に成効したるもの多き氏の意氣に負ふ處大なるもの莫らすんは非ず粟屋氏毛利家に仕へて士林に列し維新後官海に出仕し幾多の要職を歴任せしも明治十七年毛利家の固窮せる舊藩士族の爲め本道移住を企てらるゝや氏奮然其衝に當らんを期し明治十七年官を辭し毛利家開拓委員長として渡道し地を余市郡黒川山田の二村に相して縣民を移住せしめ自ら萬事を監督して開墾の跡を進ましめ地を開く一千七百町步其の勞豈に尋常ならんや明治卅年赤井川開墾事業の開始さるゝや余市開墾株式會社を組織し専務理事の職に當り人を移し地を拓き道路を開鑿し學校を興す等赤井川村の基礎確立し今日の現況を來したる一に氏の賜物たり殊に郡農會副會頭の職に在りて郡内の農事發達に盡す前後七ヶ年曩に老を告げ其の職を辭するや同會特に金時計一個を贈呈して其の勞に酬るしと云ふ氏今赤井川郵便局長の任に當り其職にあり本道拓殖界の功勞者粟屋貞一氏眞に傳ふべきなり。

古平郡



古平町市街全景其一



古平町長岩淵三樹藏氏



古平町ヨリ余市蠟燭岩ヲ望ム



## 古平郡

古平郡は東余市郡に接し、西は美國郡と相ひ隣し、南は岩内古宇二郡に跨り北一帯海に面す、面積十二方里餘、沿岸線二里廿九町、一級町村地にして濱町、港町、入船町、丸山町、新地村、群來村、沖村、澤江村、歌葉村を抱有し、地形郡境に高峯聳立し、海岸に傾斜し延長七里廿餘町の古平川郡の東方を貫流し、沿川の地農耕に適す、人口七千餘人、其の多くは漁業家たり同郡は昔時古平領、又は古平場所と稱せられ、松前藩臣新井田嘉内の領地たり、古平の名は、アイヌ語なる、フーレピラより出てたる物にして赤岩の義なりと、或は云ふフールピラにして小山の崩るゝ意議たりと、漁場受負人は小樽受負人岡田八十次の祖先にして其の創開小樽郡より古しと云へば、昔時より、早くも鯨好漁地として知られたるや疑ひなし、開拓使時代より出張所を置かれ、美國積丹二郡を管し、郡役所の設けらるゝや、古平外二郡役所として存立し、明治廿二年小樽郡役所に合併せらるるに到りて廢止さる。

同郡は往時より、鯨好漁地として知らるゝ、丈け漁業盛大を極め、建網百三十八統、刺網九千三百四十三放、漁船千餘隻を算し、水産物生産額二十萬四千三百餘圓を數

ふるの一事、其の盛大を察知すべきなり、従つて富有なる漁村として知られ、夙に一級町村制を施行せられ、自治の成績好良なり、一ヶ年の經常費一萬四千九百二十一圓餘、臨時費一萬七千八百四十八圓、村有財産として特定備荒財産三千二百一圓餘、普通財産一萬千四百卅一圓餘を有し、諸税は國稅一萬三千七百七十四圓餘地方稅八千六百六十一圓餘、村稅一萬三千二百十二圓餘にして特一等の負擔額(戸別割)三百六十圓四十錢最下等の負擔額九十六錢たり、其の一戸平均負擔額は戸別割に對して一圓四十四錢五厘、町稅總額に對して十五圓六十四錢八厘を算す、自治の主腦者たる町長岩淵樹藏氏は德島縣那賀郡の人、明治十九年滋賀縣警部を拜命してより卅六年北海道廳事業手となるに至る間官海を歴遊し卅七年美國村長に任せられ、四十一年古平町長に選舉せられ以て今日に及べるものにして其の行政的才幹は、町民の認識する處となり、信賴の聲高きは慶すべきなり、其の名望を擔ひて町會議員の職にあるは、村井隈太郎、名達文吉、八反田實吉、中村源次郎、中村榮太郎、壽原要太郎、鎌田金藏、齊藤兼太郎、山口金治、米田末作、米田惣太郎、田岸直治、小町恭次郎、竹村峯吉、南澤勇次、高野常吉(常設委員)、名達文吉、幾井舊七、齊藤兼太郎の諸氏にして、何れも古平に於ける一流の人士たり、之等諸氏の施設其の宜



しきを得、町政の圓滿なるは、古平住民の爲め眞に慶すべき也。古平は其の創開古きを以て、種々なる名稱及び寺院神社に富む、彼の丸山町を稱して俗に谷地と呼ぶが如き其の一なり明治の初年古平港戸口激増し、五百餘戸を算するに至り、傍ら新地町船舶の航船又頻繁を來し、遂に發展の餘地なきに到る、開拓使乃ち漁業家の富豪種田金十郎氏に命じ、谷地を埋めて以て市街を作らしむ種田氏銳意其の工を督し、遂に今の丸山町を創開す、官種田氏の功勞を素彰せんが爲め建場所一統并びに金三十兩を賜ふて其の功を多とす、是れ今日に至るまで依然丸山町を呼んで谷地と爲す所以なり、又松山榮吉の建場を人呼んで新場と云ふもの、谷地埋築當時、種田氏より杉山漁場を讓受け、家屋を建築せしより新場の稱起れり。

曹洞宗禪源寺は創開最も古く、本寺法源寺第廿二代太堂和尚安政七年五月舊幕府社寺奉行に出願、同年八月廿九日許可を得、法興山禪源寺と公稱し、先住天山和尚新地町に堂宇を建立し以て今日に及へる由緒尤も古き寺院たり。

日蓮宗法蓮山正隆寺は明治十五年の創開にして、位置は古平第一の高地にして市街及び海洋を一眸に収め得る絶勝の地たり、境内面積二千坪餘、本堂、庫裡、祖師堂、普賢堂等あり、開基は足達泰隆師、二代は新谷日華師三代は現住權僧都大石養

淳師なり、本堂は二代目華師の建つる處、他は盡く三代養淳師の力になるものにして、今年門前に大寶塔を建立し又更に第二の寶塔を建てんとの議ありて寺運隆々冲天の勢ひあり、其の檀家百五十餘戸にして、養淳師善智識の名高し。

眞宗寶海寺は明治三年夏大谷光勝法主代理大谷光榮師、來道の際、地方信徒の請に依り其筋の許可を得創立以て今日に到りたるもの、淨土宗願雄寺は明治十五年八月松前郡福山淨土宗教務支所派出教導副取締石山皆應師古平地方巡教に際し郡内信徒と協議し、同年十月創立、翌十六年一月寺號公稱を得以て今日に及べるものたり。

琴平神社は慶應元年、函館奉行に出願し丸山山麓に社地割渡しを受け、京都より祭神大物の主神の神體を下附せられ、明治四年七月神殿造營、明治八年三月郷社に列せられ、古平有數の神社たり。

教育は明治八年己に古平教育所設置せられ、濱町東本願寺派説教所内を教室となし住職大岡良周師教鞭を執り、子弟を教育し、其後佐久間有三氏教師たり、明治十年十月濱町に校舍を新築し、濱中小學校と稱し、原二郎氏教師となり、自來今日に及べるものなり、今や現在校狹隘を告げ、一萬三千五百圓の豫算を以て濱町に起工したれば、宏壯なる校舍を見る非年ならざるべし、新地町分校は廿一年三月設立せ



られ、仲尋常小學校は十三年八月の設立に成り、群來尋常小學校は卅六年九月設立されたるものなり。

郵便局は明治七年一月五等郵便局として設置され、種田の支配人廣谷新三郎氏十三年まで在職し、十三年より石井丈助氏十七年まで在職し、同年より十九年まで齊藤清四郎氏在職し、十九年より鎌田金藏氏廿二年まで在職し、廿二年より關口利勝氏局長として在職以て今日に及ぶ今四十一年度統計を見るに、通常郵便引受十六萬五千八百七十八件配達二十五萬九千六百卅二件、電報發信一萬三千四百七十八件、着信一萬四千七百二十二件、小包引受二千六百二十四個、配達四千七百廿四個、爲替振出九萬八千三百圓餘拂渡十萬八千三百三圓餘、小包取立、受四千二百九十六圓餘、拂七十一圓餘貯金二萬千六百五十八圓餘、此の人員千六百一十一人なり。

常説委員は齋藤兼太郎、名達文吉、幾井蓓七の三氏にして町役場員は町長岩淵三樹藏、助役梅村丑太郎、収入役宮崎昇太郎、書記小野田豊作、林金吾、齊藤金吾、米田岩吉、濱野米藏氏等にして外に雇員數名あり。

廣谷燠製場は同郡歌葉村に在りて明治三十七年設立せられたるもの也、同場經營者は小樽に於ける海産商として、漁業家として、將た紳士として有谷なる廣谷順吉

氏たり、廣谷氏燠製の重要輸出物たらざるべからざるの理を了してより卒先歌葉の地に燠製場を設立し、道廳より一尾五厘の補助を受け、鹽造燠製の製造に着手し、年々の製造額十萬尾、販路の多くは支那各地方並びに露領各地なるも、産卵期の鯨は、其の美味に於いて到底外國品と競争を爲す能はず、劣等を免れざるを以て、成績不良、結果面白からざるも、廣谷氏は燠製事業前途の爲め將た販路擴張の爲め、目前の不利損失を忍び、銳意其の品質の改良と、販路に腐心しつゝありと云ふ、蓋し産卵期の鯨の味ひ外國品に及ばざるは遺憾ながら事實にして、其販路を得るの難き又茲に基す吾人は廣谷氏の奮勵、其の品質改良に於いて成効せんを祈るものなり。

北海道銀行出張所一ヶ年二百數十萬圓の水産物を出す古平の地、其の金融機關の必要を來すは當然の事理なり、去れば小樽北海道銀行夙に古平に支店を設け、一般民衆に利便を與へつゝあり、支店長林正信氏温厚にして社交に長し加ふるに事務を執る敏捷なるを以て、令聞高く、古平の地一人氏を推重せざるなし。







關口勝利君

● 關口利勝氏 (古平町)

關口氏の名を聞いて古平を連想せざるなく古平の地を知つて關口氏の功勞を知らざるはなけん氏は古平の元老なり身は數十萬の産を擁し古平郵便局に局長として通信事務の發達に盡しつゝありと云ふに過ぎざるも四十年來一日の如く古平公私の問題に盡瘁したる功と勞とに到つては何人と雖も氏に比肩し得るものなし殊に吾人の關口氏を推重するは氏の漁業地に住しなから全力を農業に漲ぎ古平川流域の農業をして發達今日を來さしめたるの偉功にあり眼識の高く人格の超凡たるにあらざれ斯くの如くなる能はざるなり關口氏明治四年を以て札幌詰所美國出張所の官吏として赴任し在任二星霜其の將來の大計の漁業に非ずして寧ろ農業にあるを看取するや明治六年官を辭し耕地を古平濱町奥に卜し農耕に従事す自來専心農事に勵み他の漁業の一盛一衰に悲喜するの間平然として鋤鋤を執り巍然として倦まず多年の經營辛勞遂に農耕の業に成効し資産家として古平の元老として知らるるの今日を來せり氏又夙に古平郵便局長として其の任に精勵し通信事務を整頓す吾人は關口氏の官海の出を以てして農業に着目し四十年の辛酸經營に力を盡し自己の成効と共に古平地方農事の發達に貢獻したる功勞を満ゆるものなり。

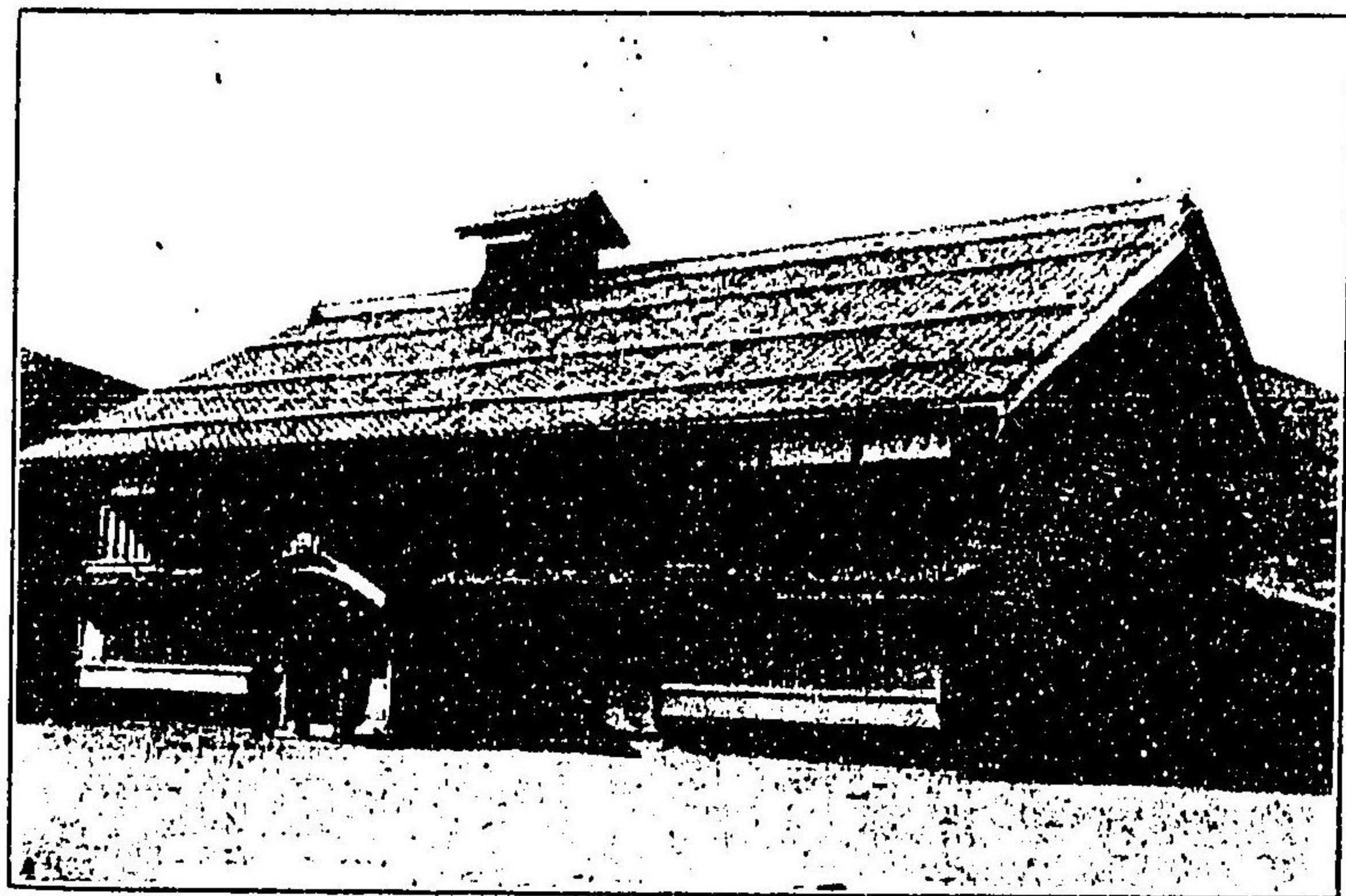




故山口金治君



山口金治君

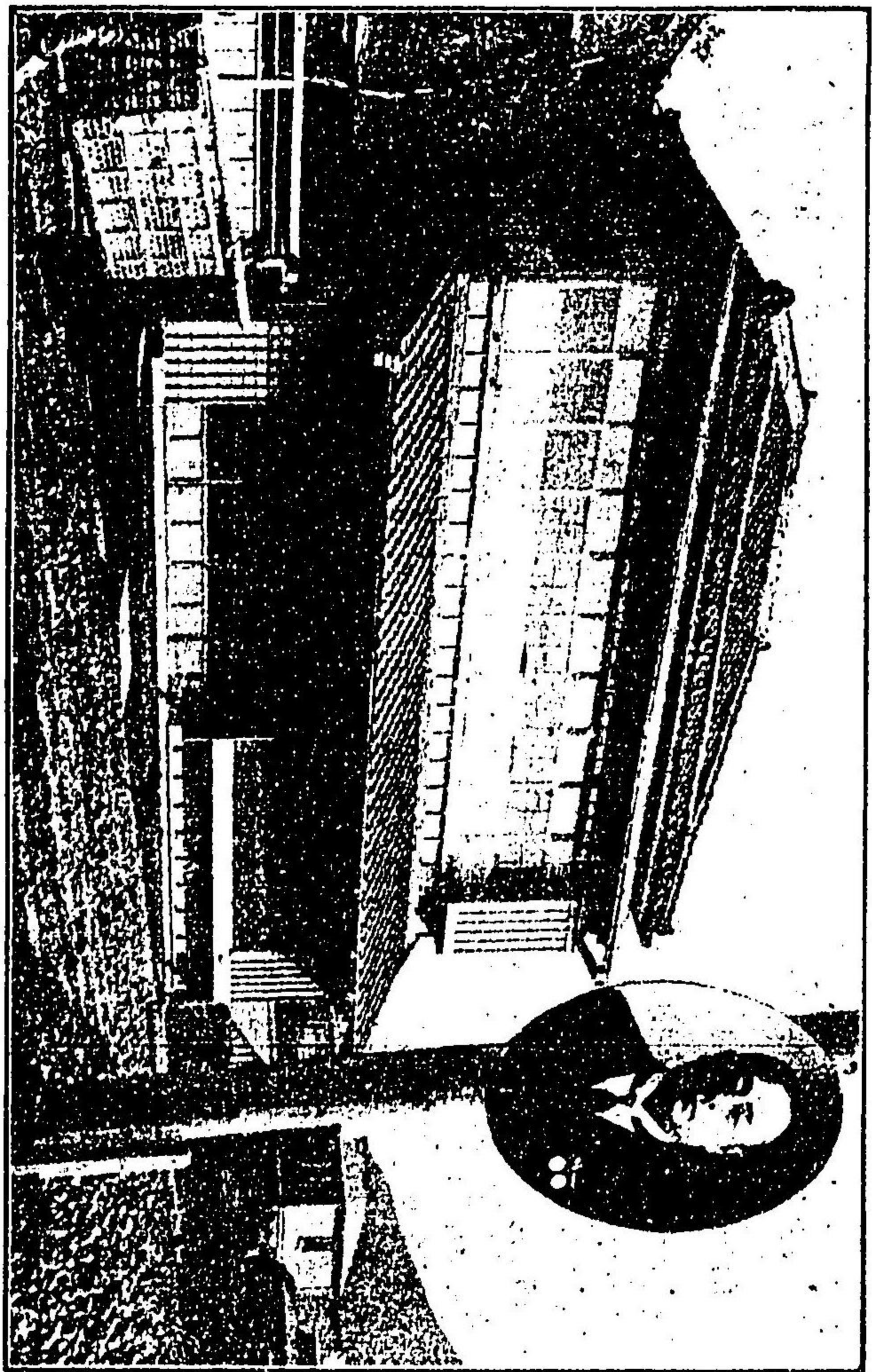


山口金治君邸宅

●山口金治氏(古平郡入舟町)

所謂ヤン衆の一炊ぎに過ぎざる卑賤より身を挺して遂に古平美國積丹三郡を通じての大漁業家たるを膺ち得たり先代山口金治氏は夫れ精力主義の人乎抑も堅忍克己漸を以て其基礎を堅ふしたるの人乎吾人金治氏一代の閱歴を査し金治氏の堅忍自重の人にして急進せず權道を辿らず漸を以て山口家隆運の基を開きたる人なるを知り深く其の成効の立志傳的なるに服するものなり山口氏は南部の人十六歳本道磯谷中一西川漁場の飯炊きに雇はれて來道してより漁夫として幾辛酸を嘗め廿五歳の時岩田金兵衛氏に其の手腕を認められ積丹に於ける同氏支配漁場の副支配人に取立てられ精勵多年後ち又美國に於ける岩田漁場の監督をも囑托せられ積丹美國兩郡を通じて岩田漁場を支配する三十年餘五十九歳に至る此の一事如何に氏の堅忍苟くもせざる自重家たるを知るべし五十九歳獨立と共に美國に漁業を古平に吳服店を營みしも後ち吳服店を閉店し漁業専務と爲し遂に古平美國積丹三郡を通じて十ヶ統以上の經營を爲す大漁業家たるを膺ち得たり不幸四十一年病没し現代金治氏家督を繼ぐ氏は先代の眼識に叶ひ特に乞ふて養嗣子と爲したるの人果然先代の明を辱めず古平町有力有爲の士として名聲籍甚たり。





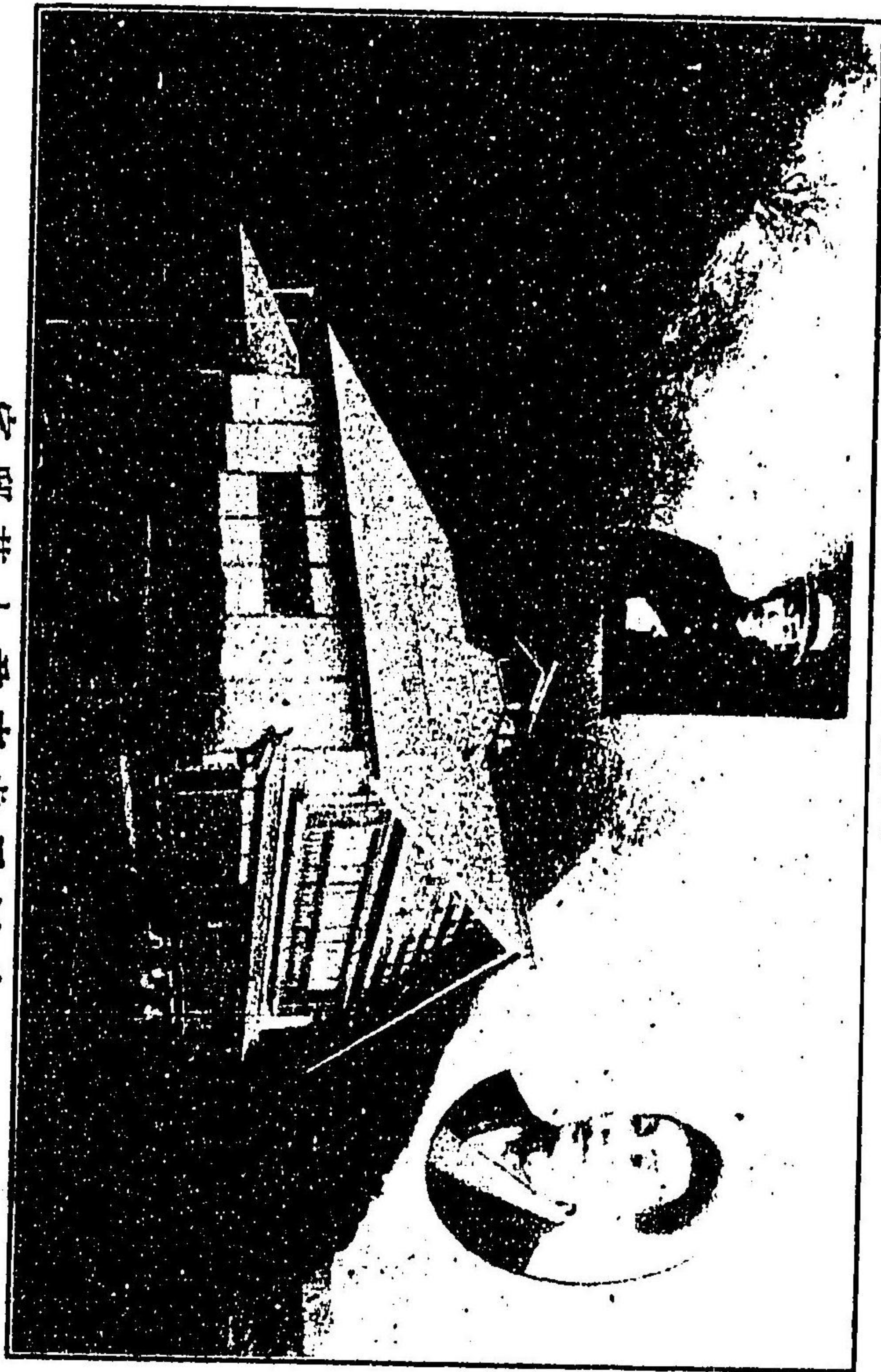
藤澤勇造氏と小樽支店

◎藤澤勇造氏(古平郡新地町)

藤澤勇造氏は最近古平港に於ける第一の成功者なり明治廿五年少資を携へて古平に來りてより其の經營の才其の手腕の敏加るに誠心誠意なる行爲大に江湖の信用を博し年と共に成功して遂に今日の隆を來せり氏佐渡の人萬延元年一月を以て相川村に生る先考は久平氏家海産間屋を業とす明治廿五年六月氏故山を辭し北海の天地に爲すあらんを期す當時帶ぶる處の資僅に二三百金に過ぎず然れども用意周到なる氏は古平に居をにするや直に水車業を経し先づ糊口に窮せざるの方法を講じ傍ら多年習練せる海産業に従事す注意此の如きの氏豈に些の失敗あらんや經營の事業着々成效し成效と共に江湖の信用を博し信用と共に業務愈々發展し遂に巨然として成效を贏ち得るに到れり明治四十年小樽に支店を設置し熾んに海産物賣買を爲して更に一層の隆を加ふ支店經營は氏の養嗣子主として其の衝に當り其の敏腕にして社交に長じ商機を案するの巧敢へて岳父の譲らずと聞く支店の隆想見すべき也勇藏氏又力を公共事業に盡し村治に焦慮し廿七年總代人に選ばれてより現時町會議員たり常設委員たるまで連綿として選舉せられ傍ら古平公民會々長たり藤澤氏の如きは眞に摸範とすべき成效と謂つべきなり。



君郎太常田反八



宅邸共と君吉虎田反八

●八反田寅吉氏(古平郡歌楽村)

古平地方紳士資産家多しと雖も謹嚴方直生來未だ曾て旗亭に登りたるなく所謂茶屋酒の杯を把りたるなきの人士存するや恐らく何人も此の如きはなからんなり此の間八反田氏資産家として知られ有志家と推され乍ら其の品行の方正にして謹嚴なる生來未だ一度も旗亭に登りたるなし況んや酒杯をや吾人は八反田氏此の如き謹直の昔日種々辛苦の慘を忘れず資産家たるを麻ち得たる今日尙ほ且つ之を子孫に教へん爲めなるを知り深く其の人格の超凡なるに服せずんば非ず八反田氏は青森東津輕郡蟹田村の八氏の宗家は幕政時代より古平に出漁せしも今を去る三十年前一家を擧げて古平に土着し氏の先考定吉氏明治十三年分家獨立一家を爲せり氏孜々として父業を援く明治廿六年定吉氏五十九歳を一期とし冥目さる氏の家を繼げる當時より年々の不漁漁業家の多くは倒産の悲境に陥り氏の家は勿論宗家又此の悲境の渦中に在り氏自家を幸し更に宗家を督せざる可らず而して不漁依然たり此の間を處する氏の苦心焦慮眞に慘憺を極め筆紙の克く盡く盡く處に非ず氏の産をなし名を成したる今日依然として勤儉克己自ら奉する眞に傳ふべきに非ずや吾人は幾多成效家の氏に就て學ぶ幾多からんを勸告するものなり。



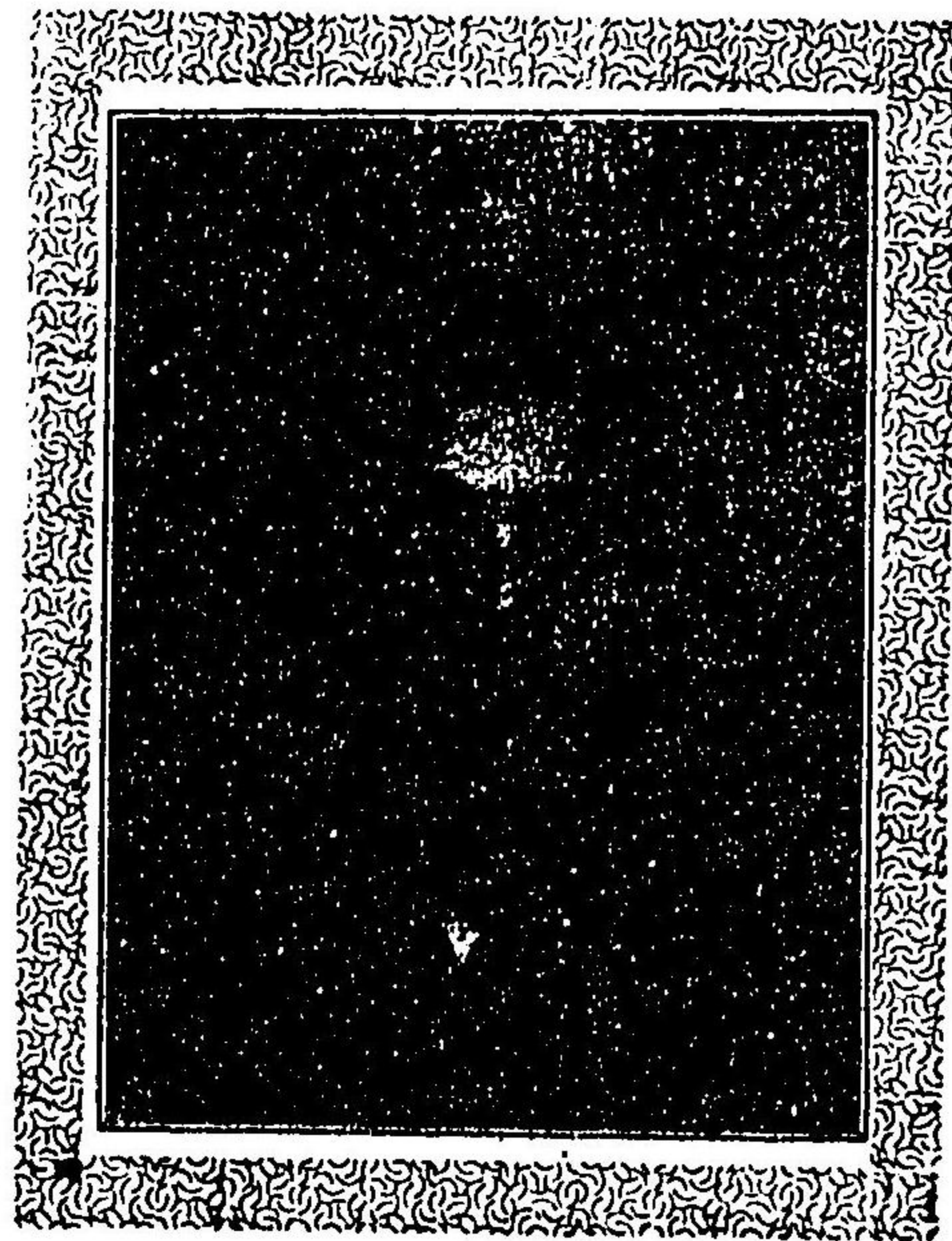
●竹村峯吉氏(古平郡 群來村)

古平郡群來村の重鎮を問は、何人も先づ指を竹村氏に屈せざるなし然り竹村氏は老實なる漁業家として力を村治公事に濺ぎ一村畏敬せざるなし氏渡島上磯郡上磯村の人にして竹村金兵衛氏の二男たり明治十年金兵衛氏の古平郡群來村に漁業を經營するや氏其の衝に當つて精勵甚た努む廿六年獨立經營を了するに到てより四弟に名聲を知られ遂に群來村の重鎮として知らるゝの今日を來せり今氏の公職其他に選はれたる閱歷を見るに△卅二年八郡來村總代に當選△同年漁業組合議員に當選△同年水産物營業組合員に就任△卅四年教育衛生會評議員に當選△同年學務委員赤十字社委員囑托△卅五年漁業組合議員改選に際し再選△同年古平組合取締人同水産稅區會議員に當選△卅七年六月二級町村議員に當選△同年古平第七部長に就任△卅九年物産共進會地方委員囑托△四十年古平町會議員に當選是れ氏の閱歸の大要にして現に町會議員として熱心なる學務委員として其の名聲を歌はる其の表彰を受けたる余市水産會に身受數の子を出品して木杯を受けたるの外資を献し財を投じて公事業を助け褒狀を下賜されたる前後數回を算す吾人は群來村の爲め斯る誠實篤行重鎮として仰かるゝ氏あるを慶するものなり。

●齊藤兼太郎氏(古平町 入船町)

過去古平を知れるの人士にして大漁業家齊藤清四郎と云へるを知らざるはなげん斯くして齊藤家を知れる者にして同家の戸主權を爭ふもの出て訴訟數年に亘りし一事を知らざるはなからん齊藤氏は金子家より出て、其の分家に入籍したるの人齊藤家や不幸斯くの如き訴訟に其の資産の多くは訴訟費用に蕩盡し辯護士の利する處となり剩す處世の反感に過ぎざりしに於いて古平の舊家齊藤家も又悲しからずや兼太郎氏は小樽郡朝里村金子倉吉氏の弟なり氏等の先考小樽金子家の支配人として二代に歴任し其至誠忠實なる金子家の爲めに圖て永年一日の懈怠なく一點の私なし金子家其の忠勤を表彰するか爲めに特に先考に金子の姓を分ちて其の功勞を謝せしなりと云ふ兼太郎氏明治七年を以て生れ廿九年齊藤家の分家に入籍家督を繼ぎてより孜孜として一日を空ふせず着々經營の歩を進め其の頭腦の明晰なる其の氣骨の稜々たる加るに新智識に富むあり少壯の身を以てして次第に頭角を顯はし名聲を知られ四十年一級町村制の施行せらるゝや大多數を以て町會議員に當選し自來謬々の議町會有數なる討論家として推さるゝも氏慢せず愈々業務に忠實なり氏の資産を以て名聲を以て顯はるる豈に遠き將來ならんや。





米田惣太郎君

●米田惣太郎氏(古平村)

漁業家にして其の副業に鋭意するは賢明なる漁業家たるを失はず寔に漁業本位を以て世を律し得し時代は去りたればなり吾人は米田氏の少壯の身を以てして夙に爰に留意し牧場を経営して怠らざるの識見に服するものなり米田家の祖權八氏青森東津郡母袋目村の人松前藩政時代己に古平地方の漁利に豊なるを看破し屋を沖村にして漁業を経す自來現代惣太郎氏に至るまで四代孜々として漁業を營み歴代の主盡く賢明克く祖の意を體し漸を以て進み次第に漁業を擴張し遂に鯨建網三統鮭網一統を経し嚴たる米田漁の今日を來せり惣太郎氏家を承くに當り巧に先代の資産を守て家名を失墜せず加ふるに慈善事業に力を濫し漁業家以外一個の慈善家として知らざるなく其の稜々たる俠骨新進氣鋭の概一人氏を推重せざるなく一級町村制の施行せらるゝや推されて町會議員に當選し并に常設委員に推され町政治の發達に貢獻しつゝあり殊に漁業の前途を慮り副業として牧畜業を経せんとし沖村原野に百萬坪の貸下を受けたるが如き眞に遠識と云はざるを得ず同牧場たる目下經營中に屬し其の詳細を記する能はざるを遺憾なりと爲す米田氏や少壯尙ほ春秋に富む而して此の遠見あり前途の發展眞に有望なるかな。

小樽區外七郡案内





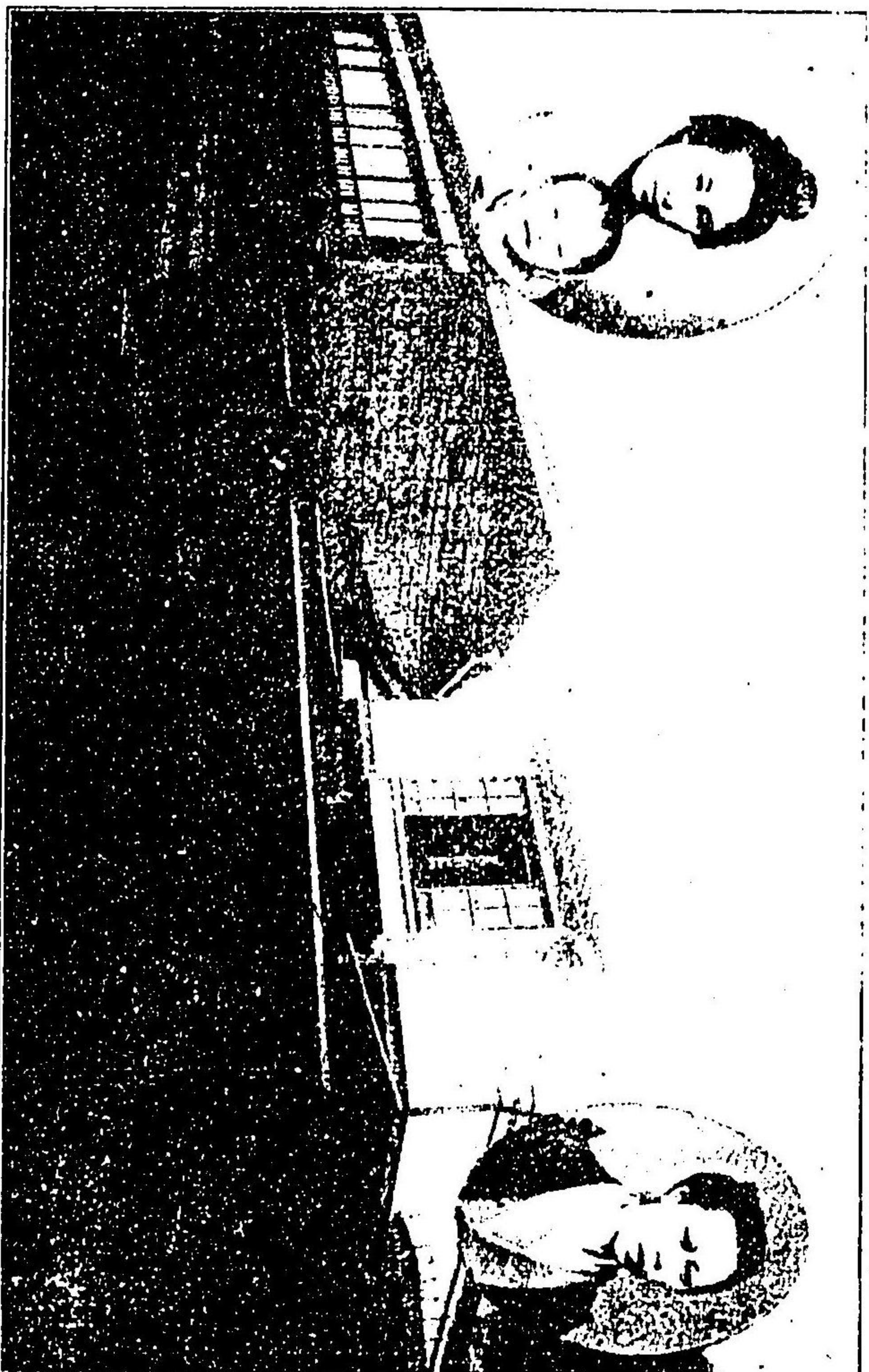
村井徳三郎君



村井隈太郎君

(20)

村井はる子



村井しい子

村井氏邸宅



●村井隈太郎氏(古平町 新地町)

明治卅六年古平の地宮林貸下町村基本財産問題起る當時高野氏と共に道廳出頭し町民の希望を陳述したるは村井氏なり卅九年假道路廢止問題の起れる時藤澤氏と共に代表委員に選定されたるは村井氏なり村井氏の俠骨稜々として一身の利を顧みず克く地方公事問題の爲め盡瘁したる功と勞と必ずしも吾人の贅筆を要せざるべきなり氏岩手縣盛岡の人少壯郷國に踟躕たるの逸居を欲せず遙に北海の天を睨して雄志あり明治十四年三月驟然空拳を揮て本道に航し古平に入り新地町に居をにす自來商業に漁業に屢々之れを企て、屢々失敗す豪懷磊々氣宇の大なるの氏毫も悲觀挫折せず一敗を経る毎に更に奮起し再敗愈々意氣を鼓し廿年餘の奮闘經營遂に今日の産と名とを贏ち得たり氏資性任俠一諾を重んじ不義不正を惡む蛇蝎も當ならず去れば其の失敗時代たると得意時代とを別たす力を公事に盡し身を村治に捧げ町村問題の爲めには常に代表者に選はれ他村への交渉官衙への折衝一として氏の力に待たざるなく古平今日の發達進歩氏に負ふ處實に少小にあらざるなり而かも氏の熱誠にして任俠なる如何なる難事も難事と爲さず公共の爲めとし云ふ努力倦む事を知らず其の勢力名望は自然の理のみ豈に怪を要せんや。



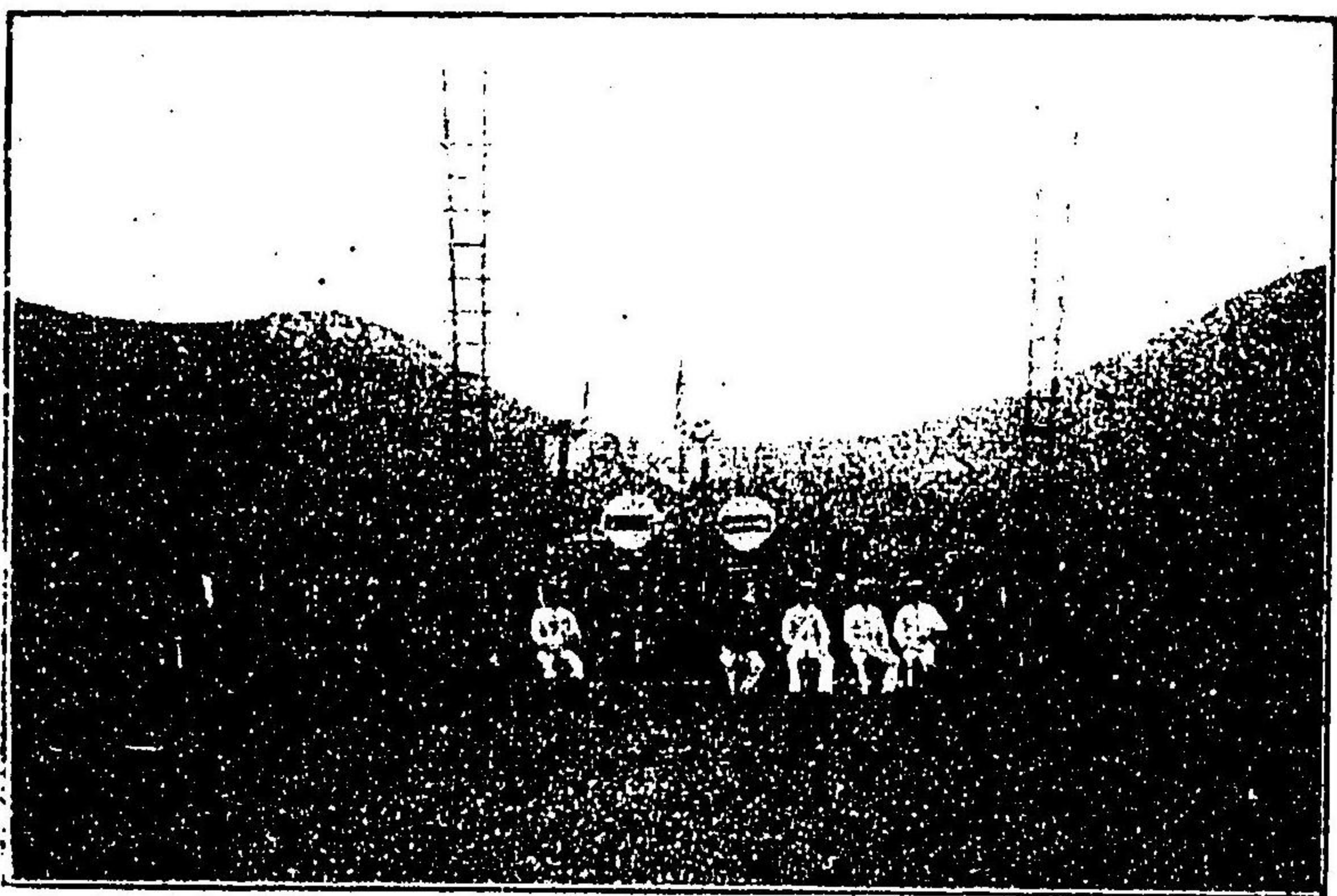
渡邊宗作氏商店

●渡邊宗作氏

(古平町 入船町)

一行商より身を挺して今日の富と名聲とを爲す廿有餘年間の奮闘とは云へ渡邊氏夫れ立志傳中の人民越後國刈羽郡刈羽野村の人明治十六年網綿糸の一行商として古平に渡航し同地を中心として余市美國積丹古宇の地に行商を試み精勵屈せざる十餘年遂に卅年を以て商店を開くや盛運を來し卅二年美國郡宇山中に鍊建網を營み嚴る今日の基礎を來せり氏又古平に倉庫業者なく金融上不便ながらざるを慨し卅四年石造百坪餘の倉庫を建つ是れ古平に於る倉庫業の鼻祖たり氏の成効達見真に傳ふべきかな。



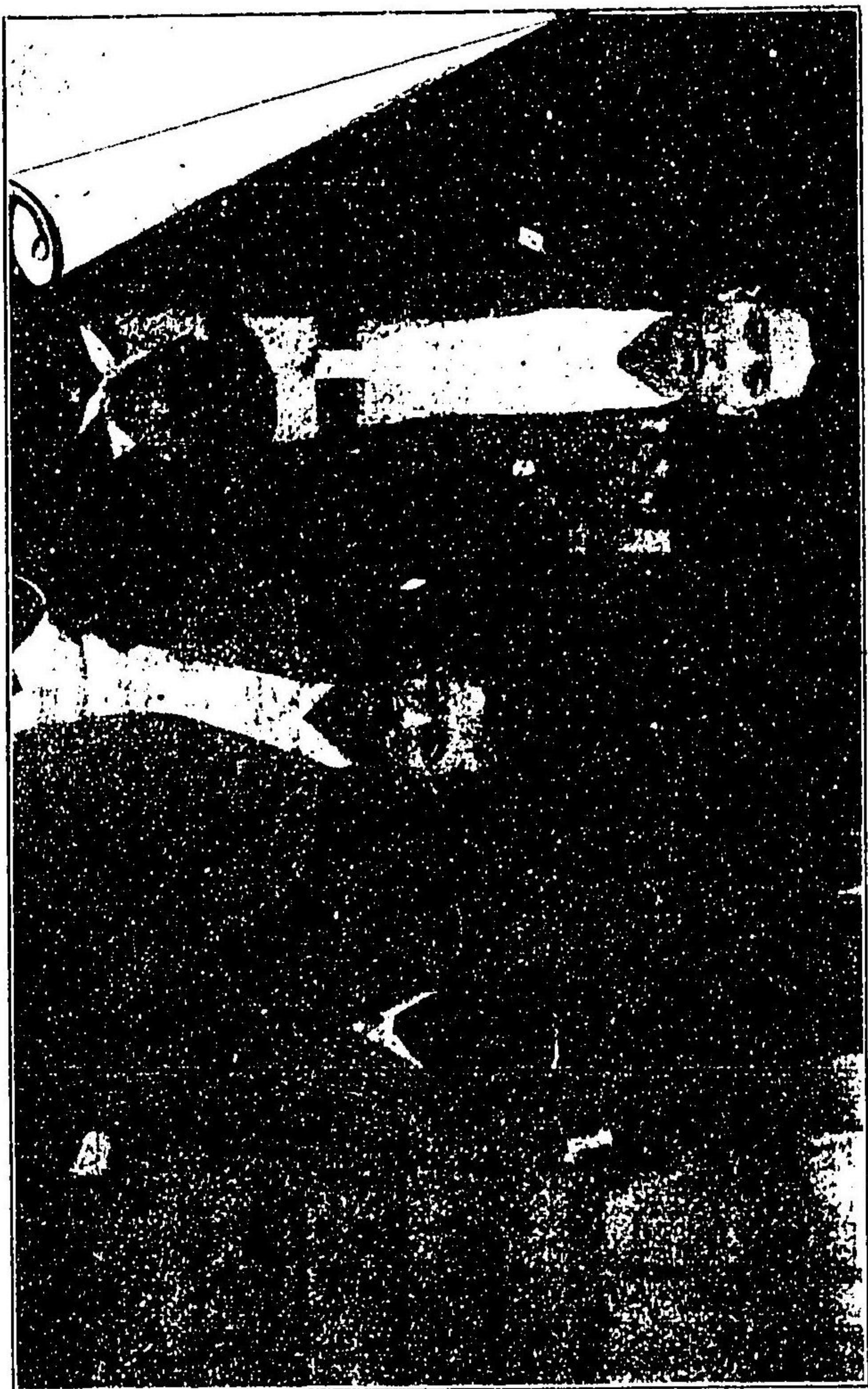


古平組消防出初式に於ける中村榮太郎君

● 中村榮太郎氏

(古平町)

中村氏は古平町に於る町會議員として消防組頭として盛名あるの士なり郷里は江差福山家代々漁業を経せしも氏の先考喜三氏明治五年居を古平に轉し商業を経す榮太郎氏明治十一年を以て古平に來り父の務業を援く家を繼くに當り廿七年肝油製造業に従事し經營十ヶ年にして廢止し専ら力を漁業に盡し傍ら金物業を營み更に木材業を経す古平に一級町村制を施行せらるゝや町會議員に選ばれ又消防組頭に推され其の業務に熱心なる會て病軀を以て河中に投し消防を完ふしたるが如き萬目し推て以て模範消防組頭と爲す。

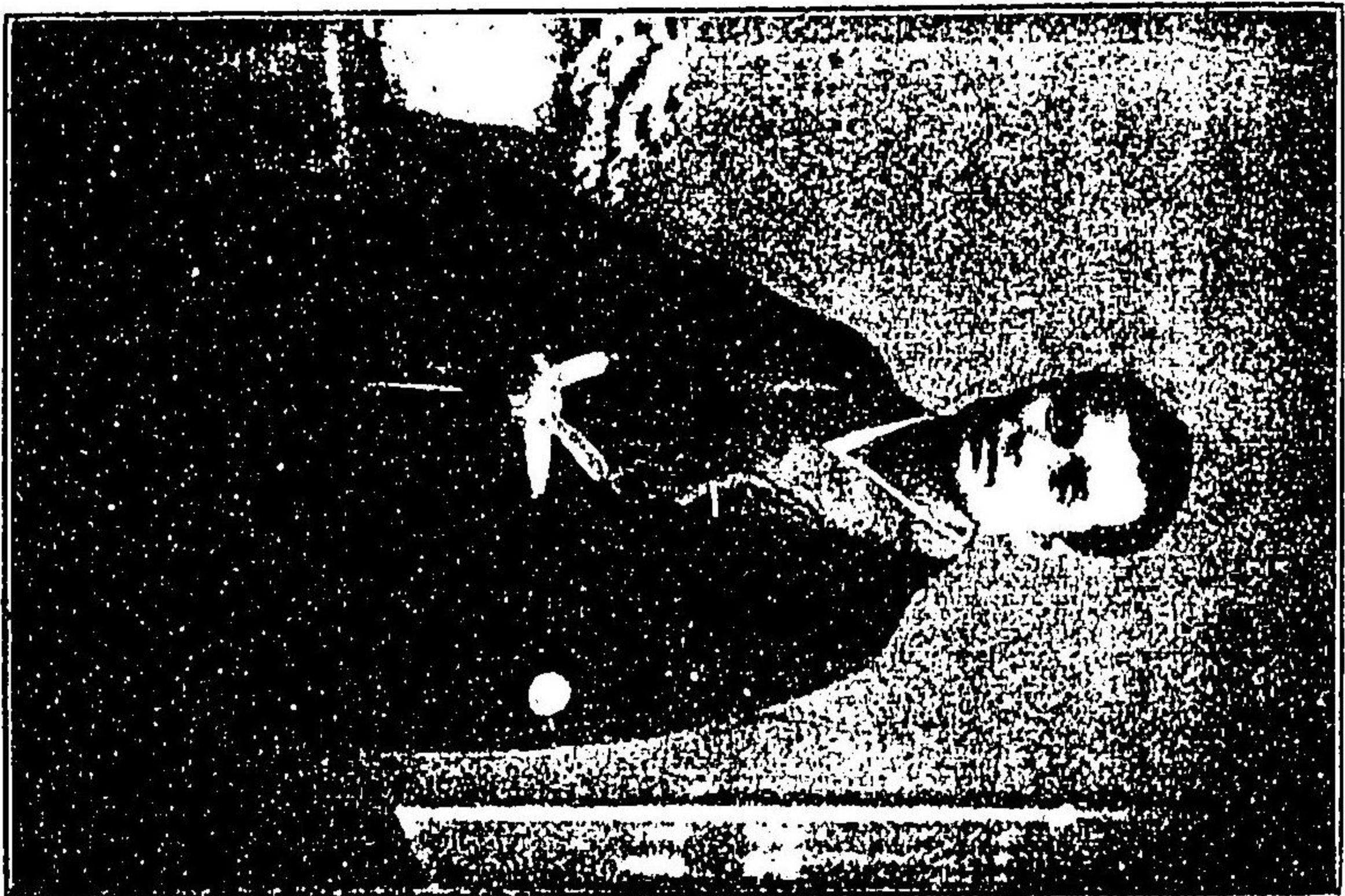


河本久氏と其家庭



●河本久氏(古平郡 濱中町)

古平郡中に名醫を求めて何人も河本氏の診察を受けざるはなし寔に其の名聲の喧々として衆庶の信頼比し得るものなければなり氏大坂の人明治七年を以て生る家代々醫を業とし先考正澄氏醫名を以て遠近に聞ゆ氏幼少より醫師たらんを期し精勵群童を抜く弱年笈を負ふて東都に出で日本中學校に入り苦學五年同校を卒業するや進んで千葉醫學專門學校に入り卅四年優等の成績を以て卒業し首尾好く多年の志望を達し錦を着て故郷大坂に還り先考の醫業を援けて實地の研鑽を積む一ヶ年餘更に實地診學を研究するの保險醫に利便多きを察し日本生命保險會社の診察醫たる二星霜得る處啓發する處少なからず己にして本道美國病院の敏腕なる院長を求むるに際し卅七年美國病院長に聘せられ在職五ヶ年の久しきに亘り大に其の名聲を馳す去れと古平の地の良醫に乏しく醫療上遺憾多きを慨する町民多く遂に氏を煩はして古平の地に獨立開業せんを求む氏之れを快諾し美國院長の椅子は之れを令弟讓氏に譲り本年五月居を古平に轉じて獨立門戸を張る氏診察の妙其の一祖同仁主義は大に町民の信頼を博し開業日尙ほ淺しと雖も其の名聲は噴々として郡の内外に聞ゆ古平の地此の良醫あり郡民の安意夫れ幾干ぞ。



鶴田正壽

水  
鶴田正壽

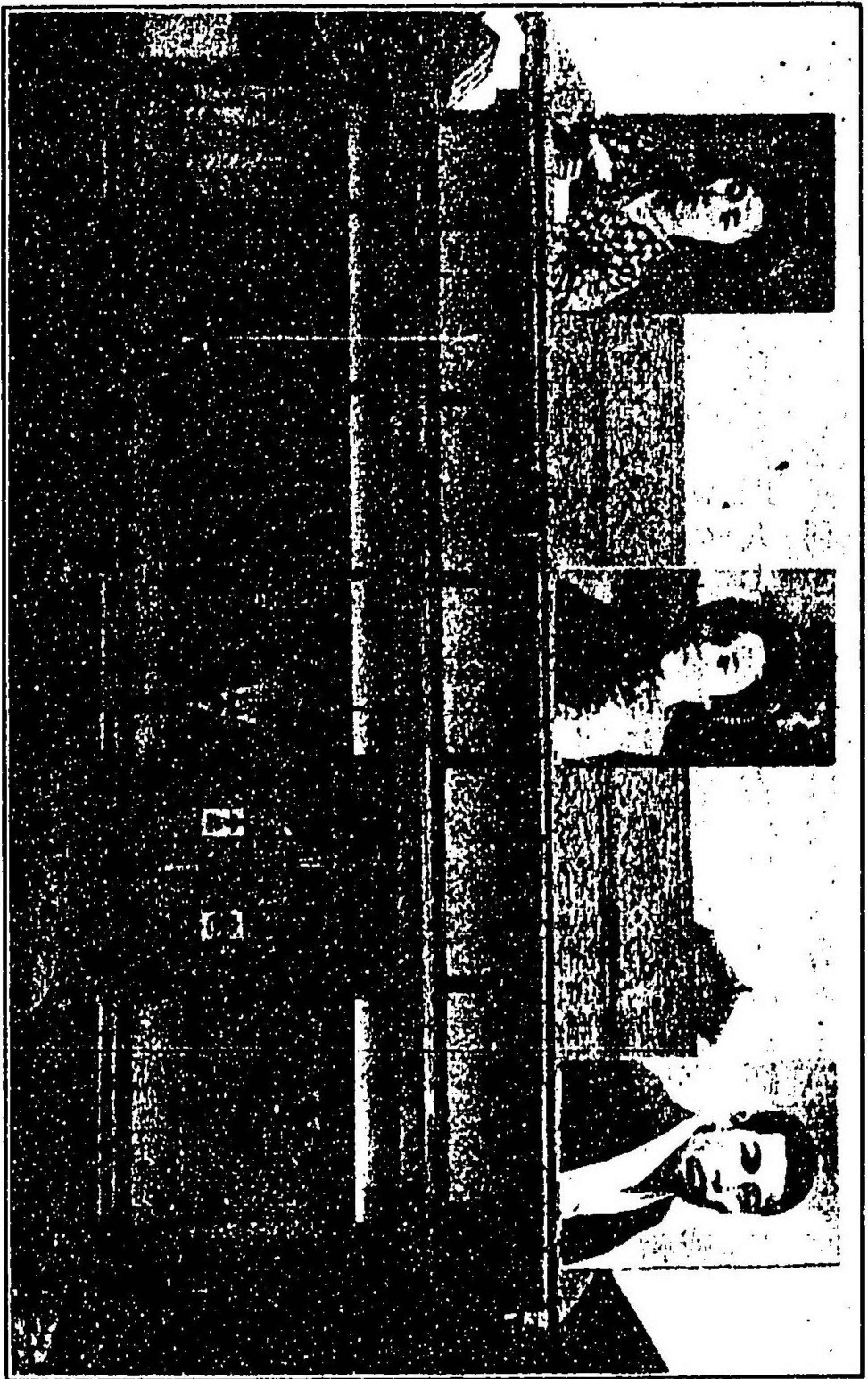
古平郡古平町大字入船町

鮮魚問屋



●鶴田正壽氏(古平郡入船町)

苟くも卒先一業を經して其の鼻祖として推さる尋常にして豈に之れを好くし得んや況んや成効を博し得たるに於いて識見手腕兩つなから兼ね備ふるにあらざれば能はざるなり鶴田氏の卒先古平の地に於いて生魚輸出を企てたる達識たらざれば能はざるに非すや己に之を企つ年々販路を擴張し其の事業の隆を來す手腕あり經營の才に富むにあらざれば能はざるに非すや知るべし鶴田氏の達識にして手腕あり經營の才に富むの人士なるを氏明治六年を以て茨城縣水戸市に生る家は薪炭問屋を業とし諸官衙諸病院等に納品し家業盛太氏又家業を援けて精勵し益々其の隆を加へしも一朝相場の激變に逢ひ大損害を來してより經營古の如くならず蹉跌し蹉跌遂に大失敗を來し家産を蕩盡し赤條々の身と成る鶴田氏屈せず直に北海の新天地に航して飛躍再舉を計らんを期し幸ひ古平入船町の宮部安藏氏の叔父甥の間なるを以て同氏の許に赴き同氏の斡旋を以て海産物仲買業を營む氏豊富なる古平地方の生魚を見之を各地に輸送して利するあらんを期し卒先生魚を余市札幌小樽の各地に輸送す成績好良年々販路を擴張し今や東北各地を始め東京にまで輸送するに到り古平生魚業者の爲め一新面を開くに到れり偉なりと云つべき也。



子ヨト井今 子サマ井今 君郎太松井今



●今井松太郎氏(古平郡  
新地町)

一漁夫の漁業家たるを贏ち得ると一料理人に過ぎざりし身の嚴たる旗亭を經營し得たると其の成効に於いては等しく一なり甲の一漁夫の出身たるを以て尙ぶべく乙の一料理人出身たるの故を以て輕すべきの理なし殊に新開地に於ける本道衆庶の娛樂を援くべく衆庶をして行樂を恣にせしむべく旗亭の開業は官軍之を獎勵し之を援助したる歴史あるに於いて本道に於ける旗亭業之を内地に於ける同業と同視すべからざるもの有りて存す看よ札幌函三區に於ける有名なる旗亭を盡く是れ開拓使當時の援助に依りて開業したる物に非ずや假令其の建物は火災に見舞れ經營者其の人の代を異にすと雖も官が之を補助し獎勵したる歴史は乃ち没すべくも非ず今井松太郎氏は古平に於ける有名なる旗亭丸松樓の經營者なり丸松樓たる清洒たる建築設備の良好なる庭園に幽雅なる一遊の人士をして古平又此の好旗亭ありの感に堪えざらしむ松太郎氏由來任俠身を料理人より挺して古平に小旗亭を經するや其一諾を重ずるの行爲至誠正直にして一點暴利ざるの營業は大に地方人士の眷顧を來し家業年々隆盛に遂に今日の丸松樓たる清洒なる建築を了し古平地方人士の清淨なる娛樂場として知られ益々其の隆を來しつゝあり。

●大石養淳師(古平郡  
濱町)

大石養淳師は古平郡濱町番外地日蓮宗法蓮山正隆寺の現住なり同寺は明治十五年の開基にして足達恭隆師の創立する處師は其の三代として現住し現今に於ける宏壯なる諸殿宇一大寶塔は盡く大石師の新築する處にして寺門の隆一に師の力たり大石師深く現時宗教界の腐敗を慨し自ら之を覺醒せんとて佛教界の革命兒を以て自任し布教の餘暇筆を執て機關雜誌北天教光を發行し堂々其主張意見を發表しつゝあり師が勸財布教を主張したる一節に曰く勸財布教は又別に大に得益あり如何となれば布教の功たる多く聽者の菩提心を増長せしめ慈善心を進行せしむるに在り故に利慾の汚れたるを悟りて其汚れたる利己主義の下に積みたる財を清め佛教に納めて幾分の罪を消して善を進めんとの心生するに至る(中略)今の宗門に有つては到底以て公費に於いて布教する能はず寧ろ勸財布教に依るべし況んや勸財布教の功績甚だ多大なるに於てをや云々以て師の抱負の一端を知り得べし師己に寺門に一大寶塔を建立せしも更に第二の大塔を建立せんと已に其の碑を準備せりと吾人は大石師の如き活動を期し筆の舌に勇健に布教に従事する僧侶あるを喜ぶものなり大石師の錫を古平に留むに豈古平一地方のみの幸ならんや。



品田寫真館

國 後  
町 古平

美 家 家 家  
業 業 業 業

北海道  
漁況  
一斑寫  
真帖

人像  
景色  
影撮

電話 二十番  
電 番 貳 四  
町 本 電 入 用 管  
八 十 番 電 後 村  
寫 真 館 後 村  
差 上 申 感

●品田寫真館(古平、新地町)

古平の地必ずしも地僻と爲さるも從來寫真館の存するなく地方人士をして聊か其の不便を感せしめ來りしも小樽との交通頻繁なる爲め出樽毎に僅に其の用を辯ずるに過ぎざりしも一度品田寫真館の古平新地町に開業するや尙ほ涸れたるに水を濺げるが如く大に地方人士の歡迎を受けつゝあり加ふるに其の撮影の巧妙なる最近の學理を應用する一も遅るゝなく如何なる最新なる撮影にも應ずるを以て好評更に好評を重ね大に地方人士の利便を來しつゝあり館主品田氏は小樽に於いて一流の寫真館として知られし三浦寫真館主の甥にして夙に寫真術を研究し技大に進むや更に三浦寫真館に於いて實地に撮影の術を研鑽し三浦寫真館の撮影技術其他に於いて一流の名を博せしもの氏の力與つて其の功多かりしなり一朝古平の地に寫真館なきを見るや進んで同地に開業したるものにして同館發賣になる北海道漁況一斑寫真帖は本書廣告欄にもある如く一帖價二圓にして世界三大漁場の一たる北海漁業の眞景は其の實物を見ると同一にして發賣以來好評噴々たり品田氏又身の僻地に往して日進月歩の流行學理の應用に遅れんを恐れ斯道に關する雜誌出版物一として購讀せざるなし用意眞に周到と云ふべき也。

小樽區外七郡案内



●田鎖鶴治氏(古平郡新地町)

田鎖氏は古平郡に於ける有志家なり氣慨俊英意氣裂帛の人なるも毫も名聞を追はず功利の念に淡々身は



田鎖鶴治君

樺太漁業に従事し一勝一敗至難なる經營に處して平然たり始め漁業家として古平に居住してより幾多の變遷を経て次第に成效の歩を進め又力を公共事業に盡し古平の村治に銳意し總代人時代に於いては屢々總代人に選ばれ村治に盡したるの功少な

しと爲さず而かも功利に淡きの念は何等の名聞を欲せず平然として世に處し毫も裂帛の意氣を示さずと雖も氏の氣慨の俊なるに至つては遂に掩ふべくもあらざる也。

●天旅人宿(古平郡)

曲大旅人宿は古平町に於ける唯一の旅人宿にして其の設備の完きと客室の清潔なると器具衣具類の清洒なるとは大に旅人を満足せしめ古平に来るもの争ひ投宿して其の勞を慰す館主津田清兵氏は越後の人古平に來りてより好旅館なきを嘆し經營したるものにして遂に郡内及ぶ物なき今日の名聲を博せり。

●泉商店(古平郡)

泉商店は古平唯一の洋小間物店なり其の開業の古きと流行に遅れざる良品に富むとを以て古平人士一人同店を知らざるものなし殊に同店の良品を得んに親切なる仕込は盡く之を東京に爲し所謂東京よりの直接仕入れなるを以て流行に遅れず廉價に良品に顧客に提供し得るを以て名聲高く信用隆々たり。



小樽區外七郡案内

●劉三郎氏(古平郡港)

古平港開業醫少なからずと雖も其の信用高く名聲を傳へらるゝを劉三郎氏と爲す  
劉氏夙に醫學を研究し醫學特業士として古平の地に開業してより患者に對する親切  
と一視平等なる診察とは大に地方人士の信賴を博し警察醫を囑托され信賴益々高く  
遠近來り診を乞ふもの多くして隆盛地方醫として稀有なりと云ふ。

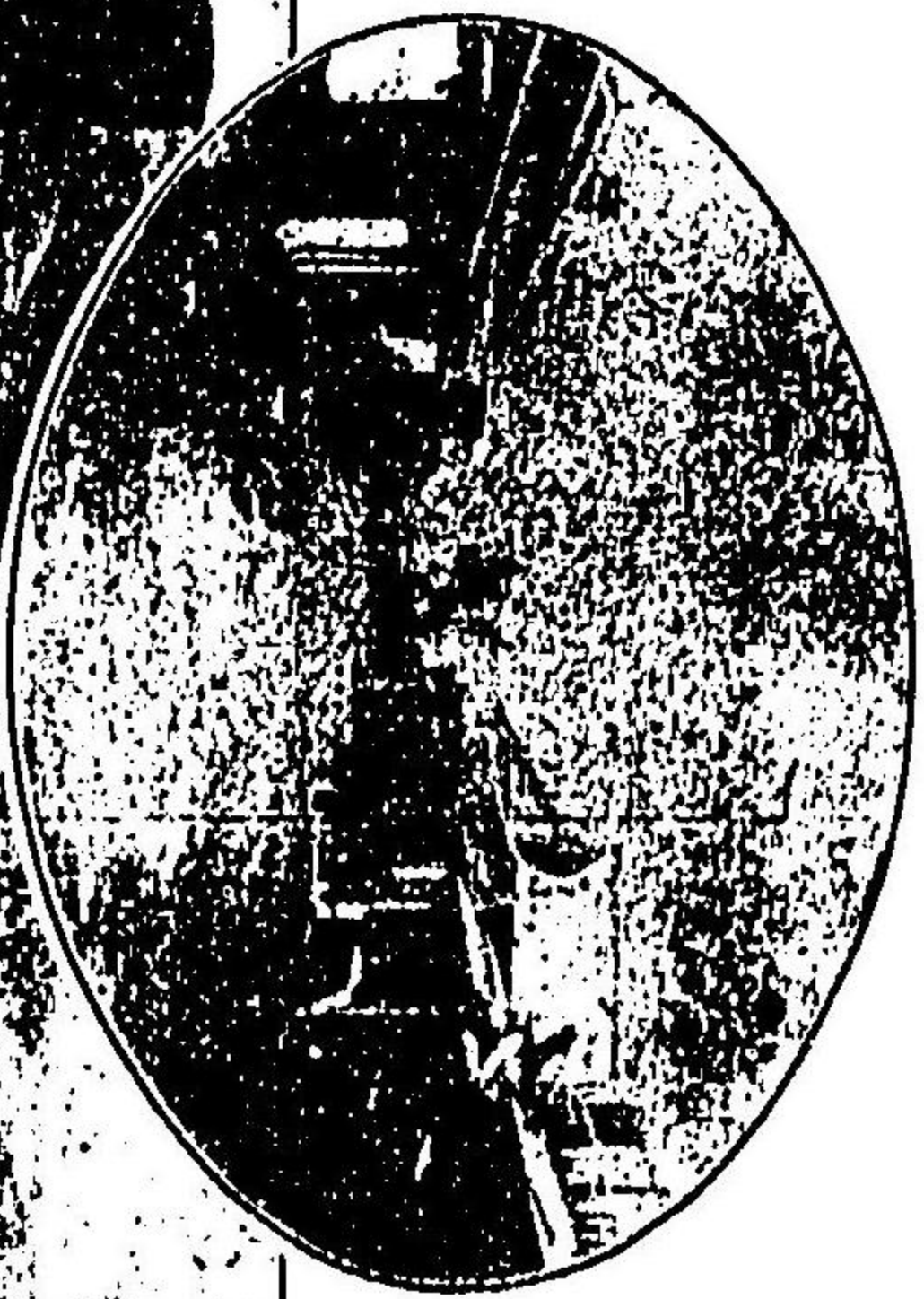
(120)



美 國 郡

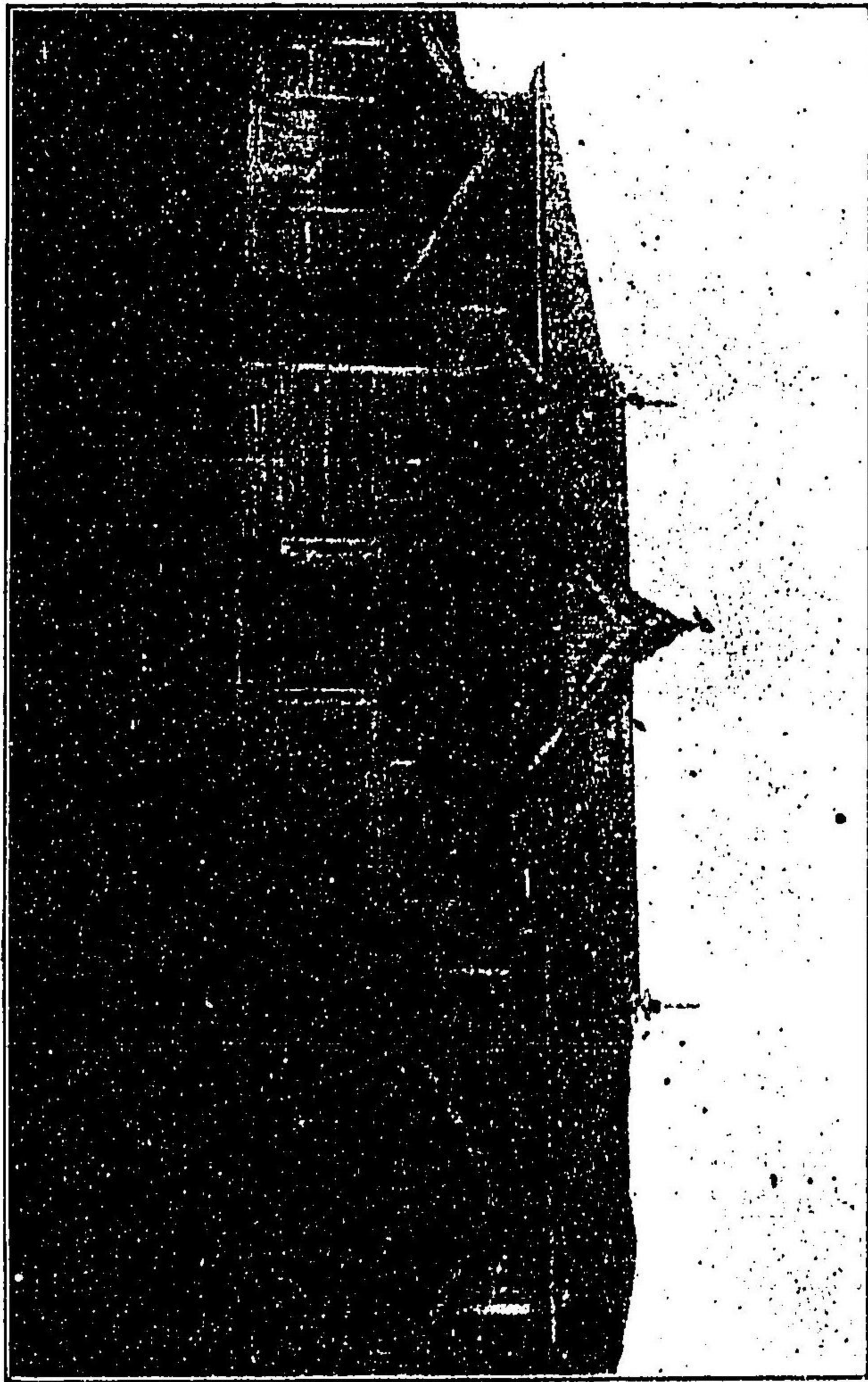


景の街市町園三



景 全 國 三





三國水産組合事務所

## 美國郡

美國郡は、是れ又小樽支廳管内有數なる鯨好漁地にして、一ヶ年の産額四十八萬七千餘圓を算するも、農産は僅に一萬一千六百四十餘圓を數ふるのみ、以て一般を察知すべきなり、地勢直に海岸に傾斜し、其の海岸は屈曲に富む、郡内六方里餘、沿革線五里一丁、南、古平郡に接し、西、積丹郡に境し、東、古平郡と相隣し北一帶海に南す、美國、小泊、船洞、厚舌、幌武意、婦美の各村を有し、戸數八百八十戸、人口五千四十餘人其の實力に富み、富有なるの一事、他町村比肩し得るもの尠し同郡は往時松前藩臣、近藤吉左衛門の領地にして、美國領又は美國場所と稱せり、而して美國の意義はアイヌ語ピクウニにして小石川の義なりと云ふ、或はアイヌ語ボクニにして蔭の意義なりとも傳へらる、其の漁場は夙に開發せられ、天明年間己に三十餘軒の漁舍を算せしと云ふ。

明治二年漁場受負人廢せられてより美國出張所設けられ、小樽詰所の管轄に屬し、漁業の隆盛と共に、次第に發達し今の船洞村は、濱通りを除くの外、盡く谷地にして荊蕪茅藪縱横たりしも市街の狹隘を來すと共に、今の沖の町、裏町通りを區劃し、割渡の上、今の市街を形ち造りたると云ふ、後ち小樽郡役所の管轄に歸し、郡役所の支廳を改めらるゝも、依然其の所轄を變せられずして、今日に及べるものなり、



明治三十四年全道に自治制を施行せらるゝに際し、美國は二級町村制を布かれ、町村の富有なる丈け、自治頗ぶる圓滿に、成績亦佳良を以て知られたり、斯くして其の進歩發達は四十二年五月を以て一級町村制を施行され、其の町會議員選舉の如きも、模範選舉を爲し無益の競争を避け、平和を保たんとの旨意より、豫選會を開き、候補者を決定し而して選舉されたる物にして、模範選舉と稱すべく當選議員左の如し。

一級、佐藤與助、花見庄吉、笹谷推太郎、山口勇太郎、磯野定繁、福井重次郎、竹内秀一、水口石藏。

二級、石川岩吉、中村剛雄、市川藤十郎、尾木爲四郎、久米桑太郎、今井誠一、小林運作、中川由太郎。

是等諸氏は漁業を以て、商業を以て何れも美國地方一流の人士にして、所謂選し得て選良を得たるもの、町長、助役、収入役は目下人選中に屬す、町役場員は村田始一、末吉園吉、管井清藏、鈴木仁作の諸氏外雇員數名にして、是等諸氏の事務に熱心にして、町民に親切なる、町民悅服令名高し。

四十年年度諸税は、國税八千七百六十圓餘、地方税一萬三千九百七十二圓餘、村税一萬二千八百二十四圓餘にして、町民特一等の負擔額村税に於いて九十一圓九十五錢、戸數割に於いて三十圓六十錢、最下等負擔額、村税三十六錢、戸數割十二錢た

り、去れば一戸平均額國税十八圓四十三錢八厘、地方税六圓參錢、村税十圓九十七錢六厘の算定を見る、町村一ヶ年の經常費は一萬二千百九十六圓餘、臨時費二千九十八圓餘、基本財産は有價證券八萬四千六百三十圓預金千四百五十五圓餘を算す、由來美國の地たる、共有海面を基本財産として競争入札に附し、使用料を徴收せる結果、本年収入の六千圓を積算し、十萬圓の財産となれり、利殖の方法として、公債の買入、現金の銀行預金を爲しつゝあれば、年々五分五千圓の利息収入あり、今後十ヶ年間の複利計算を爲せば、假令町村經濟の膨脹して、二萬圓と假定するとしても、現今町村費補給規定に依り、町村費三分の二は、利子より補給する事を得るを以て、近き將來、美國町民の負擔は輕減せられんなり、左なきたに富有なりと知らるゝ美國の地、此の好個の基本財産あり、誰れか美國町村の前途を慶賀せざらんや。

教育は美國人士の全力を濫く處にして其の校舍の建築宏壯にして文明的なる、其の設備の完全にして、諸般器具の整頓せる、七郡に冠たるの一事、以て萬事を了すべきあり、今同地に於ける教育事業の沿革を尋ぬるに、明治の初年、三浦與三藏なる人、寺小屋式の教育所を小泊村に開き、子弟教育に従事せり、越へて明治三年幕府脱走の士、吉岡萬次郎なる人美國の地に來り、等しく教育所を開きて子弟教育に従事す、吉岡氏は幕臣なる丈け、學識に富み、名聲隆々として知られ來り教を受く



るも多く、三浦教育所は自然淘汰され、吉岡教育所獨り其の隆を極め、今の美國の紳士、水口榮三郎、水口榮吉、布施彦太郎、笹谷推太郎、久末隼太郎の諸氏は、盡く吉岡氏の訓陶を受けたりと云ふ、明治八年開拓使、小泊村に教育所を創立し、同十五年小泊小學校と改稱したるもの、乃ち現時の美國尋常高等小學校の前身たり、現に生徒總數八百名を抱有す、他、幌武意村に尋常學校一校、婦美村に同一校を設く、別に美國教育會あり、學校教員地方有志家に依りて組織され力を普及教育の普及に及し、好果を收めつゝあり。

水産は美國の生命なり、幾多の大漁業家に富み、管内有數なる富有町村として知らるゝもの一に、漁利の豊なるに依る去れば其の漁業の熾なる、年々の漁獲三萬石以上に及び、郡内の建網總數二百二十二統、漁船大小四百八十隻、刺網總數四千六百八十八放、海産干場三十一萬二千二百二十八坪を算す、今明治三十二年よりの累年鯨漁獲高を見るに、三十二年二萬八千八百五十石餘、此の價格三十五萬二千〇六十三圓餘、卅三年三萬九千八百六十三石餘、此の價格卅九萬七千三百二十八圓餘、三十四年三萬三千八百石餘、此の價格四十三萬三千八百四十六圓餘、三十五年三萬二千五百七十五石餘、此の價格四十二萬六千二百四十一圓餘、三十六年三萬三千四百三十七石餘、此の價格四十五萬四千四百餘圓、三十七年三萬二千八百石餘、此の價格四十五萬〇五十三圓餘、三十八年三萬〇三十九石餘、此價格四十四萬六千七百

八十九圓餘、三十九年三萬四千四百七十石餘、此の價格四十八萬七千〇三十五圓餘、四十年二萬九千四百〇五十石餘、此の價格四十七萬六千三百六十九圓餘、四十一年二萬七千五百三十石餘、此の價格三十七萬千六百五十圓餘等なり、是に依りて之を見る、美國の地過去十年間に於いて収獲三萬石に達せざりしは、唯だ僅に四十一年度のみ、而して本年の収獲は管内唯一の大漁として知らる、以て美國の地の如何に好漁地なるかを知るに足るべし。

郷社美國神社は、由緒最も古く、享保十年五月、山城國稻荷神社伏見本社より神靈墾下付され、明治八年郷社に列し同九年社格公許されたる神社にして、美國郡中唯一の由緒ある郷社たり、外に稻荷神社五社あり、本體は何れも安政二年の交、山城伏見神社より遷座せるものなり。

寺院は小泊村に、曹洞宗觀音寺あり明治四年開基されたる寺なりしも、中途廢絶に歸せしかば、同宗信徒之れを遺憾なりと爲し、本寺と議し、長谷川大嶽師之が再建に奔走し以て現存を來せり、大谷派威光寺は萬延元年四月岩内郡三島町智惠光寺々號公稱の際公許を得、明治十六年小泊村に寺號移轉の際獨立今日に及べるものなり、淨土宗大覺寺は大本山増上寺の末寺にして、成田現淳師開基し明治十六年寺號公稱を許可せられ、以て今日に至れるものなり。

美國郵便局は、固と美國郵便受取所と稱し、古平局の管轄する處なりしも、明治



二十八年三等郵便局となり、三十二年電信事務を開始し以て今日に至る、郵便着信は六千三百八十四通、電報發信三百七通着信八千五百餘通、爲替振出二千〇五十二圓、拂出二萬四千七百五十七圓、郵便貯金高は五千五百二十圓餘にして現時局長は川崎八五郎氏、熱心通信事務の敏活を計り、人に接する親切なるを以て、局員何れも氏の意を體し令名高し。

金融機關として、北海道銀行美國出張所あり、同所は明治三十四年よりの設置にして、美國地方の金融を資する尠なからず、今昨年度に於ける同所取扱金高を聞くに左の如し。

科目	預金	支拂	殘高
定期	六八、五五一、〇二	三八、五五九、九七	二九、九九一、〇五
當座	七二四、六二三、七九	六三七、九三八、六三	八六、六八五、一六
別段	八四、五一五、五一	八三、〇四六、五一	一、四六九、〇〇
金銀	四一五、六〇六、三二	一四〇八、三六六、四二	七、二三九、五〇
送金	一五八、六〇八、〇六		



佐藤與助君





佐藤興氏と其の家産

●佐藤興助氏(美國厚村郡)

北海水産界の巨人佐藤翁然り翁は渺たる美國地方の一重鎮にあらざるなり翁や實に吾が大なる北海水産界を寛歩する巨人なりジアイアントなり看よ翁の聲名を知るものにして翁の吾が北海水産界に興へたる大なる功勞を知らざる者なく吾が北海水産界を知るの士にして翁の聲名を耳にせざるはなけん思ふに北海の天地其聲名を馳せ令名を知らるゝの士多くは是れ時事を論ずるの政治家否らざれば問題に奔走する有志家たり佐藤翁や時事を論ずる政治家に非ず問題に奔走する有志家にも非ずして名聲の隆美名の噴々たる斯くの如きは何んぞや然り佐藤翁や其の前身を洗へば渺たる一和船の船頭に過ぎず成功を贏ち得たるも固と是れ一個の漁業家に過ぎず而して名聲斯くの如く籍甚なるもの抑も佐藤翁の僥倖乎將た翁の處世に巧なるに依る乎否な否な翁は醇朴なる漁業家なり唯だ漁撈を知る名譽も富貴も聲名も何物をも眼中に措かざるなり否な知らざるなり而かも翁の吾が北海水産界名聲噴々たるものは是れ翁の漁業家として漁業家の本分責任を完ふしたるに依る他多くの漁業家唯だ鯨を捕獲し之を鰯と爲して市場に出す以外何物をも顧みざるもの多く又如何にして漁撈を



改良せんか漁網を革新せんか將た水産物の製作改良に銳意するもの少なし佐藤翁や然らず漁業家として日進月歩の趨勢に處する漁撈の改良せざる可らざる漁具漁網の革新せざる可らざるを知れり抑も文明の潮勢に乗する幾多水産物製作上に改良を施さずんは北海の水産物市場に弊價を保つ能はざるの理を知れり従つて翁の欲する處は一身の大漁にあらざるなり吾が北海水産界の革新にあり水産物製作上の改良にあり佐藤翁の一度此の志を抱くや數十年一日の如く幾多改良事業に腐心し研究し吾が北海水産界に與へたるの曙光枚舉に暇あるなし而かも翁や恬淡洒落毫も名聲を銜はず是れ却つて翁の名聲を籍甚たらしめたる所以たらずんは非ず翁の美國の地に漁業家として起てるは慶應の末年にして其前身は是れ一葉の細舟を叱咤して北海の寒風と戦ひ怒濤を蹶破して各港間の回漕に従事したる船頭たり幾多の辛勞資を貯ふるや直に美國の土地に漁業に従事し四十二年一日の如く水産物の改良に力を盡し今日に及べり翁の主宰する網敷美國三統利尻二統樺太西海岸二統にして其の網敷より云はゞ必ずしも大漁業家に非ず而かも其の名聲や噴々北海水産界の巨人として許さる。吾人は翁の益々自愛して長壽を重ね吾が北海水産界の爲め其の革新を與へんを祈らざるを得ず本道水産界年々の不漁漸やく偉人を想ふ時翁たるもの自愛せざる可らず。



佐藤其と氏郎大推谷



● 笹谷推太郎氏 (美 國 郡 船 淵 村)

笹谷氏は美國郡一流の紳士にして代表的人士なり慶應元年十一月船淵に生る先考は仁太郎氏代々漁業家たり氏年僅に十四歳既に漁業を督し明敏果斷壯者に譲らざりしと云ふ長するに及びて次第に其の手腕力量を認められ地方人士の信頼高く明治卅二年推されて美國郡漁業組合頭取に選ばれ大に組合事務を刷新して令名を博す期滿るや更に郡民の推す處となりて三十四年再び組合頭取に選ばる當時美國郡に新漁場を出願し新統を得て奇利を博さんと企てたるものあり熾んに示威運動を爲し形勢不穩郡情頗ふる靜謐ならざるものあり此の間氏屹然として動かす脅迫強請を斥け明敏なる果斷着々之れが解決を告げしめ遂に事なきを得たり自來氏の名聲益々高く郡民の信頼愈々深く水産組合となれるも依然組長に推され現に其の職に在り美國の一級町村制を施行せらるゝや一級より推されて議員と成り他幾多公職の許美國町政の發達に盡瘁しつゝあり之を聞く氏や紳士としての嗜好一として通せざるなく殊に刀劔骨董の鑑識に到りては小樽支廳管内隨一の稱ありて氏の所藏になる刀劔骨董類亦數萬圓を下らずと云ふ吾人は氏の如き紳士として紳士たり得る代表的人士の美國に去嘯するを慶するものなり氏たるもの自愛して可。

● 山口勇太郎氏 (美 國 郡 船 淵 村)

山口氏は美國の紳士として代表的人士なり氏弱冠十五歳を以て郷里岩手を辭し美



同運上屋岩田漁場の飯炊きとして來り非年ならずして岩田氏に其才幹を知られ長すると共に其の支配人に拔擢せられ忠勤多年遂に漁家として獨立し資産名聲を以て知らるゝ今日の成功を爲せしの人資性温厚にして社交に長し些の圭角なく町會議員としては總代人以來熱

心町村事業に盡し貢獻の功尠なからず水産組合には副頭取として畫策の功多く衆庶に重せられ身數統を経し漁業家として紳士として名聲噴々たり。





川崎五郎君



磯野定繁君

してより施設經營一つも誤らず家道愈々盛大なり氏資性恭謙温讓加るに識見あり町  
 會議員に選はれ現に其の職に在り令名の噴々たる由來故ありと云つべきなり。

●磯野定繁氏(美國町)

磯野氏は美國郡中屈指の人物として紳士として令名あり磯野家の祖津輕下前に出

つ往古より北海漁業に  
 従事し二代六兵衛なる  
 人明和年間己に本道鱈  
 釣に従事せしと云ふ以  
 て如何に古家なるかを  
 知るに足らん定繁氏青  
 森中學を卒業し更に笈  
 を東都に負ひ高等師範  
 學校に入り在學三年に  
 して惜むべし家政統轄  
 の爲め退學の止むなき  
 あり歸郷直に家事を宰



●川崎八五郎氏(美國郵船)

美國に於ける奮闘的成效家として知られ事實又多年の奮闘克く産を興し名を揚げたるを川崎八五郎氏と爲す氏石川縣の人徹より起つて好く今日の成效を麻ち得たるもの思ふに氏の堅忍自重而して克己精勵したる結果にして半世の閱歴何等の奇なしと雖も此の奇なきこそ氏の正道を踏み致々として奮闘したるを示す所以なり吾人は模範的成效家として寧ろ氏の如き何等の奇なく致々精勵したる人士を推すものなり寔に常人の學ふべきの點茲に爲れば也氏一度養嗣子として川崎家の人となり明治十五年美國に來るや直に酒類醸造業を經營し基礎漸やく成るや氏美國の地一の廻船問屋なく運輸の便を缺くのみならず彼我の不便少なからざるを嘆じ卒先廻船業を開始し住民其の利便に浴する多し氏の多才多能なる二業を營み經營更に屈せず別に又海産商を開始し致々として倦まず其の奮闘其の堅忍次第に産を興し今や其の信用の隆々たるる美國地方商人として一人氏の右に出づるものなく漁場數ヶ所の資本家となり外に數統の漁業權を所有する今日を來せり二十六年美國郵便局の設けらるゝや氏選はれて其の局長と成り大に通信事務の敏活を計れり吾人は氏の如き正道を踏み堅忍自重依て成效したる立志家に服するものなり。



庭家其と氏一秀内竹



●竹内秀一氏(美國船淵村)

積丹半島地に新道氣鋭智辯あるの士を求むる何人も先づ指を美國郡に於ける竹内秀一氏に屈せざるなし然り竹内氏は管に美國郡内に於ける有爲の人物なるのみならず又七郡管内地に於る有數たる人士たり資性活達頭腦明晰にして辯論風發活氣縱横應接するの人士をして快感に堪えざらしむ第三期道會議員選舉に際し余市の豪族徳光氏と對戦し決戦場裡少數の差を以て氏の敗に歸せしと雖も氏が新進の身を以て徳光氏の如き古武士と決戦し少數の差に敗れたるもの如何に氏の將來の多望なるかを保證したるものと云はざるを得ず竹内氏は石川三河の人明治四年を以て生れ竹内七兵衛氏の後裔たり明治十三年美國に航し小泊學校を卒業後或は教員となり或は通信局吏員たりしも二十三年以後漁業商業に従事し以て今日の地位と資産とを贏ち得たり氏力を公共事業に盡し殆んど席暖るに暇だになし三十四年消防組頭に推され同年自治制施行と共に町會議員に選舉せられ自來改選毎に當選し一級町村地たり得し現時尙ほ其の職にあり其他所得稅調查委員水産組合評議員會議長美國刺網共有漁場代表者等に選ばれ一町の公事一として氏の力を煩はざるはなし美國の地此の有爲の人士あり獨り美國の幸福のみに非ざる也。



君郎次重井福



君郎五富井福



\*  
小樽區外七郡案内●福井富五郎氏(美國郡船淵村)●福井富五郎氏(美國郡船淵村)

福井富五郎氏は美國の漁業家福井重次郎氏の父にして年齒己に六十有七數十年の奮闘産を爲し家を興し身は悠々家庭に一家團樂の樂みを味ひ自適逸樂靜かに老を養ひつゝ成効の範を後進子弟に示しつゝありと雖も顧みて過去の慘憺たる苦闘に及ぶ氏成効の偶然たらざるを知ると共に福井氏不撓の意氣に服さずんば非ず福井氏津輕の人天保十四年を以て東津輕郡平館村字今津に生る津輕人にして古來より本道漁業に従事し成功したる人少なからず本道漁業家の有力なる者を糺す多くは是れ津輕人なり蓋し津輕の地たる本道に近く交通上利する處あると共に又漁業に巧なるに依るもの乎福井氏の先代又然り夙に本道漁業に従事し美國の地に鯨漁を経す年々漁期に來り終了と共に歸郷せしも富五郎氏決する處あり明治十九年家を擧げて美國郡船淵村に移住し専念漁業に従事す富五郎氏人となり剛直浮華を壓ひ年々の漁業收利少なからずと雖も毫も奢侈を衒はず身を奉する勤儉精勵衆に先んじ孜孜として倦まず若々家産を治め基礎を堅ふし遂に今日の地位と資産とを爲せり堅忍斯くの如き氏は更に餘力を以て樺太に漁を経し着々成効しつゝありと云ふ一擲千金の奢を衒ふ漁業家に鑑みて顧る處を知らざる可らず。

(142) \*  
\*

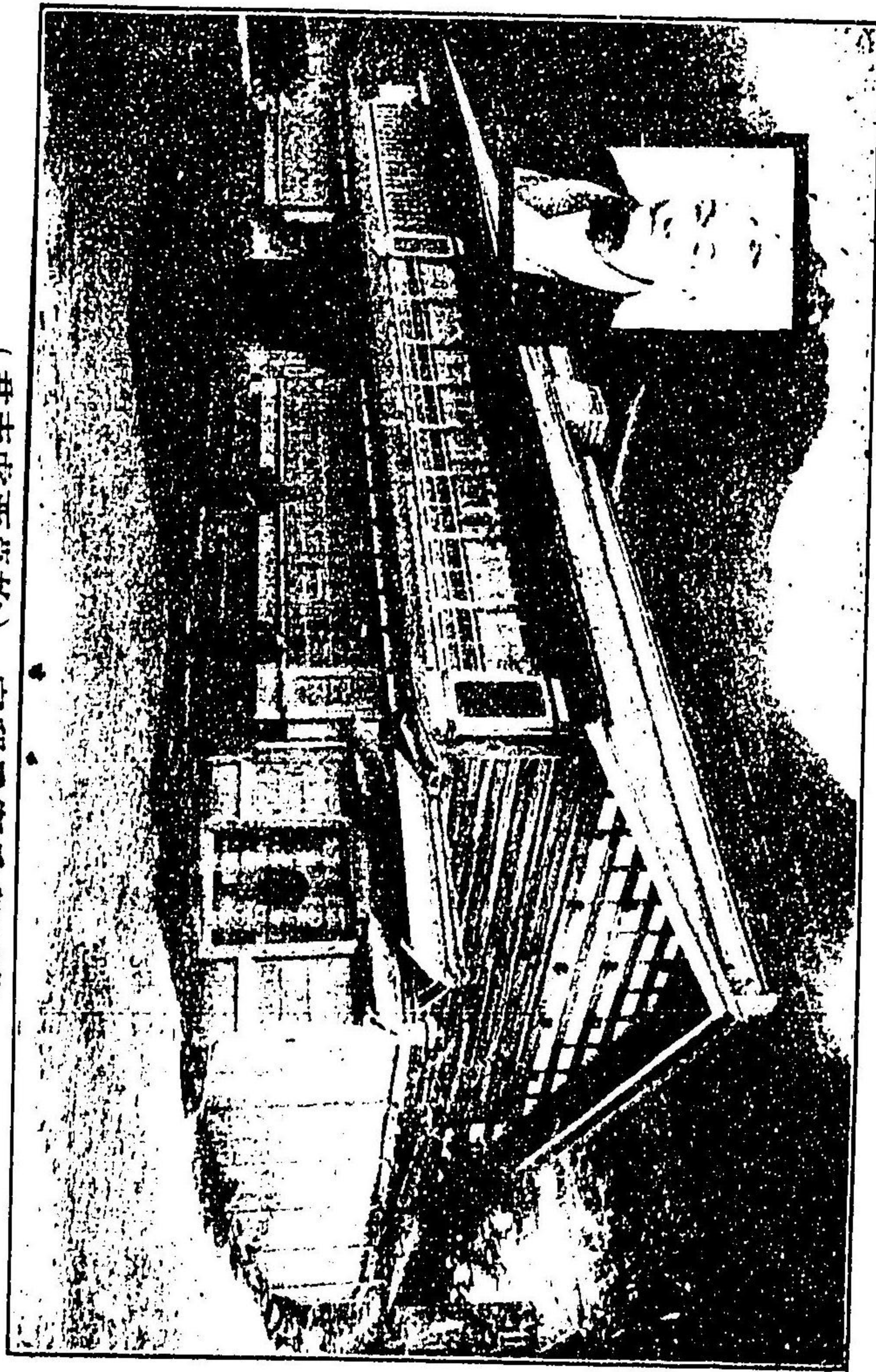
久末太郎君

(143)



●久末隼太郎氏(美國郡 小泊村)

美國地方に於ける新進家にして將來の有望矚目に價へするの何人なるやを問は、萬目の視る處十指の指す處久末隼太郎氏を推さざるなし然り久末氏の壯齡を以てして氣鋭に新智識に富み加るに俠骨稜々として一諾を重んじ兼ねて慈善事業に意を濶く處將に是ら美國青年の旗頭人の氏の將來に矚目し有爲の材と爲す斷じて偶然たらざるなり隼太郎氏の考善右衛門氏は美國の元老として美國地方の重鎮として老齡七十に垂んとする身を以てして尙ほ郡民に重せられ其の明晰なる頭腦超凡なる博覽強記を以て其の鑿鑿たる毫も壯者に劣らず之を聞く善右衛門氏明治の初年江差より美國に轉住してより或る時は戸長として或る時は總代人として或る時は水産組合長として或る時は農會の會頭として或る時は村會議員として美國地方の發達に盡し清廉潔白なる人格犀利なる果斷地方利益の爲に計つて一點の私しなく其名聲の隆德望の盛美國の元老重鎮として一人善右衛門氏の勢威を仰かざるなし隼太郎氏此の如き傑士を父とし口夕教を其の膝下に受く隼太郎氏の強記にして果斷なる蓋し父の衣鉢を傳ふるもの今や美國以外樺太の地に漁業を經し益々其發展を畫しつゝあり斯の父にして斯の子あり久末家の前途唯た隆盛の一ならんのみ。



(君吉虎西葛故) 宅邸氏衛兵與西葛



●故葛西虎吉氏(美國郡 小泊村)

名物男として知らるゝに到る由來容易の業にあらざるなり任侠にして豪懷仁慈にして博愛而して識見の之れに伴ふあるに非ざれば所謂名物男たる難し葛西虎吉氏は美國の名物男たりしなり赤裸々たる一漁夫より身を挺して美國郡有數なる大漁業家たるを贏ち得更に名物男として聲名を博す尋常の器にして豈に此の成効此の聲名を博し得んや思ふに葛西氏は是れ立志傳中の人にして又英傑傳の人死して威名の尙ほ噴々たる故ありと謂つべきなり虎吉氏陸奥國北津輕郡脇本村の産少壯志を木道漁業界に寄せ一漁夫として渡道し足を美國の地に留め備に辛酸を嘗め更に船頭と爲つて積丹其他に勞力し粒々の勞苦零細の資を苟くもせず勤儉貯蓄徐ろに雄飛の素を養ひ遂に小泊村に漁場を購入し獨立漁業を經營してより年々の大漁と氏の巧なる經營とは相待つて資産を増殖し其の居宅の如き三萬金を投じて新築したるが如き盛隆を來せり氏資性任侠にして豪宕一諾を重んじて人の爲に盡し公共事業に盡瘁したるの功擧げて數ふ可らず總代人時代より總代村會議員消防組頭に推され名物男として知られしも惜い哉六十四歳を以て白玉樓中の人となれり嗣子與兵衛氏家督を繼ぎ先考の名を辱めず家門の隆眞に欽仰すべきかな。

●市川藤十郎氏

(美國郡 船淵村)

赤毛布一枚の身より四十年の奮闘産を興し名を馳せ老來尙ほ力を公共事業に盡して倦むを知らず市川藤十郎氏眞に是れ立志傳中の人ならずや氏越後長岡の人明治の初年赤裸々の身を本道に挺してより足を美國地方に留め行商に小賣業に回漕業に海陸物産仲買業に幾多の業務を經營し更に鯨漁を營んで遂に家礎を堅ふし四十年の奮闘自助天は自ら助くる者を助くるを實にし六十九歳の老境意氣毫も衰へず町會議員に衛生組長に選はれ其職責に忠實なる倦むあるを知らず市川氏眞に是れ模範的奮闘家と云つべき也。

回漕業  
海産商

美國郡美國町大字船沼村

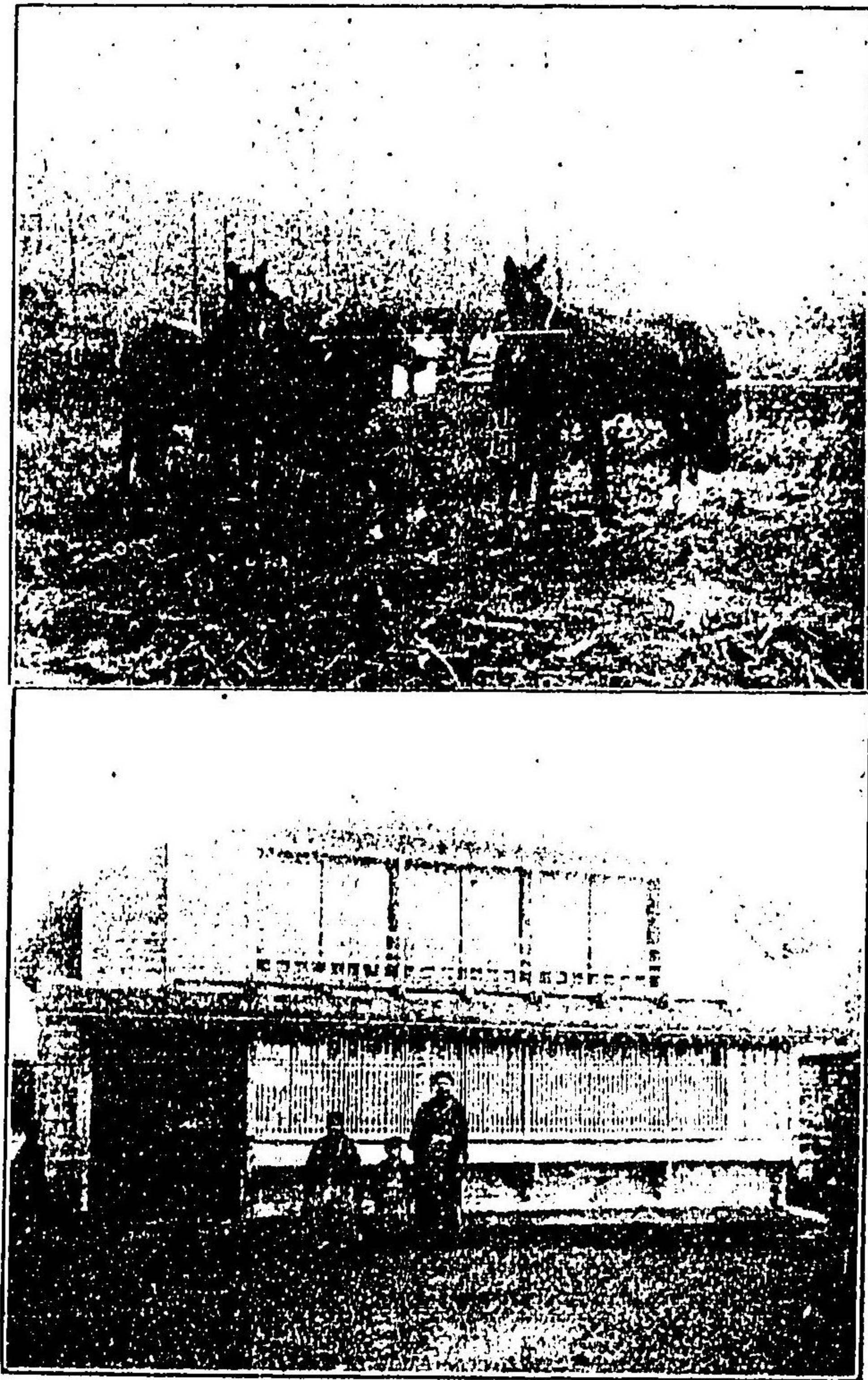
市川藤十郎



●明正太四郎氏(美國郡船淵)

明正氏は眞に是れ赤裸々たる和船の船頭より身を挺して今日の成効を贏ち得たるの人其の堅忍不拔の意氣其不撓不屈の奮闘表彰して以て後進子弟の模範と爲すべきに非ずや然り明正氏は一和船の船頭たるに過ぎず敢て文字を解するにあらずして今日の成効を博し得たるもの克己堅忍精勵奮闘の結果たらずんは非ず眞に傳ふべきなり氏石川縣の人明治の初年より回船業に従事し自ら船主船頭と爲つて各地の積取に従事し一葉の細舟怒濤を蹶て北陸本道間を航し年々の收利少なからずして多年の辛酸優に一家を爲すに足る乃ち船を棄て居を美國郡船淵に卜し土木建築受負業を開始す氏が多年海上にて練磨したる大膽と任侠苟くも屈せざるの意氣とは部下使用者の心服となり外地方人士の信頼となり事業盛大を來し美國一郡古平全郡の學校新築校舍一として氏の受負にならざるなきの一事如何に氏の信用厚きかを知るに足らん殊に氏の任侠なる土地の利益をのみ計つて毫も一身の利を顧みず時に受負價額の損失を來すを豫知するも土地の利益の爲めには些の懈怠なく竣工を誤らず四十年より傍ら建網を経して綽々たる餘力を示し經營盡く其の宜しきを得氏の如きは多能にして任侠而して奮闘的成効家と可謂也。

田村牧場ノ一部



田村徳太郎邸



●田村徳太郎氏(美國船測村)

美國地方漁業家多しと雖も其の漁夫を使役するに歡待を極め否な管に歡待なるのみならず漁期中の獎勵に終漁後に於ける慰勞に是等を畫して到らざるなき田村氏の如きは少なし蓋し氏は克く漁業經營の本旨を解するの人漁夫に對し相當の途を講ずるは漁夫をして安んじて其の業に従はしむる所以たり漁夫豈に心なからんや之を酷使するは漁業經營の本旨を解せざるの徒此の如き徒須らく田村氏に鑑みて省る處なからざる可らず田村氏は青森の人民の先代夙に美國の漁利を認め移住之を經營してより幾十年の辛勞遂に嚴たる基礎を樹つ氏又先代の辛勞を忘れず經營に銳意し美國に建網を経する以外利尻の地にも建網を経し兩々相俟て年々の收利少なからざるも炯眼なる氏は更に漁業の前途を遠觀し副業經營の等閑視すべからざるを了し志を收蓄業に寄せ銳意同事業の進捗を期しつゝ目下其計畫中なり氏は馬匹改良に興味と意見とを有し現に四頭の雜種馬を飼育し是を土臺と爲して蕃殖を計らん意志なりと本道は帝國の驥北の野名馬良馬夥しと雖も之を飼育し之を改良せんとするの篤志家なくんは良馬遂に跡を絶たんなり吾人は田村氏の漁業家の出を以てして馬匹改良に熱心なるを謝し且つ祝さずんは非ず。

●福井平助氏(美國船測村)

福井氏は美國地方漁業界の一異彩として知らる其の人を容るゝの度量城府を設けざるの態度而して寛好の長者克く人を救ひ他を助くるに於いて漁業界の人傑として推重せらるゝ由來偶然にあらざるなり吾人は漁業界に於ける寛好の長者を推すものなり所謂鯨取りなる名稱親方なる俗稱に甘じつゝある多くの漁業者間福井氏の如き寛好の長者ある真に一種の異彩ならずや漁業家必ずしも鯨取りなる罵名に甘んせざるを得ざる人士のみにあらざるを是を氏に見ずや福井氏は青森今津村の産先考平助氏夙に美國の地に漁業を経し備に辛酸を嘗め難苦に堪え經營慘憺遂に一家百年の基を樹つ然れども先考の没する時氏年齒僅に十五歳一家主宰の重任如何あらんとは世の都ての危惧なりしも英邁なるの氏巍然屈せず若々家事を宰し漁業を経せしかば知ると知らざるを別たす驚嘆せざるものなかりしと云ふ氏今や美國に三統禮文島神崎村に四統を経し別に帆船を所有し海産物の積取り并に回運業に従事せしめ氏の周到なる經營着々効を奉し年々の收利少なからず遂に有數なる資産家たる今日を來せり噫年齒僅に十五歳の身を以てして父業を踏襲し拮据經營産を爲し名を成し家門の榮を來す福井氏は是れ尋常人にあらざる也。



●山田惣太郎氏(英國小泊村)

美國の地是れ漁業地所謂有志家なるもの少なからずと雖も多くは是れ雜薄なる漁業家のみにして往々事理に暗く一問題起る毎に徒に紛擾をのみ是れ事として明快なる理裁に缺く此の間山田氏の明晰なる頭腦豊富なる學殖と加ふるに忠實至誠なる熱心とを以てして或は指導者と成り或は有志の顧問と成り村治町治の圓滿を援け自治の發達に貢獻したるの功眞に没す可らざるものありて存す美國人士の氏を推讓し其の語に聞く故ありと云つべきなり山田氏は陸奥弘前の人少壯官海出身を爲し警部に任せられ令名青森に知らる後ち戸長に轉せしも考ふる處あり官を辭して本道に航し美國水産組合書記を拜す時に明治廿一年たり自來氏其の職に銳意し大に漁業家の信頼を博し名聲を知らる後ち推されて總代人に選ばれ村治公事に盡瘁し席暖なるに暇なし郡民益々氏の忠實至誠に服し一級町村制の施行せらるゝや氏を推して町會議員候補者たらしめ大多數を以て當選し現に其の職にあり傍ら學務委員に選ばれ郡教育の普及發達に力を盡ぎ名聲更に高し氏年齒六十一歳尋常人たらんには老年漸やく世事に遠ざからんを期するも氏の精力老て益々熾んに孜々として町治に盡瘁す美國の地山田氏あり意を強ふするもの吾人等のみならんや。

●海田綱太郎氏(英國船淵村)

曾子遊俠産を治めず郷黨之と伍するを欲せず蛇蝎視して曰く曾子は床上に瞑せざるの徒と曾子翻然山東に走り買を打し利を算する多年巨資を携へて郷關に歸る儀容堂々郷黨仰き見るもの一人なし遊俠篇の一部移し來つて之を海田氏の身上に拉す聊か肯綮を失するとするも其の遊俠子より翻然として成効したるは乃ち一ならずや海田氏は廣島縣蘆田郡福相村の産幼時家庭に於ける繼母の虐待は氣骨稜々銳滿々たる氏と合はず家庭の波瀾は遂に氏をして家を捨てしめ自暴自棄の極は腕力あるまゝ氏をして博徒の群に投せしめたり其の膂力其の膽氣忽ちにして崩然群を抜き重を一群の博徒間に爲し郡民に畏怖せられたるも二十二歳翻然として悟る處あり過去處世の誤れるを嘆し農夫と爲つて地を耕さんるを期し農耕に従ふ多年去れと不幸經營意の如くならず氏慨然思へらく等しく農耕に従ふ寧ろ北海の新天地に子孫百年の基を開かんと美國の地に渡航せしも地味礪確農耕に通せず氏更に計畫を變じ牧場經營を爲さんとし明治三十年今の大澤に牧場地六十二萬坪の貸下を受け七ヶ年計畫の許着々之を經營し今や良牛六十頭良馬十餘頭を有し別に農耕地七町歩を成墾し益々之が擴張を計りつゝありと云ふ可謂遊俠子終りありと偉なる哉。



●福井重次郎氏

(美國郡 船淵村)

福井家は美國に於る老漁業家たり家祖陸奥國東津輕郡平館村に出で今より三代前本道に航し天保四年の頃己に古平に於て漁業に従事したりと云ふ以て其如何に古きかを知るに足らん明治十九年氏の考重次郎氏家を擧げて美國郡船淵村に轉じ依然漁業を経す重次郎氏人と爲り勤儉にして力行克く父を援けて經營に銳意し次第に産を治め一資苟くもせず家道の隆盛を圖り遂に十餘萬圓を以て推さるゝ資産家たるを贏ち得たり氏又力を村治に盡し村會議員より更に町會議員に擧げられ令名噴々たり。

練肥料製造販賣

美國郡船淵村

メ 福井重次郎

●荒木友吉氏

(美國郡 小泊村)

美國の地富豪多し而かも其の屈指の資産家を間は、何人も荒木家水口家を推さるるなし知るべし荒木家の美國地方屈指の資産家なるを先代友吉氏明治九年美國村戸長として赴任し漁業經營の志を抱き官を辭して漁業に従事してより幾多の辛勞に堪え勞苦と戦ひ次第に其の基礎を堅め基礎成るも身を奉ずる勤儉所謂練取根生なく着々産を治め遂に數十萬圓を算する今日の資産を成せり明治四十年病没後現代友吉氏家を繼ぎ克く先考の教を守て家道を改めず其堅忍なる意志何人も氏の將來に囑自せざるなし。

練肥料製造販賣

美國町大字小泊村

荒木友吉



●高畑道賢氏(美國郡 船淵村)

美國地方醫師少なからずと雖も、其老熟せる手腕驗診を以て名聲を傳へらるゝを高畑氏と爲す氏福島縣の人夙に醫學を研鑽し東京佐藤順天堂に於て見學を積む明治九年開拓使に聘せられ古平病院長に任せらる後ち樺太轉勤を命せられ更に亦歸道し其の美國に獨立開業せしは明治二十三年たり自來美國の地に住して公衆衛生の發達に盡し其老熟せる實驗其巧妙なる診断大に地方人士の信頼を博し老來六十五歳鏗鏘として信用益々高く若手の開業醫一人比肩し得るものなし高畑氏又刀圭界の一傑士と謂つべき也。



高畑道賢君

●網本市五郎氏(美國郡 船淵村)

少壯身を一行商より挺して四十年の健闘贏ち得たり資産十萬金網本氏成効の跡も又偉なる哉氏越後國刈羽郡宮川町の人年齒僅に十三歳本道江差に航し商店に商業見習を爲す五ヶ年十八歳少資を以て製網の行商を企て行く々々各地を跋渉して美國に來り遂に足を留め各地を行商する前後十有餘年明治三十五年網糸米穀雜貨荒物店を開始してより其の熱心なる營業は忽ち地方の信用を博し網本商店と云はゞ精品を安價に販賣するものとして知らざるものなきの今日を來せり網本氏眞に處世上の傑士なるかな。

米穀 海産 荒物  
自家越後製 漁網  
漁糸 岩糸 綿糸

美國町大字船淵村

網本商店

店主 網本市五郎

電署(ツナ)又ハ(ツ)





●古山勘次郎氏(美國郡)

古山氏は美國郡幌武意の漁業家其の新進氣鋭なる美國將來の有力家として何人も氏の前途に矚目せざるなし氏の先考七太郎氏幼にして勇邁年齒僅に九歳明治九年の春父に伴はれて本道に航し父を援けて漁業に従事し父子協力漁業に盡瘁する多年而かも打ち續く年々の不漁は數奇なる運命をのみ齎らして先考等父子に幸いせず先考の苦心焦慮眞に言語に絶するものありしと云ふ斯くして悲運は尙ほ去らず先考の父七郎氏明治二十三年古山家の貧窶其の極に達しつゝあるの間不幸病て又起らず先考七太郎氏赤貧中父を亡ひ志益々堅く意氣更に慨然奮て漁業を経し志を達せざれば唯だ死あるのみと爲す偶々山大襲來し古山家一物を剩さず烏有に歸す尋常人たらんには茫然津に迷ふて爲すを知らざるべきも氏の先考毫も挫折せず更に奮て漁業を経す其堅忍其奮闘天いかで顧覽せざらんや一度大漁を來してより年々の大漁は遂に古山家の家礎を堅ふし明治二十七八年の交已に嶄然頭角を顯はし江湖七太郎氏の奮闘的成效を稱して模範人士と爲す勘次郎氏斯る堅忍家を父に仰き教を膝下に聞き其衣鉢を受く先考没後家事を宰する質素を主とし己を奉ずる勤儉克く衆に先ち其範を示す世の氏の將來に矚目する偶然にあらざる也。



古山勘次郎君



●熊木常三郎氏 (美國郡 厚苔村)

熊木氏は美國郡中に於ける新進の若手として知らるる否な管に新進家として知らる



熊木常三郎君

吾人は又氏の經營の才に服するものなり居村に於ける經營以外遠く樺太の地に漁業を經營し年々の收利少なしとせず誰れか氏の將來に刮目せざらんや。

るのみならず其の稜々たる俠骨他の急を救ひ財を散して吝まざるの意氣は確に現代の珍と爲すべきなり去れば吾人は漁業家としての熊木氏よりは寧ろ義俠家としての熊木氏を見んとするものなり氏の新進を以てして義俠なる確に美國郡中の清涼劑たらずんは非ず而して

●笹森友吉氏

(美國郡 船洲村)

美國郡船洲村に清洒たる一旗亭あり地方紳士の眷顧篤く俱樂部として何人も足を入れざるなし亭は笹森氏の經營する處たり氏青森縣弘前の人明治の初年に本道福山に航し更に小樽に出て新地町に旗亭を營みしも失敗し明治十四年美國に赴き林重助氏に仕を求む其の卒直眞摯なる生行は大に土地有志に愛せられ十八年船洲の地に旗亭を營でより次第に繁榮し二十九年有志の賛成を得て洋館二階建の俱樂部を新築し美國地方紳士の交遊所として將た清洒なる娛樂場として益々其の般賑を來しつゝあり。



笹森友吉次郎君家庭



●久末 衆太郎氏(美國郡 小泊村)

美國地方に於ける發句の宗匠永雷師を目し殘年を十七文字に樂しむる老翁と爲す勿れ永雷宗匠や是れ久末衆太郎氏明治八年出生てふ若手の新進家なるに至つて誰れが氏の錦心繡腸を羨まざらんや風發する俳論吟すべき俳句此の如き永雷宗匠の東京水産講習所出身の水産學者なるに到つて更に再驚すべきなり久しく町會議員の職にあり一級町村制施行と共に更に又再選せられ現に其の職にあり町會の議論家として知らる美國の山海風光明媚なるの處此の好宗匠を養ひしか抑も久末氏の天才に出つるもの乎。

●大谷 精一氏(美國郡 船淵村)

美國郡船淵村に於ける樺太漁業家大谷精一氏半世の閱歷を聞いて吾人は大谷氏の堅忍自重遂に好く目的を達し立志成效を博し得たる氣力に敬服するものなり氏津輕の人志を本道漁業界に抱き美國に來るや漁業家葛井虎吉氏の帳場に雇はれ自ら其經驗を積むの傍ら勤儉自ら奉じ零細の資一錢の微をも苟くもせず多年の幾辛酸獨立の機熟するや樺太占領と共に同島に航し福井重次郎氏と共同して鱈漁に従事し得る處少なからず一昨年より更に單獨經營を爲し遂に巍然として一家を爲す謂つべし是れ模範的立志家と。

●野村 米次郎氏(美國郡 船淵村)

積丹半島地行旅の士乏しく從て良旅館に缺くものと爲す勿れ美國船淵村に山の旅館あり其の設備の良好にして客室器具の清潔なる其の食膳の衛生的にして美味なる加るに待遇の懇切にして盡さざるなき眞に人をして思はず好旅館たるを呼ばしむるあり館主野村氏一意其の經營に力を盡し諸般文明的設備の足らざらんを恐るゝものゝ如く卒先旅人の待遇に心神を勞するを以て下婢に至るまで皆な好く氏の意を體し一宿したるの士に忘る可らざるの快感を與ふ美國の地此の好旅館あり又以て地方の爲め喜ぶべき也。

●若松 正三郎氏(美國郡 船淵村)

若松正三郎氏は美國郡に於ける一流の海陸物産仲買商たり其の手腕の敏なるに於いて其先見の明に於て加るに氣力の熾なるに於いて一人氏に比肩し得るものなし氏一度彼の有名なる川崎八五郎氏の女を娶つて室と爲してより其新進の銳氣當るべくも非ず日露戰爭に際し從軍を企て進て輸卒を志願して從軍の目的を達し滿州の野を視察したるが如き以て如何に氏の氣銳の人たるやを察知し得べけんなり吾人は若松氏の益々銳氣を鼓して海産界に巨歩せんを祈る氏寔に大成効家たるの素質を有すればなり。



積丹郡





む望をイムカオリよ溥猿



## 積丹郡

積丹半島は、北後志山岳の主軸を爲し南走して内部に延坦し、分水嶺を爲し東西に分水す、地形山岳重疊、海岸は直に断崖を爲し巨巖怪石海に連り、其海岸線は屈曲甚だしく、交通の便至難なるも小樽支廳管内に於ける、由一の鯨好漁地として知名なり積丹郡は本島の最端にありて、沿海線八里十一丁、袤六千三百七十五間、廣八千六百六十六間、面積四千四百八十八萬七千七百三十七坪を算し、東は美蘭郡に境し、南は古宇郡に接し、西北一帯海に面し、入舸、出岬、野塚、日司、余別、來岸、神岬、西川の各村を有し夙に二級町村制を施され、入舸出岬野塚日司四ヶ村を一村と爲し村役場は入舸村にあり、他聖別來岸神岬西川各村を一村と爲し村役場は余別村にあり、漁業の隆西海岸有数の地なり。

思ふに積丹は、アイヌ語シャツクコタンの轉訛し來れるものにして、夏場所の意義たり、是を以て見る、昔時積丹は漁業地として鯨に顯はれずして、夏期の漁業たる鮑海鼠の漁地として知られたるもの、如し、其天明年間、美國、古平、余市が已に鯨好漁地として顯はれたるの時僅に十數戸のアイヌ小屋を敷ふるに過ぎざりしもの、以て其の一般を諒するに足らんか、然れども積丹の地、實に良好なる鮑の名産地たるのみならず、亦余市美國に遜色なき鯨の好漁地たり昔時鯨場として顯はれず、

其の遷發の遅々として他郡に遅れたるもの、同郡に四圍風波險惡濤常に岸を噛み、昔時の幼稚なる漁具漁法を以てしては鯨漁に堪えざりしが爲めに外ならず、彼の有名なり齊藤彦三郎翁の鯨角網を發明し、我が水産界に多大なる貢獻を爲せし導機の、如何にせば風濤難き積丹の地に其潮勢に堪え得るの漁網を得んかにありしの一事、都てを説明して餘りあるに非ずや、始め松前藩臣藤倉八十八の菜邑に屬し、積丹領、又は積丹場所と稱せり、場所受負人は屢々變更し、文化年代以前は知る能はず、同四年岩田金藏受負人となりてより、明治年間に及びたるものにして、年々移住者を招致し、漁民漁業家の土着するもの漸やく多く明治三十年の交より、近年に到るまでの進歩發展見るべきもの存せしも、比年打續ける不漁は、幾多の住民を驅つて他郡の人たらしめんとしつゝあるは眞に惜むべきなり。

斯くの如く積丹の地、昔時より開發遅々たりしと雖も、其の風光の明媚なると史的回顧の趣味とに到つては、他何物も及ぶべきなし、吾人は悲壯なる追分節忍路高島の歌調を耳にする毎に、常に積丹半島を連想するを禁する能はざるものなり、蓋し積丹の盡頭、巨巖羅布、亂石洋中に起伏し、舟行の難、風濤の險惡云ふべくも非ず内に神威岬端を距る約五百間の海中に一大巨巖あり、屹立高さ十四丈餘、其の狀、人の衣冠束帯して起つものの如し、アイヌ以て神坐すと爲し、神威巖と稱し、舟行の際、舟人皆な屏息默禱を以つて小舟の形を造り、米酒を以て神靈に奠し、終りて



之れを海中に投じ無事の通過を祈り、舟行巨巖を通過せば、杯を擧げて相慶し、婦女を伴へば、神靈の怒りに觸れ船必らず覆没するものと爲し、一人婦女を伴ふものなし、幕府の西蝦夷地を再直轄するや、幕吏梨木彌五郎をして此の迷信を打破せしめんとし、婦女を携へて舟行せしめ、以つて其の謂れなきの迷信を破り、自來北後志の地、婦女の移住と共に土着民を來し、以つて開發進歩の基礎を爲せり、神威巖の神罰、何等可憐の史的材料を吾人眞に積丹に對する史的回顧の趣味を禁ずる能はざる也。

之を聞く積丹の地の、今し尙ほ他郡に比し、開發遅々とし、家屋其の他構造設備の劣れるもの、其の原因の地僻にして材木其他大工等の乏しきに依るとは云へ昔時の愛負人岩田時代に於いて、積丹を一の出張場所と爲さん政策より板葺の家屋構造を嚴禁せしに依るものなりと、明治の世に進みて、此の陋習深く住民に深沁し舊に依りて茅屋に安じたるもの、如く、今を去る三十二年前松谷藤吉氏の始めて板葺建築を爲せしを嚆矢と爲すと云ふ従つて其の道路の如き、唯だ自然の成行に放任し何等顧みる處なかりしならん然れとも聖世の餘澤、いかで積丹を見舞はざらんや、年の進むと共に、次第に野塚村を中心として發達し、野塚は積丹全郡の都會として殷賑を來し、戸長役場あり警察分署あり、貨座敷あり、旅亭あり諸般の商家盡く野塚に來集し宛たる殷賑の市街地を爲せしも、不幸明治二十八年の大火、野塚殷賑の街

衢を擧げて烏有に歸せしめしより、惜むべし衰退の幕は次第に野塚を掩ひ加ふるに比年の不漁は更に甚だしき打撃を與へて住民の他村に轉ずるもの多く、過去の都會たりし野塚村、今や戸數僅に六十二戸を算するのみなる一寒村となれり、之に反し余別村は野塚村と反對に、野塚の衰微すると共に、殷賑繁華の雲は余別の天地を見舞ひ、余別は遂に積丹の首府たるに到れり。

余別村は、東、入舸村に接し、西、古宇郡神惠内村に隣し、南古平郡に境し北一帯日本海に面す東西十七里、南北三里、面積一億八千九百九十九萬九千三百四十坪、西川、來岸、余別、神岬の四ヶ村を併せ二級町村制を施行されたるの地にして、戸數四百四十九戸、人口二千九百四人村役場所在地として殷賑繁華全郡に冠たり、村内海拔四千二百餘尺の余別嶽海拔四千尺の積丹岳あり、河流に余別川西海川の二流あり、全村民盡く漁業に従事し、水産物一ヶ年の産額三十萬圓に達するの一事、如何に漁業の盛大なるかを知らん、之に反し農業は別に見るべきの跡なく一ヶ年の産額又僅に一萬五千圓に過ぎず。

一村の經常費六千七百三十餘圓、臨時費一萬六千五百五十餘圓、村民一戸負擔平均額は五圓八十六錢(國稅)十四圓四十二錢(地方稅)十一圓七十二錢(村稅)等にして村有財産として特定備荒財産千四百十四圓餘普通財産(預金有價證券二萬八千七百四十圓餘、土地建物六千三百三十七圓餘、漁業權十七萬圓)を有し二級町村としては富



有なるもの、一に算せられ、村長志水平五郎氏の行政的才幹は、一村自治の主腦者たるを辱めずして、自治の成績良好なるを以て知らる。

余別、來岸、神岬の三ヶ村は有名なる鮑の名産地として知られ、其の産額の豊富なる、乾鮑の良好なる明治十三年の調査に依れば、全郡二百五十石の産額中三村にて百五十石を産し、而かも其の良好なる横濱市場に於いて二等品を下らず時の相場にして、優に二萬圓を算せしと云ふ、斯る鮑の名産地も、鮑の繁殖保護其の宜しきを得ざると、驚くべき濫獲とは遂に鮑を減少せしも四十一年の今日、産額僅に一千圓を算するのみなるは、真に痛嘆すべきの事に屬す、吾人は積丹の名稱を來せし、夏場所の意義を明にせん事の爲めに、大に余別村有志の鮑の蕃殖保護に全力を濫がんと祈るものなり、蓋し鮑を濫獲し此の如き好産地を荒廢に歸せしめしもの、無智の村民只だ其の捕獲の多からんを欲するが爲めなりと雖も、又海中水眼鏡の創作せられたる以來、好貝を濫獲して顧みざるに因る、廳令之を禁じ之を罰すと雖も、遂に寸効なし、吾人は余別有志の大に茲に留意せんを望む。

余別村の夥しき基本財産に富むもの土地有志の賢明なりしに依る勿論と雖も又一面より之を見る、一に之を元老中川倉吉翁の力に歸せざる可らず、翁は積丹の元勳にして、聲望の隆々たる他に匹儔するものなし、翁積丹郡入會漁場の山師輩の唾涎する處となり、之が漁業許可權を得て、一攫千金の奇利を博さんとして官邊に運

動するもの多く、之れが爲め土地有志は之を防遏せんとして、無益の奔走を爲さざるを得ず、幸にして當局克く土地有志の陳情を容れ、山師輩に蹂躪せらるゝ事なかりしも、思へらく是れ畢竟するに入會漁場あるが爲めなり、若かず之を一村の基本財産と爲さんにはと、乃ち奮然起つて、其の目的貫徹を期し時の道廳事務官法學士中川健三氏を訪ひ、語るに既往に於ける、幾多山師輩の運動を以てし、斯る状態を以てして、若し之等山師輩の運動効を奏したらんには、事、一郡の興廢に關す、加るに積丹の土地たる豊漁不漁の差甚だしく、一村疲憊し道路の開鑿に、學校の新築に、幾多設備すべき問題あるも、村民其の負擔力に堪えずして、基本財産構成の要あり、冀くは入會漁場を變更し、一村の基本財産として建網許可の議を決して、村民を安意せしめんを祈ると、翁の慨切なる意氣、道理ある言議は、大に中川事務官を動し中川氏の同情は之を長官に懇へ、廳議に於ける説明となり、遂に基本財産として許可するの廳議決せしかば、翁踴躍更に時の支廳長森重毅氏を説き、余別村は茲に建網二十ヶ統の權利を受くるに到れり、時に明治三十八年十二月たり、斯くして許可せられたる二十統は、競争入札を以て、三ヶ年を一期とし、之を貸與する事となりしかば、一ヶ年優に一萬圓以上の使用料は基本財産として、町村に編入せらるゝを以て、町村は茲に豊富なる財産を得たるの結果、高等小學校は新に建築せられ西川余別間の道路は開鑿せられ、垣々砥の如き道路以て人車を牽くに足るの現状



を來し、教育に交通に至大なる利益を見るに到れり、若し夫れ今數年を経過せば基  
本財産より生ずる利金を以て、町村費を支辨するを得べく、村民は其の負擔を免る  
を得ん乎、余別の斯くの如き狀勢の許にありて、更に尙ほ古宇郡に通ずる道路の  
開鑿を決し本年度之れが調査を爲すに決せしが如き、一に中川翁の力に依るもの  
にして、翁や是れ積丹に對するの恩人、翁眞に傳ふべき也。

農業は殆んど見るに足るの跡なく、明治十七年五月廣島縣移住團體として井上幸  
助大午嘉吉外十七名一戸一萬坪の附與を受け余別町役場奥を距る十數町に移住し、  
同十八九年の交同縣移民二十八戸野塚村に移住し、農業に従事せしも、地味の確  
なると、瘠土なるとは、開鑿容易ならず、去れど内地農村の如く星を載き月を踏む  
の勤勉心あらんには、成効必ずしも難事と爲さずと雖も、地や是れ漁業地、傍らに  
一攫千金の漁業を見る、粒々辛苦の農耕に従事して少許の利に甘んせんよりは、寧  
ろ漁業を營んで利運を試むるに若すと爲し、各自所有財産を擧げて漁業に従事せし  
の結果、農民にして何んすれぞ漁業に成効するを得んや、多くは皆な失敗に終りて  
再び起つの力なく、止むなく歸國するあり、甚だしきは一家飛散の悲運に見舞はる  
ゝ等、何等農耕に資し得るなし、是れ積丹地方に農業の發達せざりし最大原因たり、  
現に野塚に於ける國民中、其の精勵を以て成効したる天方利助、和立久吉の如きあ  
り、余別の地に正田幾次郎あるより見る、農事必ずしも全然見込なきに非ず、漁業

地と農業兩立眞に難い哉、去れど近時漁業家にして植樹事業に矚目するもの多く、  
落葉松を植ゆるもの多きは數十萬本、少なきも尙ほ數萬坪を植樹しつゝあるは、喜  
ぶべきの現象と云はざるを得ず、牧場は唯一來岸の秋元徳三郎氏の經營せる四十萬  
坪の牧場存するのみ、同場は明治三十九年よりの經營に成り、桑折順治氏其の衝に  
當り成績良好なりと云ふ。

郵便局は余別にあり始め、野塚郵便局の管轄として、明治三十三年八月一日郵便  
受取所新設さる、是れ余別地方に郵便局を見し嚆矢たり、三十六年十二月電信受取  
所又設けられ、三十九年現時の郵便電信局を設置され以て今日に及ぶ、局長は本間  
熊次郎氏令名あり、其四十年郵便事務を見るに、郵便引受數九萬六千四百五十六  
通配達數十二萬九千三百四十五通電報發信六千九百九十六通、着信五千六百七十四通  
等なり。







中川倉吉君

◎中川倉吉氏(積丹郡 來岸村)

人生僅か五十年世に處して又僅に二十五年處世の難苦と闘て成効し地方に於ける元勳と稱せられ元老と推され衆庶の尊敬を受く尋常人にして豈に此の如きを得んや超凡の意氣絶群の人格而して稜々たる俠骨手腕なくんば聲譽元勳と仰がるゝを得ざるなり中川翁は積丹半島地の元勳にして元老なり半島地幾多の人士に富むと雖も其の名聲の噴々たる其の功勞の顯著なるに於いて一人中川翁に比肩し得る者なし翁や眞に半島地の元老なり然して其閱歷の如何に辛酸を極め難苦を來したる者なるかを見よ然り元老中川翁の前身を云ふ翁や積丹山吉漁場の一漁夫たるに過ぎず渺なる一漁夫赤裸々たる一漁夫朝に怒濤と戦ひ夕べに漁業に盡す一漁夫たりしに過ぎざりし境遇より身を挺して今日の成効を來す翁の偉大なる處爰にあり中川翁は佐渡吉岡村の産少壯夙に志を本道の形勢に寄せ慶應元年幕吏井上肥前守に従ひ樺太に航す翁や當時一人夫として渡樺したるに過ぎずと雖も炯眼克く樺太の形勢を視察す翁の樺太通なるもの實に當時の視察に胚胎すと會津征討軍の起る翁時に新潟の地に在り奮然蹶起人夫五十人長として征討軍に従ひ後方勤務に盡す處あり後ち幕末の義將榎本武揚氏等の函館に逃れ來り五稜廓に立籠るや翁函館の地にありて其稜々たる俠骨深く是等義烈の士の心事に同情し微力を以てして應援する處少なからざりしと云ふ斯く

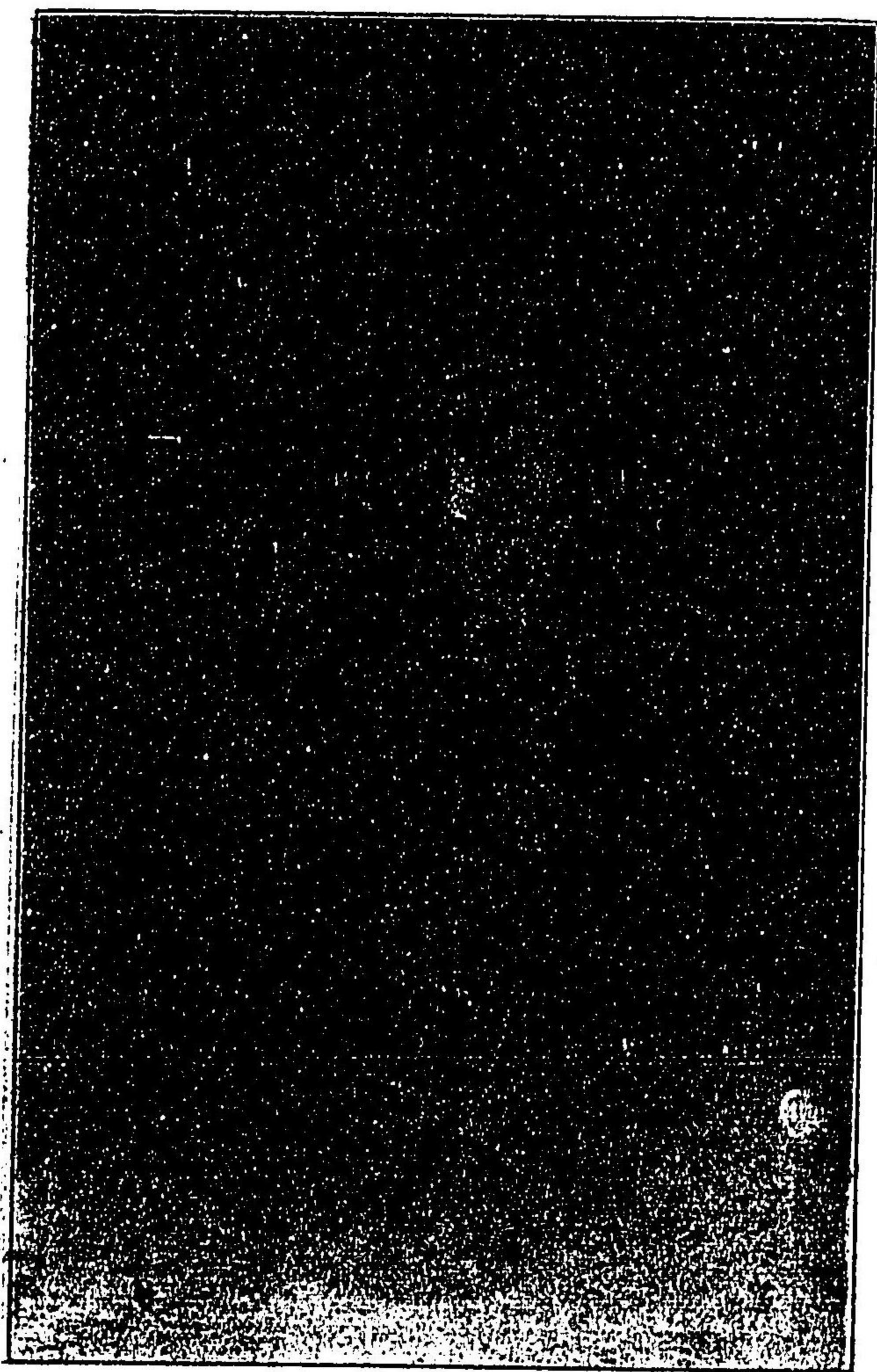


して翁は明治も四年となれる時一漁夫として積丹の地に赴けり徒手空拳何物を携ふるに非ず友として恃む處は唯だ双腕の符力のみ而かも氏や孜々として勵み汲々として力め零細の資を苟くもせず一粒の微も之を貯へ辛勞多年遂に獨立漁業を經し得るに到つて氏の眞面目は益々發揮せり唯だ是れ精勵唯だ是れ堅忍而して氏立脚の基礎は着々として築かれ明治十七年總代人に選はるゝに到れり二十年五月積丹水産物營業人組合收稅委員を命せられ二十二年來岸村墜道開鑿費に六十圓を寄せて木杯を下賜せられ二十七年赤十字社に二百金を寄せて特別社員に列せらる其の積丹の般賑を來すは道路を開鑿し交通を至便にするにあるを唱導して來岸西川間の道路開鑿の急を叫び村民の逡巡するを督勵し卒先一千金を寄せて遂に其の工を完ふしたるが如き將た町村基本財産を購求せんか爲め道廳を説き支廳を動かし熱心其の衝に當り首尾好く其の目的を達し入會漁場二ヶ村を余別町村基本財産と爲したるか如き中川氏にあらずんば能はざる處令息源吉氏新進氣鋭の身を以てして克く父業を補け家政を整理し氏をして後顧の憂へなからしむ氏や悠々殘年を堂に養ひつゝ依然として鏗鏘たる半島地の爲め可慶也。



故先代村田喜三郎氏





村田喜三郎君

◎村田喜三郎氏(積丹郡 來岸村)

守成の難きは創業の難きよりも難し是れ英雄豪傑の士の偉業多くは一代に留り人をして王侯將相豈に種あらんやを叫ばしむるの所以にして俗間又賣家と唐様に書く三代目の諺ある所以なり蓋し祖宗粒々の辛苦産を興し餘威今日の樂境あるを悟らずして悠々逸樂是れ事とし又祖宗の辛酸を顧みず斯くして産を傾け家を破り嘲笑を江湖に買ふ者多き寔に守成の難きを事實の上に語る者にして又連綿たる富豪の多からざる所以茲に存せずんばあらず一代にして産を爲すもの何んぞ限らんや其の克く守成の難きに成効したるに於て初めて傳ふべきなり吾人は村田氏の經營尤も難しと稱せらるゝ三代目に於て家門益々隆盛に名聲愈々高きを見當代喜三郎氏の尋常の材たらざるを知るものなり是を聞く氏の祖父喜三郎氏英邁にして剛氣今を距る八十年前郷里能登國鳳至郡中居村を辭して本道に航し居を福山唐津内に卜して漁業に従事し自來江差に余市に粒々の辛苦零細の資を苟くもせず一度積丹郡來岸の地を相するに及んで永住の地と爲し銳意發展の基を開く經營の勞辛酸の苦加ふるに其克己黽勉なる遂に子孫百年の基礎を立て經營實に五十年八十二歳の高齡を以て没す嗣子喜三郎氏家を襲ふに當て能く先考の志を辱めず加ふるに偉才守成の任に堪ゆるの器又世の毀譽褒貶を顧みずして漁業に銳意し殊に其理財に長ずるの才貨殖に巧に一代好く五

小樽區外七郡案内



十萬金に達するの家産を興し嚴たる村田氏を爲せり是れ豈に驚くべきの成効ならずや假令世上の毀譽褒貶を顧みざりしとは云へ超凡の偉才と絶群の思慮となくんば豈に此驚くべきの成効を來すを得んや氏己に嚴たる家産を爲すや深く積丹地方の道路崎嶇として交通の不便なるを嘆じ卒先汽船會社を起し汽船を購入し積丹半島各地對小樽港との航路を開く積丹汽船會社乃ち是れなり又力を村治に盡し改選毎に總代人に擧げられ孜孜として盡瘁怠りなかりしも齡六十歳を以て永眠し晩年の抱負多くは施すなくして逝けり現代喜三郎氏明治卅九年家を承ぐ英傑此の如き父の許に生長したるの氏己に池中の物にあらざるなり能く時代の推移を悟り新智識に富み尤も守成の難きを以て知らるゝ三代目を繼承して施設一も過たず先づ二萬五千圓の資本たる積丹汽船會社を一手に了して自家獨占の營業と爲し全力を公共事業に濺ぎ苟くも事の村治に貢献し公益に關する限り出資寄附人後に落すして克く富豪たるの天職を盡し世人氏と秋元氏を併稱して積丹の双壁と爲す氏今や村會議員として錚々の名を博し仕込漁場七ヶ所直營二ヶ所を有して居村一人氏の勢名を仰がざるなし欽仰すべき哉。



秋元徳三郎君

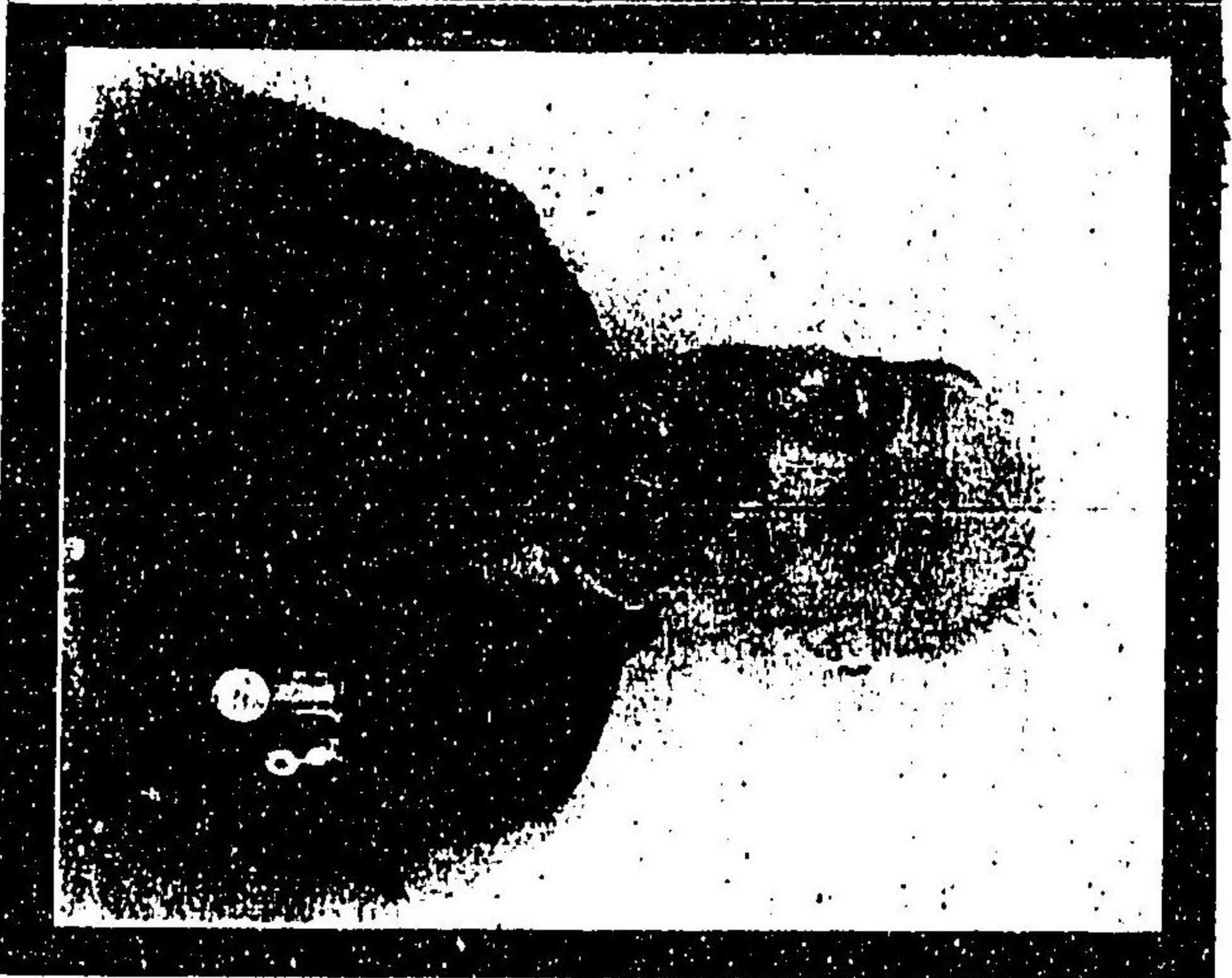


●秋元徳三郎君(積丹編 來岸村)

積丹の地や地僻なりと雖も多く有数の人材に富む元老として重せらるゝあり新進家を以て目せらるゝあり各々雄を稱し覇を唱ふ秋元氏は資産を以て知らるゝのみならず新智識に富む兼ねて又議論家として重せられ積丹一方の雄たり蓋し氏の新進の教育を受け豊富なる學殖を以て町村の村治に盡し力を公共事業に盡くの一事業をして名聲今日を來さしめたるもの然り秋元氏は積丹の重鎮なり氏津輕の人明治三年を以て北津輕郡小泊に生る幼にして穎悟村優を出つるや青森に出で進んで同地中學校に入り其の業を卒ゆ秋元氏たる代々漁業を業とし五代以前より古平郡群來村に漁業を經し嚴たる漁業家たり氏中學を出るや直に群來村に來住して漁業を督し精勵甚た力む其の稜々たる氣骨誇々たる論議早くも地方人士の推重する處となり壯齡二十二歳を以てして古平漁業組合頭取に推されたるの一事以て氏の人となりを知るべきなり而かも不幸同地の漁業漸やく望みなきに到るや居を積丹郡來岸村に轉じ五ヶ村を經し村會議員に選ばれ以て今日に及ぶ氏積丹の地の不毛にして農耕に適せざるを知り牧場を經して範を他に示さん为期し四十萬坪の貸下を受け牛馬を飼育しつゝあり眞に有爲の人材と謂つべきなり。



君衛兵小田須



君門衛左小田須故



●須田小左衛門氏(積丹郡 來岸村)

積丹の地を踏むの士にして須田家の名聲を耳にせざるものなかるべく否な積丹の名を知つて須田家知らざるはなけん噫本道漁業界の名士須田小左衛門氏は明治四十年二月を以て白玉樓中の人となりしも聲名や赫々として千載を照らし功や不朽に傳へられて後人皆な其の威を仰ぐ偉なる哉小左衛門氏若し夫れ小左衛門氏の本道漁業の發達に貢獻し樺太漁業に盡したるの功と勞とを編せんか尤大なる書冊尙ほ其の詳を傳するに遺憾多かるべし徳川幕府時代より本道漁業の發達に盡し五十年一日の如き小左衛門氏之を本道漁業界に求めて獨り氏あるのみにして他匹儔を見ず況んや力を積丹半島の發達に盡し其の功勞の獨り漁業界のみならざるに於いて須田家の名聲積丹半島と共に盡くるなき真に偶然たらざるなり小左衛門氏は此の如き名士小左衛門氏の嗣子なり明治八年を以て生れ先考の衣鉢を承きて經營一も過たず先考没後益々銳意家門を辱めざらんを期し來岸の地に漁業を督して名聲高く町村制施行と共に村會議員に選舉せられて村治に貢獻し餘力を公共事業に濺ぎ少壯有爲の人士とし云は、何人も劈頭先づ指を氏に屈せざるなし斯の父にして此の子ありと云ふもの夫れ氏の謂ひ乎切に其の自重自愛を祈らざるを得ず。

●飯田喜代作氏(積丹郡 來岸村)

父祖三代漁業を經し遂に大成名聲を馳す飯田氏守成の大才又偉ならずや喜代作氏渡島刺上磯郡木古内村の産先代夙に漁業を經し積丹來岸の地に渺たる刺網を營む次第に經營の歩を進め氏の先考重松氏に到り明治八年建網を經するに至る自來着々大成し明治十九年喜代作氏家督を承ぐに至つて一層の隆を來し今日に及ぶ別に刺網を郷地上磯に營み更に山林事業に力を注ぎ明治廿七年の交より一層事業を擴張し年



飯田喜代作君

々落葉松三萬本を殖樹して其の大成を期しつゝあり守成の天才に加ふるに此の焔眼あり氏の人格想見に堪へたり。





田中保次郎氏

田中保次郎氏

●田中保次郎氏(積丹郡余別村)

積丹郡余別の元老として一流の紳士として一人田中氏の功名を仰がざるなし蓋し田中氏や能く富豪たるの天職を解し博愛衆に接し慈善好く世に處するのみならず明敏の識俊邁の慨公益を計つて已れあるを知らず是れ田中氏が一流の紳士として仰かれ元老として推さるゝの所以他學で企及すべからざる處に屬す先考金作氏渡島上磯郡泉澤村の出夙に志を漁業に寄せ今を去る五十三年前積丹半島の漁利に豊富なるを看破し地を神岬の村に相し鯨刺網に従事す微より細に入り網より小を積み漸を以て經營し備に辛酸を嘗めて家礎を立つ保次郎氏二十七歳の壯齡を以て家督を承ぐや奮勵父の志を大成せんを期し辛酸勞苦一日の安を思はざる多年天稟の明達は一も經營に違算を來さずして年と共に産を興し遂に建網三統を直營し他三ヶ所の漁場に仕込を爲すの現在を來せり令聞たけ子賢にして達能く内助の勞に堪へ氏をして後顧の憂なく奮闘せしめ氏今日の成功令聞に負ふ處尠ならずと云ふ氏方を村治に盡す十有餘年一日の如く總代人時代より町村制施かれ村會議員たる今日に至るまで操守變せず一村の元老元勳として仰がる其赤十字事業に三百金を献して終身社員たるが如き以て田中氏の風采を察知すべきなり偉なる哉田中氏や。





野口善四郎君

●野口善四郎氏(積丹郡余別村)

赤裸々の身一代にして産を興す廿萬圓野口氏や眞に是れ傑中の傑危道を辿れるに非ず權道を衝ひたるに非ず正道を踏み一代克く斯くの如きの成効を贏ち得野口氏や是れ立志傳中の人氏寔に表彰すべきなり氏佐渡赤泊村大字三河の産家代々農を營む氏幼にして穎悟農耕を欲せず十五歳奮然本道に航し北門の別天地に飛躍せんを期す足を江差に留め竹郡荒物商店に入りて商機を習ふ三星霜更に志を漁業界に抱きしも經營意と伴はず去て小樽に出で金曇町松澤吳服店に入り吳服行商に従事す身心を勞し各地に行商を試むる十ヶ年明治十八年積丹半島將來の發達を相し居を余別の地にトし吳服太物商店を開く是れ野口氏の今日を來せし端緒たりしなり自來着々經營の歩を進め吳服商に兼るに金物業を以てし更に雜貨荒物類を経す其一ヶ年の販賣額一萬金を算するの一事以て隆盛の一般を察すべきなり嗣子善五氏夙に慶應義塾に學び新智識を抱いて家業を援け隆更に一層を加ふ善四郎氏別に子孫百年の大計を立て十ヶ年計畫を以て落葉松を殖樹し一家の基本財産を成さんるを期す其思慮の周到衆庶の學ぶべき範ならずや氏今や村會議員の職に村政に盡瘁し餘力を公共事業に濺ぎて一日の逸樂を欲せず傑中の傑と云ふ偶然に非るなり。





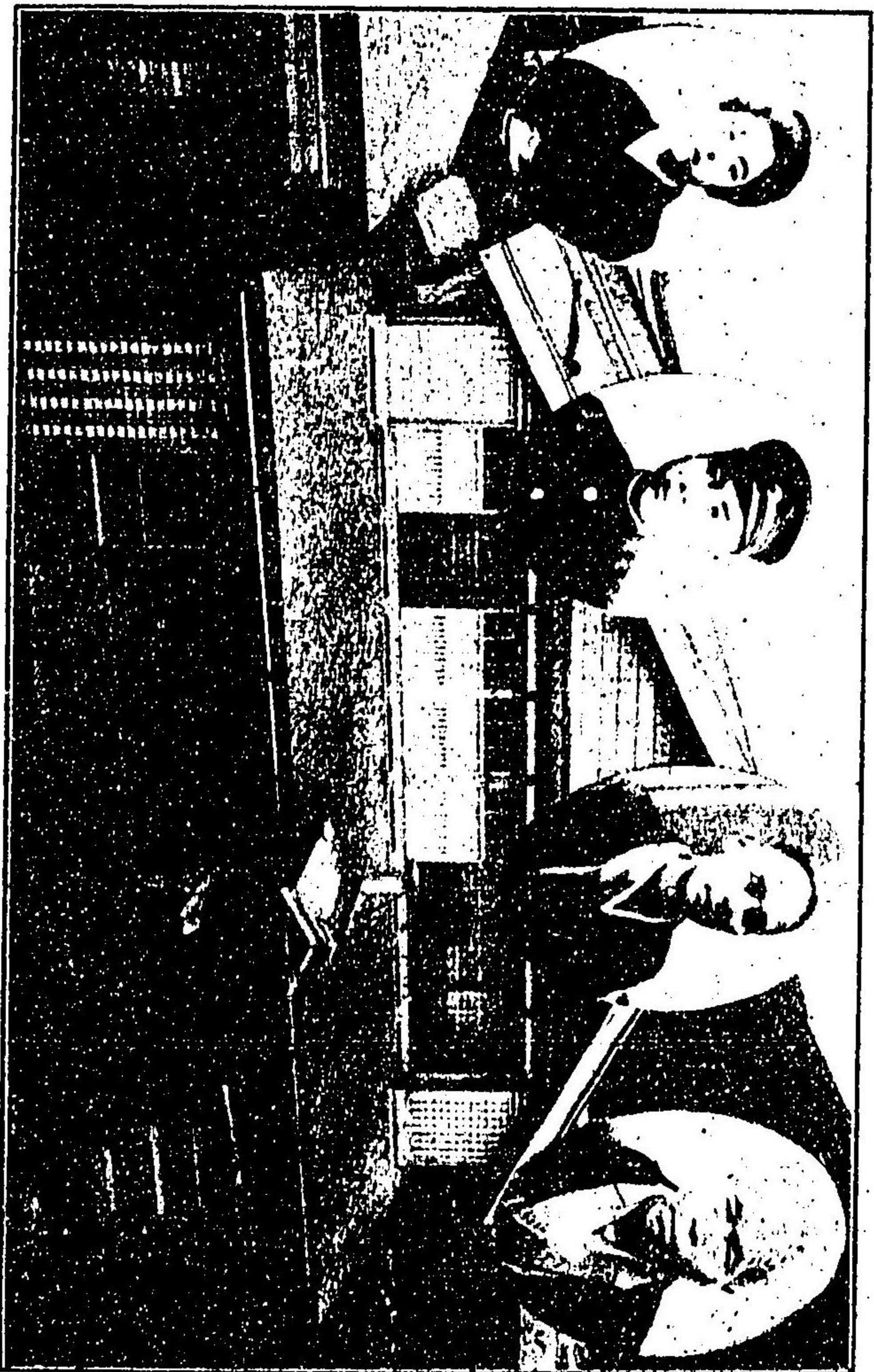
松谷藤吉氏

松谷藤吉氏

●松谷藤吉氏(積丹村)

潑刺たる銳氣當るべからざるの慨加ふるに談論風發識明達氣慨家として議論家として名聲を積丹余洲の地に馳するを松谷藤吉氏と爲す松谷家は渡島上磯郡釜谷村に出づ氏の父彌十郎氏剛氣勇邁身を漁夫の群に投じ今を去る五十年前親しく西海岸各地を跋渉し足を積丹郡野塚の地に留めて漁業に従事す微々たる刺網意の如くならざるに屈せざる二十年塵埃山積巨を爲すの例令に漏れず彌十郎氏の勤儉零細の資を苟くもせざりし力行は明治元年を以て早くも建網を経し得るの機運を來せり彌十郎氏益々銳意經營の歩を進め藤吉氏二十七歳の壯齡を以て家督を繼ぐの當時已に嚴たる家礎を立つ彌十郎氏高齡八十二歳尙ほ鏗鏘として堂に在り意氣壯者に譲らざるの概あるに於いて蓋し稀有と云ふべきなり明治十年居を神岬村に轉じ現今に至るまで三十餘年間藤吉氏一家の重責を双肩に擔ひ建網二統を経するの傍ら身は村會議員に推されて力を村治に盡し謬々の議衆庶に重せらる氏の居宅は積丹隨一の建物にして其の宏壯美觀建築費實に一萬二千金を投せしと云ふ四十一年七月北條侍従本道巡視に際し積丹に赴かれしに當り氏の居宅は休憩所たるの榮譽を擔ひしと云ふ噫父子協力産を興し家を爲す松谷氏や是れ摸範的人士と謂つべき也。





白方與次郎氏と共氏郎

◎白方與次郎氏(積丹郡)

烟眼事業の選擇を誤らずして遂に酒類醸造業に成効す白方氏の手腕又非凡なるかな思ふに一事に成効し一業を成就する堅忍力行に竣つ固よりなりと雖も業務の選擇は其主要事たらずんば非ず白方氏の今日ある其の烟眼の結果にして眞に偉なりと謂つべきなり氏加賀鹽谷の人少壯より航海業に従事し所謂和船の頭梁として屢々本道に航し各地の状況を知る明治十九年六月郷里を辭し積丹郡余別の地を相して居をトし雜貨荒物店を開く氏烟眼早くも余別の地の清酒醸造に適し需要又尠なからざるを漸し二十四年酒醸造業を開始す當時余別の地酒類醸造を業とするもの數戸存せしも競争場裡の角逐盡く氏經營の巧に敵する能はずして閉店し現時遂に氏の獨占に歸す始め百石前後を醸造するに過ぎざりしも現時三百八十石を醸造しつつあるの一事如何に氏業務の發展せしかを知るに足るべし醸造醪酒は北海一と稱し野塚入舸其他小樽方面に販路を有し三十四年十月小樽區外七郡酒類品評會に出品し一等賞を受け又函館に於る北海十一州酒類品評會に於て一等賞木杯一組を授與さるゝ等醇味芳香を以て知らる氏老來已に七十四歳尙ほ力を公事に盡し學校病院神社佛閣の設置一として氏の力を煩さざるなし其勇健眞に驚嘆すべき也。

小樽區外七郡案内





宮本榮次郎君

◎宮本榮次郎氏(積丹郡余別村)

失敗々々又失敗幾度失敗を重ねるも意氣毫も衰へず一敗を経る毎に益々奮起し遂に積丹郡余別の地に成効したる宮本榮次郎氏吾人は氏の精力の人なるを知る氣力主義の人なるを知る否らざれば一敗三敗巍然として屈せず彼岸に成効の壘を贏ち得る能はざればなり舉世滔々薄志弱行の徒多き今日吾人精力主義の上に去嘯する氏を見て眞に意を強ふするものなり宮本氏大分縣宇佐郡の人夙に土木受負業を營み渡道前東京横須賀に於いて鐵道布設工事に従事し嶄然其名を知らる一度青森に於いて鐵道布設工事を受負ひ殆んと又起つ能はざるの失敗を來し遂に一策なきに至る時に明治二十年たり然れども氏の意氣毫も衰へず人間到處有青山を歌ひ人夫三十五名を引卒し本道に航し余市に赴く偶々積丹に漁夫入用の事を耳にし一時の策引卒人夫を漁夫と爲して同地に赴き再び茲に土木受負業を開始し傍ら漁業を経す業の意氣と精力とは忽ち地方人士に知られ古平美國積丹三郡の土木工事にして殆んと氏の手を煩さざるなく業務隆盛を極るに當て不幸氏所有の帆船難破し其辨償の爲め又も家産を蕩盡す再度の大厄氏屈せず依然土木受負業を経し傍ら旅館を營み宮本旅館と稱し以て今日に及ぶ精力主義の宮本氏眞に欽すべき哉。



●本間熊次郎氏(積別丹村)

渺たる小間物行商より身を挺して今日の産を爲す余市郵便局長本間氏や是れ堅忍



本間熊次郎君

力行の人氏佐渡國中村大字船下の産明治八年木綿小間物行商を企て、本道に航してより古平余市美國積丹の各地を行商し十二年來岸の地に呉服店を開きしも失敗し十四年余別に轉じ旅人宿に兼るに古物商を以てし漸やく産を積む二十六年家政を改革して現業を經し隆盛を極む三等郵便局の設置さるゝや氏之が局長に任せられ局舎は新築費一千圓洋館街衢に聳へ余別市街の一美觀たり吾人は氏の堅忍に服し不拔の意氣を敬す。

●神山鐵應師(積別丹村)

神山鐵應師は積別丹村双禪寺の住職にして徳望風化を以て衆庶に尊ばる双禪



神山鐵應君

寺は明治十九年の創立になり先住は風間能忍師寺號公稱當時檀家百戸内外に過ぎざりしも鐵應師現住と爲つてより百七十戸を有するに至れり師始め古平町禪漁寺住職なりしも明治三十二年双禪寺檀家總代にして有名なり中川倉吉翁の推選に因り暢を双禪寺に留めて今日に至る師現住となるや寺院敷地千五百坪畑地千五十坪を新に買収し本堂五十坪餘厨庫八十坪余を建築し徳望一村に高く衆庶師の教化を仰がざるなし偉なりと可謂也。



# 海産物 委托問屋

積舟郡余別村

## 相川平七商店

### ●相川平七氏

(積舟郡余別村)

相川氏は積舟に於ける信用ある海陸物産仲買人たり其の業務の確實にして信頼の篤き幾百石の海産物を委托して一人疑ふものなき其の如何に信用を博する深きかを知るに足るべし平七氏越中國中新川郡の産祖先より代々廻船業を営み鮭鮎其の他の貿易業に従事す平七氏炯眼風に北海の風色を査し海産物仲買の有利なるを看破し明治卅年奮然本道に航し居を積舟余別に卜し斯業に従ふ其の機敏克く商略を按じ精勵巧に商機を算し加るに氏の至誠忠實なる大に江湖の信用を來し沼里氏と併稱せられて仲買の双壁と稱せらる。

(198)

### ●沼里金作氏 (積舟郡余別村)

積舟郡内に於る確實にして信用ある海陸物産委托仲買商を問はゞ何人と雖も指を沼里氏に屈せざるなし然り氏の業務に忠實にして至誠人に許さるゝ同業相川平七氏と併稱せられて双玉の名あり其の如何に幾多漁業家に信用せらるゝかを察知するを得ん氏本據を古平郡古平町に置きて海陸物産委托仲買商に従事し海産物輸出の盛機余別村卅番地に假寓し以て其業に従ひ幾多委托者の利便を圖る多年氏の誠實と精勵とは江湖の信用となり委托者の信頼となり業務年と共に發展し一人業を知らざるなきの現在を來せり。



沼里金作君

(199)





入舸村風景 成田巡査

## 入舸村

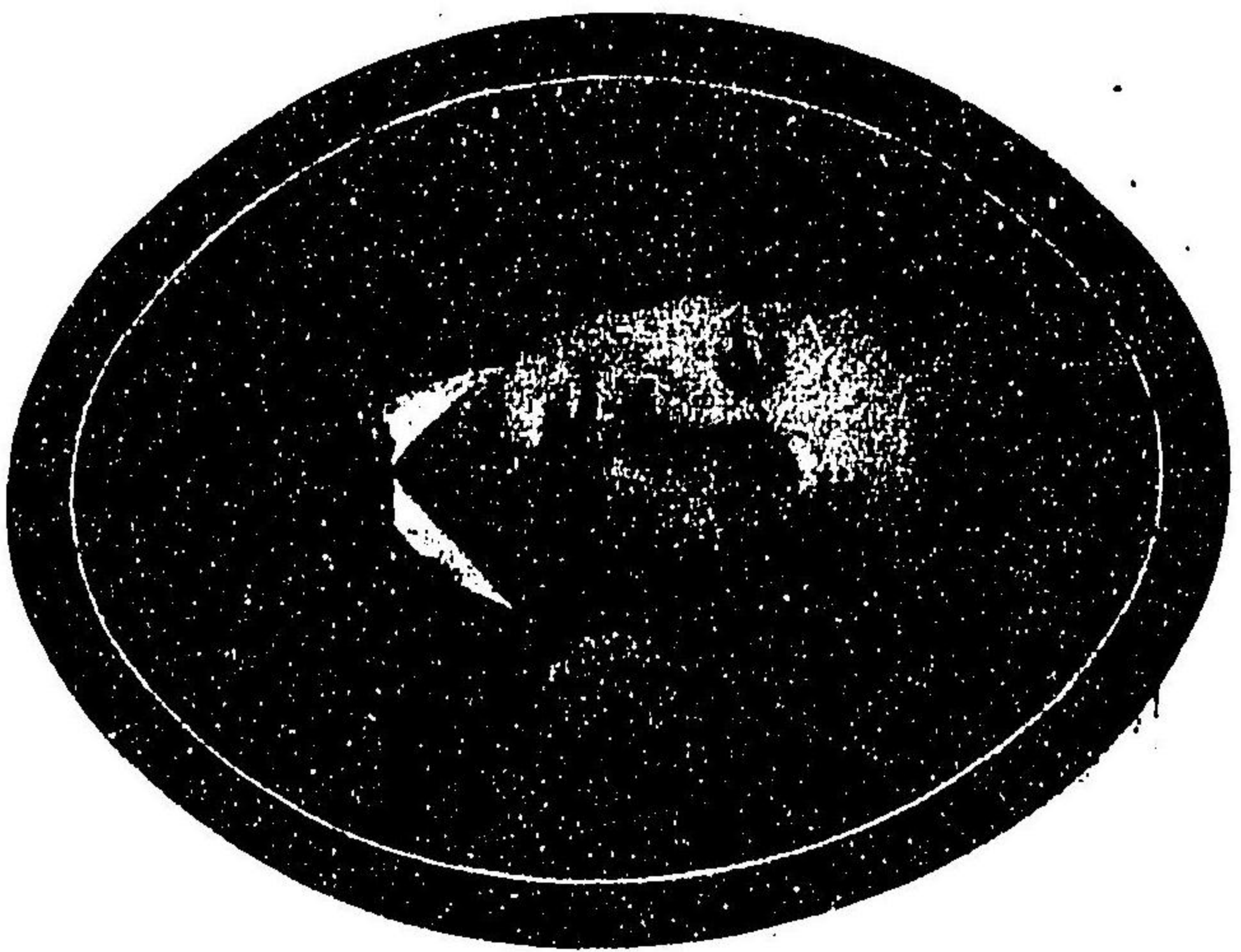
入舸村は、東、幌武意村に接し、南余別村に境し西北一帯海に面す、地域東西二十二町、南北二里十八丁、総面積一方里五丁、戸數三百五十餘戸人口二千一百有餘人一村舉て漁業に従事し、他に特筆するの副事業なく、唯た漁業の豊凶に依りて一村の一盛一衰を來しつゝあり、本村は、固と野塚役場の管轄なりしも三十六年四月二級町村制施行と共に、野塚村役場を廢し、入舸、出岬、日司、野塚の四ヶ村を以て一村と爲し、村役場を本村に設置したるものにして字は、カサトマリ、シユマモイ、ニマンホー岬、クルマツナイ、ホンシンマイ、カマドモリ、トマリ、カイコン、濱中の九字とす。

自治は頗ふる圓滿にして、村長は宇野政吉氏、収入役森田榮忠氏、書記松田近治氏、新苗善太郎氏、山本金次郎氏の諸氏各要部に當りて事務を執り、村會議員は齊藤丈雄氏、川口常五郎氏、曾我若藏氏、長濱己三郎氏、葛西佐之助氏、増田二三吉の六氏たり、經費費は總計五千九百十七圓餘にして内基本財産より二千三百三十五圓餘の収入あり、財産の主なるものは、三十八年十二月入會漁場を村有に許可せら



れたる建場にして、一ケ年の貸與料千九百圓餘を算す、同建場の基本財産たり得しは土地の有力家齊藤丈雄氏等の極力運動せし結果、此の好財産を得たるものなり、他現金三千餘圓、公債、債権千六百圓餘を有す。

入舸町は前記の如く、漁業の豊凶如何に依りて盛衰を來し他何等町村の殷賑を來すの事業なしと雖も、昨年北海道銀行の赤羽氏、小樽の米谷善三郎氏、カサトマリに有望なる金礦を發見し、目下誠掘中にして、其の成績判然せよと雖も、幸にして有望のものなりせば、入舸村の將來は、此の金山の發展に依りて一變すべし、學校は本校を入舸村に、分校を、日司、野塚の二ヶ所に設置す、郵便電信局は入舸村にありて若林氏局長たり。



君 策 丈 藤 齊



君 郎 三 彦 藤 齊





君 雄 丈 藤 齋

● 齋藤丈雄氏 (積丹郡 入舸村)

積丹の地名の存する限り齋藤家の名聲は永久なるべく本道漁業の隆なる限り齋藤家の名は不滅なるべし視よ本道漁業家の使用する鯨角網是れ齋藤丈雄氏の祖父彦三郎氏の創意發明になりし一事を過去幾十年本道漁業家多しと雖も斯くの如き有利有益なる發明を爲したるの士幾干か存する獨り齋藤彦三郎氏あるのみならず彦三郎氏天保二年二月二十日を以て陸奥國北津輕郡脇元村に生る家世々漁業を營む弘化五年歳十六歳初て父に従ひ本道に航し岩内に鯨魚鱈漁に従事する三年更に美國郡に轉じ婦美村字板狩石及び獅々澤に鯨差網を経する七星霜後ち又積丹郡入舸村に轉じ依然として漁業に従事す彦三郎氏爛眼出岬村漁場の有望なるを看破し之を危む父に強請して文久三年遂に出岬の漁場を購入す時に彦三郎氏卅二歳たり爛眼空しからず年々大漁を來し稍や産を爲せしも出岬の漁場海面崎角の尖端に當り四時の風浪潮流と共に急激にして危険甚だしく漁期毎に漁船の轉覆收獲物の放棄相次ぐ彦三郎氏深く之を慨し如何にもして之を防ぐに足るの漁網漁船を發明せんとし苦心之が研鑽に従事す明治十三年美國郡幌武意婦美并に積丹郡野塚に鮭漁に従事し經營五年に亘りしも不幸失敗に歸せり然れども鮭網使用の實驗より始めて角形網を鮭漁に使用するの着想を起し思を凝し想を潜め資金を抛ち苦心研究の結果明治十八年遂に多年の宿望



を達し鯨角網を創意發明して之を完全に使用するを得たり當時同業の多く此の大發明の利益を知らず呼んで無用の長物と爲し嘲笑を以て迎ふ彦三郎氏屈せず自ら船頭の衝に當りて次第に改良し五ヶ年にして好結果を奏するに至り收穫大なるを來すや曩に冷笑したるの同業者羨望に堪へず角網を以て無許可の網なりと爲し漁不漁に拘らず一統二百五十圓の税金を賦課するの決議を爲す彦三郎氏逆はず之に従ひ明治二十三年初て公然の許可を得たり自來角網の好評噴々として全道に響き各漁業家争て氏に結網の指示を乞ふて之を使用するに至り北海道水産共進會積丹漁業組合帝國水産博覽會等より賞狀銀杯有功二等賞等を授與せられて其功を表彰さる彦三郎氏益々奮勵更に布袋形網を創製して漁業界に貢献せんを期し遂に又之が完全を期し其功を完ふせり明治四十年秋七十五歳の高齡を以て死去せらる是れより先き丈雄氏の父丈策氏三十七年十二月を以て病没せられ丈雄氏乃ち家を承ぐ丈雄氏明治六年を以て生れ青森中學校を卒業し現在漁網十一統を經營し嚴として此の名門の跡を辱めず入舸の重鎮として模範的紳士として一人其の威を仰がざるなし名門名士を出す齊藤家の隆想ふべき也。



西佐大郎氏